

327  
978

6 7 8 9 6<sup>cm</sup> 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7<sup>cm</sup>

始



自十一丁  
至二十六丁  
脱丁

昭如沙  
十月十日

東北財務協會編纂

土地測量法

327-978



東北測量協會編纂  
土地測量法

大正  
6. 5. 30  
内交



## 序

輓近、科學ノ進歩ニ伴ヒ、測量ノ術益々精密ノ域ニ進ミツ、アルハ、學界ノ爲メ、洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ。然リト雖、坊間之ヲ講スルモノ、或ハ高遠ニ失シ、或ハ卑近ニ流レ、却テ實務ニ適セサルモノ多ク、世、良書ノ出現ヲ望ム早天ノ雲霓モ管ナラサラントスルヤ尙シ矣。蓋シ土地ノ測量ハ、地積ノ確定、徵租正否ノ根本ニシテ、若シ其ノ方法ニ愆ル所アランカ、權利ノ得喪ニ關涉スル所尠少ナラサレハナリ。

余乏シキヲ仙臺稅務監督局長ニ承ケ、土地測量法ノ未タ一般ニ普及セラレス、當局所期ノ進境ニ至ラサルモノアルヲ認メ、夙ニ當務者ノ便益ヲ圖ランコトヲ企テ、特ニ下僚ニ命シテ「土地測量法」

ヲ編纂セシメ、今ヤ稿全ク成リテ將ニ剞劂ニ付セントス。  
本書、載スル所總テ百八十七項、專ラ簡易ヲ主トシテ、當路ノ實  
務家ニ寄與センコトヲ努メタリト雖、亦必スシモ學理ヲ閑却セス  
且各種測量器ノ運用ヲ解説スル等、惻切丁寧、至ラサル所莫シ。  
本書、素ト縵タル一小冊子ニ過キスト雖、幸ニ江湖ノ指針タルコ  
トヲ得ン乎。研學ノ士ヲ扶ケ、實務家ヲ裨益スル而已ナラス、又  
以テ測量法普及ノ一助タルヘキヲ疑ハス。敢テ本書ノ卷首ニ一言  
シテ、本官ノ所思ヲ明ニススト云爾。

大正六年五月

仙臺稅務監督局長 篠崎昇

### 例言

- 一、本會曩ニ測板式土地測量法ヲ刊行シテ測量當事者ノ參考ニ供セシカ大正四年  
中既ニ全部ヲ頒布シ爾後各地ニ測量講習會開催ノ都度多數ノ購讀希望者アリ  
シモ空シク絶本トシテ之カ需メニ應スルコト能ハサリキ。
- 二、大正五年秋十月仙臺稅務監督局ニ於テハ一部ノ稅務官吏ヲ召致シ局員廣田農  
學士及大槻屬ヲ講師トシテ土地測量法ノ講習會ヲ開催シタリ本會ハ同局ニ請  
ヒ兩講師ニ囑シ當時ノ稿本ニ就キ本書ノ編纂ヲ企テ今回之ヲ剞劂ニ付スルニ  
際シ土地異動ニ關スル諸般ノ手續及書式ヲ網羅シテ之ヲ附録トナシ以テ土地  
異動ニ關スル書類作製者ノ利便ヲ圖ラントス。
- 三、本書ハ學理ニ偏セサルヲ主眼トシテ各種測量法ニ亘リテ汎說セリ就中平板式  
測量法ニ就テ比較的詳述シ其他ノ測量法ハ概要ノ說述ニ止メタリト雖其ノ綱  
領ヲ失セサル點ニ意ヲ注キタルヲ以テ咀嚼玩味セハヨク之等測量法ヲ會得シ

進ンテ之ヲ實地ニ應用シ得ヘシト信ス。

四、本書ノ編纂ハ公務ノ餘暇ニ成リ且ツ匆卒上梓セシ爲メ固ヨリ遺漏尠カラサルヘキヲ以テ江湖各位ノ叱正ヲ俟チ他日再版刊行ノ際更ニ之カ完整ヲ期セントス庶幾ハ示教ノ勞ヲ惜ミ給ハサランコトヲ。

大正六年五月

## 凡例

一、測量術ニ關スル術語ハ、多ク外國語ノ譯語ナル爲メ、從來ノ著書ニ用キラレタルモノ何レモ區々ニシテ其ノ揆ヲ一ニセス、本書ニ於テハ主ニ工科大学ニテ用フルモノニ則リ、更ニ普通一般ニ使用セラル、モノヲ參酌セリ、而シテ他ニ多クノ別名ヲ有スルモノハ參考ノ爲メ之レヲ括弧内ニ記入セリ。

一、點、線、角、圖形等ノ符合ハ主ニ次ノ如キ形式ニ依レリ。

地上ノ點

いゝはに

圖紙上又ハ製圖上ノ點

(イロハニ).....

線

「イロ」ハニ「ホ」.....

角

「イロハ」又ハ「ロ」

圖形

〔イロハニ〕

一、數ノ書き方ハ「二乃至三」ヲ「二―三」ト略記シタル箇所アリ。

一、本書ニ於テハ説明ノ便宜上略語ヲ用キタル場合アリ、斯ルトキハ、豫メ之ヲ説明シ置キタリ、例ヘハ「器械ヲ某點ニ据付ク」トハ器械ヲ載セタル三脚ノ錘球（平板測量ニテハ圖上ノ某點ヲ指ス求心器ノ錘球）ガ地上ノ某點ノ真上ニ在ル様ニ器械ヲ水平ニ整置シタルヲ云フ。

一、水平面ト地平面（一一項）トハ普通ノ測量ニ於テハ殆ト同一ト看做サル、モノニシテ、之等ノ嚴密ナル區別ハ却テ讀者ヲ迷ハス事ヲ慮リ、特ニ區別スベキ箇所ヲ除キテハ凡テ「水平面」ト記載セリ。

一、本書ニ於テハ索引ニ代フルニ各項毎ニ番號ヲ記入シ、目次トノ對照、並ニ説明ニ於ケル參照ノ便ヲ圖レリ、而シテ目次中節ニシテ只一項ノミナルモノハ節ノ下ニ番號ヲ記セリ。

# 土地測量法目次

## 第一章 總 說

- 第一節 測量ノ意義 (一).....一
- 第二節 測量術ノ分類 (二).....一

## 第二章 略 測 法

- 第一節 略 測 法 (三).....二
- 第二節 距離ノ略測法.....三
  - (四) 歩數による測定 (五) 視角による測定 (六) 音響による測定 (七) 其他
- 第三節 角度ノ略測法.....四
  - (八) 両手を廣げて概測する法 (九) 繩又は紐による畧測法 (一〇) 板の上に針を立て畧測する法
- 第四節 垂直、水平ノ畧測法.....五
  - (一一) 下げ振による法 (一二) 水準器による法

## 第三章 鍵鎖測量法



第一節 鏈鎖測量法(一三).....六

第二節 測量用器具.....六

(一四) 測鎖 (一五) 「ガンダー」鎖 (一六) 其他の鎖 (一七) 卷尺 (一八) 竹尺 (一九) 間繩  
(二〇) 分尺 (二一) 測串 (二二) 杵 (二三) 測桿 (二四) 光短及角鏡 (二五) 叉桿

第三節 距離測量.....一

(二六) 平地に於ける場合 (二七) 傾斜地に於ける場合 (二八) 特別なる場合に算法に依り水平距離を求むる法

第四節 地形測量.....一三

檢線法、附三斜法.....一三

(二九) 檢線法 (三〇) 記帳 (三一) 製圖 (三二) 三斜法

枝距法(幹支法).....一五

(三三) 枝距法 (三四) 實測 (三五) 製圖

繫線法.....一七

(三六) 繫線法 (三七) 實測

第五節 鏈鎖測量法ノ應用(三八).....一九

第六節 野帳及其ノ記載方法.....二〇

(三九) 野帳 (四〇) 見取圖式及縱橫式

第七節 製圖(四一).....二二

第八節 閉塞差及其ノ配分法.....二四

(四二) 閉塞差 (四三) 閉塞差配分法

第九節 鏈鎖測量上ノ誤差ト精度.....二五

(四四) 較差、償差、累差 (四五) 鎖測の精度 (四六) 距離測量較差の極限 (四七) 閉塞差許容範圍

第十節 面積積算法(四八、四九).....二七

第四章 平板測量法.....二九

第一節 平板測量ニ要スル器械.....二九

(五〇) 平板 (五一) 三脚 (五二) 方筥羅針 (五三) 求心器及錘球 (五四) 照準儀 (五五) 標桿  
(五六) 測量針 (五七) 縮尺用尺度 (五八) 測鎖 (五九) 檢定尺 (六〇) 三角定規 (六一) 繩製三角定規

第二節 距離測量.....三八

(六二乃至六五) 傾斜距離を測りて水平距離に換算する法 (六五) 傾斜距離換算の乘率表

第三節 平板測量法.....四二

(六六) 平板測量 (六七) 縮尺 (六八) 圖上點の表示 (六九) 測量法の分類 (七〇) 射出法 (七一) 射  
出法點檢

進測法 (七二)..... 四五

(七三) 單視法 (七四) 複視法 (七五、七六) 測量上の注意 (七七) 閉塞差及配分法

交會法 (七八)..... 五〇

(七九、八〇) 前方交會法 (八一) 示誤三角形 (八二) 後方交會法 (八三、八四) 示誤三角形の消除

(八五) 測方交會法

第四節 應用問題..... 五九

(八六乃至九〇) 障礙物ある場合 (九一乃至九四) 傾斜地の場合

第五節 面積計算 (九五)..... 六五

### 第五章 羅盤測量法..... 六六

第一節 羅盤測量法 (九六)..... 六六

第二節 器械ノ説明..... 六七

(九七) 磁針 (九八) 分度盤 (九九) 視板 (一〇〇) 水準裝置 (一〇一) 球筒接合

第三節 器械ノ檢査及整正法..... 六九

(一〇二) 水準器 (一〇三) 磁針 (一〇四) 照準裝置 (一〇五) 器械の金質

第四節 子午線..... 七二

(一〇六) 眞子午線と磁氣子午線 (一〇七) 磁針の偏差

第五節 眞子午線ノ測定法..... 七三

(一〇八) 太陽の投影に依る法 (一〇九) 北極星による法

第六節 實測..... 七六

(一一〇) 實測法 (一一一) 方位の表示法 (一一二) 射出法 (一一三) 進測法 (一一四) 交會法

第七節 野帳記載法 (一一五)..... 七九

第八節 緯距及經距..... 八〇

(一二六) 緯距、經距 (一二七) 經緯距の算出法 (一二八) 子午線距及倍子午線距 (一二九) 經緯距に依つ

て實測の補組檢査

第九節 製圖..... 八二

分度器ニ依ル方法..... 八二

(一二〇) 射出法の場合 (一二一) 進測法の場合 (一二二) 交會法の場合

第十節 平面積算出法 (一二四)..... 八六

第十一節 羅盤測量ノ誤差及精度……………八七

(一一五) 閉差及閉比 (一一六) 羅盤測量ノ精限

第六章 轉鏡儀測量法及經緯儀測量法……………八八

第一節 轉鏡儀及經緯儀測量(一二七)……………八八

第二節 器械ノ説明及使用方法……………八九

器械ノ説明……………九〇

(一二八) 望遠鏡 (一二九) 十字線 (一三〇) 分度圖 (一三一) 副尺使用方法 (一三二) 器械ノ据付

(一三三) 水平角ノ測量 (一三四) 傾斜角ノ測定 (一三五) 直線ノ決定及延長

第三節 器械ノ檢査ト整正……………九三

(一三六) 視差 (一三七) 十字線 (一三八) 支脚

第四節 實測……………九五

(一三九) 角度法 (一四〇) 方位角法(象限法) (一四一) 經緯測法

第五節 記帳及製圖(一四二)……………九七

第六節 「トランシット」測量ノ誤差及精度……………九七

(一四三) 誤差ノ起原 (一四四) 測量ノ精限

第七章 「スタヂア」測量法……………九八

第一節 「スタヂア」測量法(一四五)……………九八

第二節 「スタヂア」測量法ノ理論……………九九

(一四六) 「スタヂア」測量ノ原理 (一四七) 器械目數ノ測定法 (一四八) 視線ノ傾斜せる時距離及高さを見出

す法 (一四九) 「スタヂア」表ノ使用方法 (一五〇) 函尺ノ目盛

第三節 器械ノ檢査整正並ニ使用方法……………一〇五

(一五一) 器械ノ使用方法 (一五二) 器械ノ檢査及整正

第四節 「スタヂア」測量ノ實測方法……………一〇六

(一五三) 野乘 (一五四) 野帳記載法

第五節 内業……………一〇八

(一五五) 計算 (一五六) 製圖

第六節 「スタヂア」測量ノ誤差並ニ精限(一五七)……………一〇九

第八章 水準儀測量法……………一〇九

第一節 水準儀測量法(一五八)……………一〇九

第二章 水準儀測量ノ理論……………一一〇  
 (一五九) 用語 (一六〇) 水平地平面水準面の差  
 第三節 器械ノ説明及使用方法……………一一二  
 機械ノ説明……………一一二  
 (一六一) 水準器 (一六二) 移心装置其他 (一六三) 望遠鏡 (一六四) 十字線 (一六五) 氣泡管  
 (一六六) 剛尺  
 水準器ノ主用(一六七)……………一一四  
 第四節 Y形水準儀ノ検査及整正……………一一四  
 (一六八) 視準線と鏡軸線との一致 (一六九) 鏡軸線と氣泡軸との平行 (一七〇) 器械軸と泡管の接線  
 第五節 實測……………一一五  
 (一七一) 高差測量 (一七二) 縱斷面測量 (一七三) 同高線測量  
 第六節 水準測量ノ誤差及精度……………一一九  
 (一七四) 誤差 (一七五) 水準測量の幅限  
 第九章 六分儀測量法(一七六)……………一二〇

第十章 字圖及町村圖ノ作製……………一二一

第一節 三角測量法……………一二一  
 (一七七) 三角測量の理論 (一七八) 實測方法 (一七九) 圖根圖調製  
 第二節 字圖町村圖ノ實測及調製……………一二五  
 (一八〇) 細部圖根圖の作製 (一八一) 測板上の圖紙に圖根點の展開並に一筆地原圖の測量  
 第三節 字圖又ハ一筆地原圖ノ著墨及註記……………一二六  
 (一八二) 著墨すべき主なるもの (一八三) 地圖に使用する線の種類 (一八四) 地圖に使用する境界線の種類  
 (一八五) 圖根點の圖示 (一八六) 彩色 (一八七) 註記  
 附 「スタヂア」表

附錄 土地異動願届便覽

# 土地測量法

## 第一章 總說

### 第一節 測量ノ意義

(一) 測量トハ之ヲ廣義ニ解セバ單ニ地球上ノ測量ニ止マラズシテ宇宙間ニ在ル總テノ物体例ヘバ天体ノ測定等ヲモ包含スト雖最モ普通ナル意味ニ於テハ次ノ如ク解スルヲ至當トス。  
測量學トハ地球ニ於ケル諸點ノ位置ヲ測定シ、距離、面積、體積並ニ諸般ノ變移等ヲ知ルニ必要ナル方法及理論ヲ攻究スル學術ヲ云フ。

### 第二節 測量術ノ分類

(二) 測量術ノ分類ハ其ノ標準ニ依リ區々ナレドモ大別シテ平面測量術(地平測量術)ト測地術(大地測量術)トノ二ツニ區分セラル、前者ニアリテハ地表ヲ一ノ平面ト考ヘテ測量スルモノニシテ、凡十哩平方即チ約四里四方以內ノ地域ヅ、ヲ限リテ應用セラル、モ、後者ニ於テハ地表ヲ一種ノ球

面ト考ヘ地球ノ曲率ヲ算入スル測量法ニシテ廣大ナル地域ニ應用セラル、モノナリ。  
 之ヲ器械ニ依リ分類スレバ、(一)鏈鎖測量(チェーン測量)、(二)平板(測板)測量(プレートブル測量)  
 (三)羅盤測量(コンパス測量)、(四)經緯儀測量(セオドライト測量)、(五)轉鏡儀測量(トランシット測量)  
 (六)「スタヂア」測量(ステリメーター測量)、(七)水準儀測量(レベル測量)、(八)六分儀測量(セキスタント  
 測量)等ノ別アリ。  
 又測量スル物ニツキ分類スレバ陸地測量、水上測量、地下測量、水底測量トナリ。更ニ又施業ノ目  
 的、方法等ニヨリ分類スレバ平面測量、高低測量、地形測量、三角測量、鐵道測量、鑛山測量、市  
 街測量、田畑測量、海洋測量、河川測量、水路測量、流量測量等ノ別アリテ其ノ分類ノ據所ニヨリ  
 名稱區々ニシテ一々列挙シカタキ程多數アリ。

## 第二章 略測法

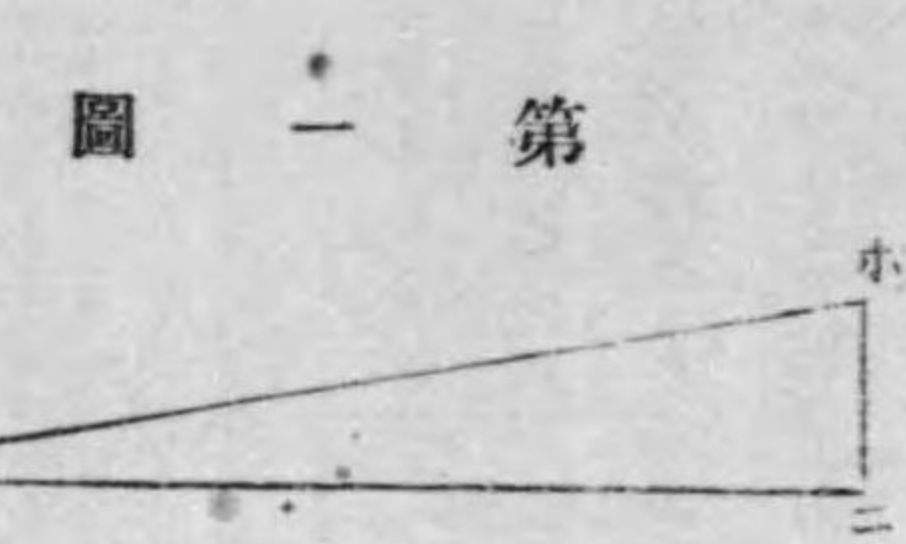
### 第一節 略測法

(三) 或ル地域ヲ測量スルニ當リ最初ニ踏査ヲ行ヒ豫メ其ノ概略ヲ會得シ置クコト必要ナリ其他精  
 密ナル器械ヲ有セズシテ測定セザルベカラザル必要屢起ルモノナリ今左ニ此等ノ場合ニ於ケル二三

ノ方法ヲ述ベシ。

### 第二節 距離ノ略測法

(四) 步數ニヨル測定 最も簡單ナル方法ハ步數ニ依ル方法ニシテ、前方ニ相重ナリテ見ユル様ニ  
 ニツノ目標ヲ定メ一様ノ步調ヲ以テ進行スル時ハ其ノ步數ヲ以テ距離ヲ畧測セラル、尤モ人各其ノ  
 步長ヲ異ニスル故數回各自ノ步長ヲ測リ置クベキモノナリ。步數ヲ計ル爲メニ步數計ト稱シテ時計  
 ノ如キモノニテ之レヲ胸間ニ懸ケテ歩行スル時ハ指針ニヨリ步數ヲ示スモノアリ主ニ踏査ノ場合ニ  
 用キラル。



(五) 視角ニヨル測定 腕ヲ延シテ少サキ尺度ヲ垂直ニ持チ、遠方ニアル高サノ  
 知ラレタル物体又ハ人等ヲ見テ、視線ニテ挾ミタル尺度ノ長サト、腕長、即チ目  
 ヨリ尺度マデノ長サトヲ知ル時ハ視角ハ定マル故ニ、次ノ式ニテ其ノ距離ヲ略知  
 スルコトヲ得。  
 「イロ」……腕長、「ロハ」……尺度、「ニホ」……遠方ノ人ノ高サ、「イニ」……求ム  
 ル距離トセバ

「ロハ」:「イロ」=「ニホ」:「イニ」  
 或「イニ」=「イロ」x「ニホ」  
 今腕ノ長サ一尺七寸ニテ遠方ニ立タル人ノ身長ヲ五尺三寸ト假定シ之ヲ挾ム尺度

ハ四分ナリトセバ

$$0,04:1,7=5,3:x$$

$$x = \frac{1,7 \times 5,3}{0,04} = 225,25^{\text{r}}$$

$$= 37^{\text{m}}3^{\text{s}}2^{\text{t}}5^{\text{u}}$$

- (六) 音響ニヨル測定 音ハ攝氏零度(華氏三二度)ノ空氣中ニテ一秒間ニ三三二一米突、攝氏一五度(華氏五九度)ノ空氣中ニテ三四〇米突、即チ約三町十間五尺位ノ速度ヲ有ス故ニ樵夫等ガ木ヲ切ル斧ヲ打チテ見テヨリ其ノ響ノ聞ユルマデノ時間ヲ測リテ距離ヲ略知スルヲ得ベシ。
- (七) 其他輪回計 輪程計等ヲ有スル車輪ヲ推進シテ距離ヲ畧測スル法アリ。

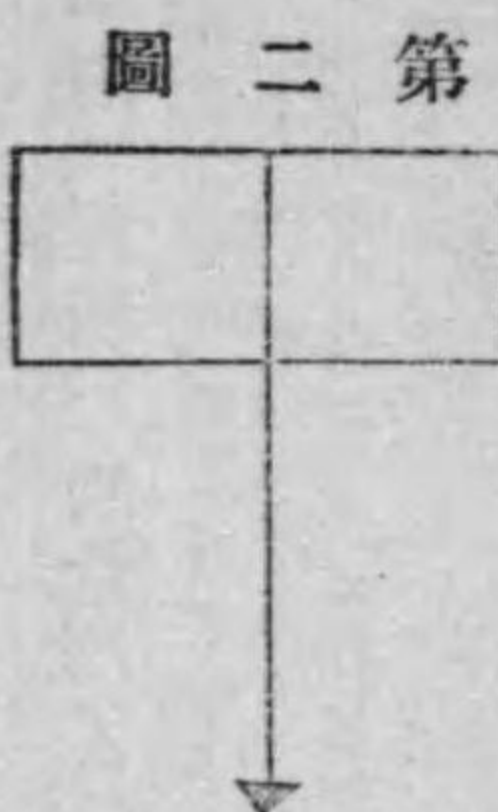
### 第三節 角度ノ畧測法

- (八) 兩手ヲ廣ゲテ概測スル法 測ラントスルニ方向ニ向ケ兩手ヲ廣ゲテ其ノ間ニ挟ミタル角度ヲ畧知ス。
- (九) 繩又ハ紐ニヨル略測法 一點ヨリ測ラントスル方向ニ四―五尺ノ繩ヲ張リテ其ノ間ニ挟ミタル角ヲ知ル。
- (一〇) 板ノ上ニ針ヲ立テ、畧測スル法 板ノ上ノ一點ニ針ヲ立テ此ノ針ヨリ他ノ測ラントスル方

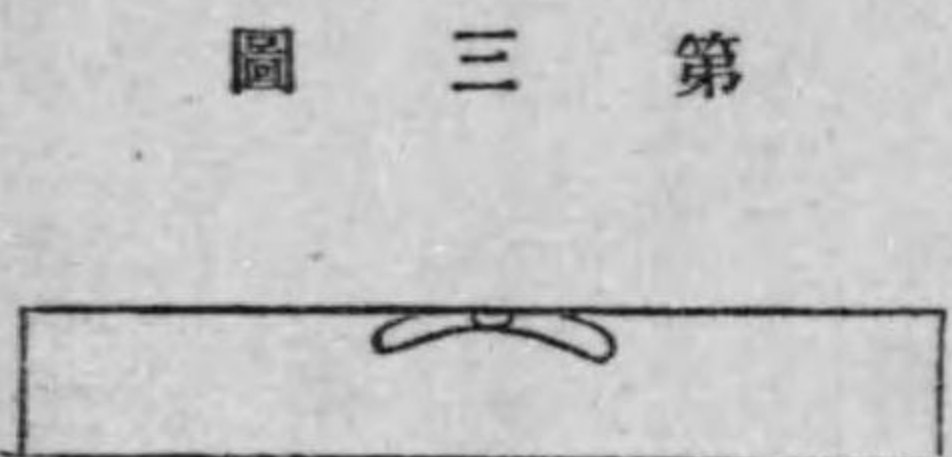
向ヲ視ツテ夫々針ヲ立テ之ニ定規ヲアテ、線ヲ引ク時ハ其ノ間ノ角ヲ測ルコトヲ得ベシ。

### 第四節 垂直及水平ノ畧測法

- (一一) 下ゲ振ニヨル法 基點ニ立テタル旗竿等ガ垂直ナルカ否カヲ檢スル場合ニ最モ簡單ナル方法トシテハ石ヲ糸ニテ吊シ「下ゲ振」ヲ作り之ニ竿ヲ正スニアリ、又板ノ一邊ヲ平ニ削リ之ト直角ニ一線ヲ畫キ「下ゲ振」ガ恰モ此ノ縦線ニ重ナル時ハ其ノ削リタル邊ハ水平ヲナス。



圖二第



圖三第

- (一二) 水準器ニヨル法 之レ普通大工ノ用キル水準器ニテ事足ル、即チ一様ナル大サノ圓形硝子管ヲ曲ゲテ圓弧狀ヲナサシメ中ニ酒精ノ類ヲ滿シ、僅カニ氣泡ヲ存スル泡管ヲ木ノ中ニ埋メ上部ノ表ハル、様ニ眞鍮飯等ニテ留メタルモノニシテ、其ノ臺木ノ下面ガ水平ニ据エラレタル時ハ氣泡ハ中央ニ止マル様ニ作ラレタルモノナリ、之ヲ用キテ測ラントスル面ノ上ニ置キ、其ノ水平ナルカ否カヲ測定ス。

### 第三章 鏈鎖測量法

#### 第一節 鏈鎖測量法

(一三) 鏈鎖測量法ハ測鎖又ハ卷尺ト方向ヲ定ムル簡單ナル器トヲ以テ單ニ距離ト方向トヲ測リ、諸點ノ位置ヲ定ムル方法ニシテ測量術ノ基礎トナルベキ作業ナリ。

#### 第二節 測量用器具

(一四) 測鎖 測量用ノ鏈鎖ハ直徑一分内外ノ鍛鐵又ハ鋼鐵ノ線ヲ以テ作リタルモノニシテ、約八

九寸ノ針金ノ兩端

ヲ環狀トナシ之ヲ一

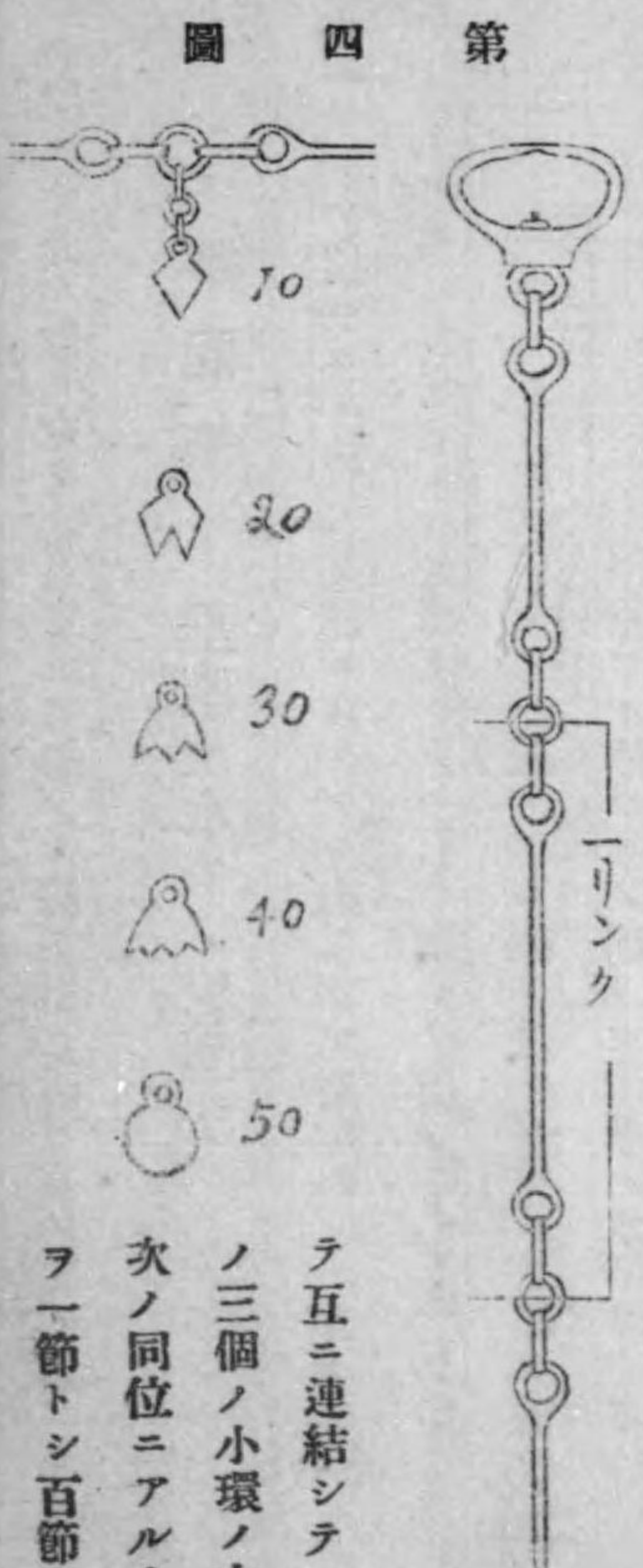
乃至三個ノ小環ヲ以

テ互ニ連結シテ一定ノ長サトナス、其

ノ三個ノ小環ノ中央ノモノ、中心ヨリ

次ノ同位ニアル小環ノ中心マデノ長サ

ヲ一節トシ百節ヲ以テ一鎖ト成ス、其



第四圖

ノ一〇、二〇、三〇、四〇、ノ各節毎ニ圖ノ如キ齒形ノ符號ヲ有スル眞鍮製小札ヲ附シ、五節、即チ鎖ノ中央ニハ齒形ヲ有セザル圓形ノモノヲ附シテ一見他ノ小札ト識別シヤスクス、而シテ六〇ヨリ九〇マデハ齒形ノ符號ヲ逆順ニ附シタルモノナリ、猶、測鎖ノ兩端ニハ眞鍮製ノ把柄ヲ附シ螺旋ニ依リテ、溫度ノ變化等ヨリ來ル測鎖ノ伸縮ヲ調節スベキ裝置ヲ備フルモノアリ、而シテ一鎖ノ長サハ此ノ把手ノ内測又ハ外測ニアル刻ミニ測串ヲ立テ、測ルモノナリ。

(一五) 「ガンター」鎖ハ英國ノ天文學者ユ、ガンター氏ガ作リタルモノニシテ、全長六十六呎(約十間餘)一節七、九二吋ノ長サヲ有ス、之ヲ「リンク」トナス、英國ニテハ專ラ此ノ測鎖ヲ用キ、我が國ノ鐵道測量モ亦之ヲ用フ從ツテ鐵道ノ里程ハ總テ之ヲ以テ表ハス。今英國度量衡單位ト「ガンター」鎖ニヨル單位トヲ比較スレバ次ノ如シ。

英國度量衡

哩  $7620$  呎  $7920$

$1 = 760 = 5280 \dots \dots \dots 0,410^m$

$1 = 3$

$1 = 12 \dots \dots \dots 1,006^m$

$1 \dots \dots \dots 0,338^m$



測量上ノ單位

哩 <sup>マイル</sup> 鐵「ロット」 鐵 <sup>フィート</sup>

1 = 80 = 320 = 800.....0.410<sup>m</sup>

1 = 4 = 100.....22<sup>yds</sup> = 66<sup>m</sup> = 792<sup>ft</sup>

1 = 25

1.....= 7,92<sup>ft</sup>

(一六)米突鎖ハ陸軍ニテ多ク使用ス、長サ普通二〇「メートル」トス、十間鎖ハ我が國ニ於テ廣ク一般ニ用キラル、モノニシテ長サ六〇尺ナル故一節ハ其ノ百分ノ一即チ六寸ニシテ一〇節毎ノ各符號ハ恰モ一間毎ニ附ケラレタルモノナリ。

(一七)卷尺 携帶及取扱ニ便ナラシメンガ爲メ革、金屬又ハ木製ノ鞘ノ中ニ自在ニ卷込マル、様ニ作ラレ、布卷尺ハ幅凡ソ五分ノ麻布ニ防水ノ塗料ヲ塗り目盛ヲ施シ織込卷尺ハ眞鍮線等ヲ縦トシテ經ニ布ヲ織込ミタルモノニシテ鋼製卷尺ハ鋼鐵ノ薄板ヲ用キテ時計ノ「ゼンマイ」ノ如ク作リタルモノナリ。

圖 五 第

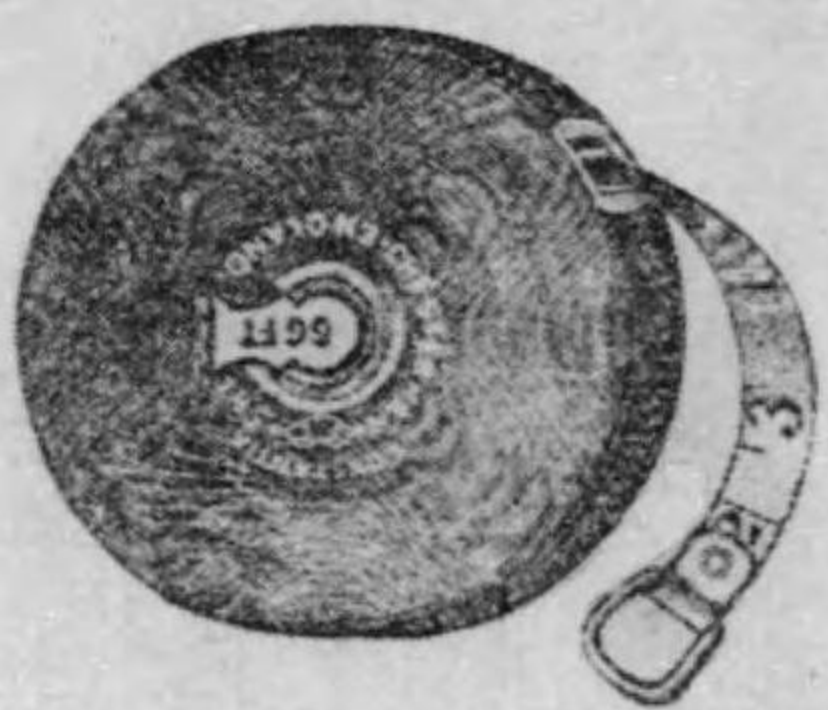
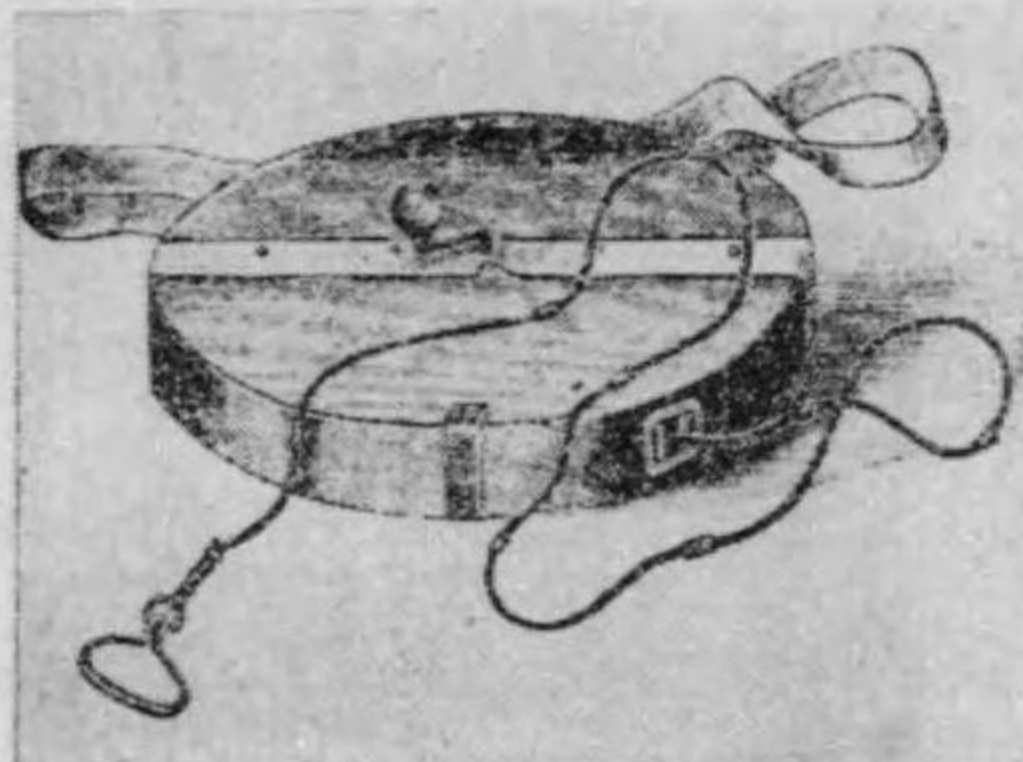


圖 六 第



卷尺ハ兩面ニ目盛サレ一面ニハ測鎖ニ用フル節、他面ニハ尺ヲ單位トシテ五分迄目盛ヲ施シアリテ長サハ十間ヨリ三十間マデ種々アリ。

(一八)竹尺 竹ヲ幅三—四分位ニ割リテ肉部ヲ去リ眞鍮等ニテ繋キ伸バシ肉部ノ面ニ必要ナル目盛ヲ施シタルモノナリ

(一九)間繩 麻繩ノミヲ以テ作リタルモノト、細キ金屬線ヲ心トシタルモノトアリテ何レモ澁ノ如キ單寧質ノ塗料ヲ施シ一間或ハ一分毎ニ眞鍮ノ小板ヲ卷キテ目盛ヲ施シアリ。

(二〇)分尺 分尺ハ一間以内ノ端距離ヲ測ルトキニ使用スルモノニシテ卷込製ト棒製トノ二種アリ、前者ハ普通ノ懐中用卷尺ニシテ後者ハ長サ三尺餘、直径八分内外ノ圓棒又ハ角棒ニ間ヲ單位トシテ厘位マデ目盛ヲ施シタルモノナリ。

(二一)測串 測串ハ長サ一尺内外ノ鋼線ノ頭部ヲ環狀トナシ下部ヲ尖ラシ、測鎖ノ端ヲ地上ニ印シ傍ラ數取リトナスモノニシテ十本ヲ以テ一組トナシ、外ニ

第七圖



落串ト名ツケ下端ニ鍍ヲ備フルモノ一本アリ糸ヲ結ビテ「下ゲ振」ニ用キ、又ハ落下セシメテ鉛直方向ニ定ムルノ際使用スルモノナリ、串ハ凡テ頭部ノ環ニ紅白ノ布片ヲ結ビツケ置ク時ハ叢等ニテ見失フ憂ナク且ツ携帯ニモ便ナリ。

(二三) 杵 杵ハ一―二寸四方ノ木又ハ適宜ノモノヲ用フ。  
(二四) 測桿 「ボール」標桿又ハ梵天ト稱シ境界其他ノ點ノ方向ヲ定ムル爲メノ目標トナス竿ニシ

第八圖

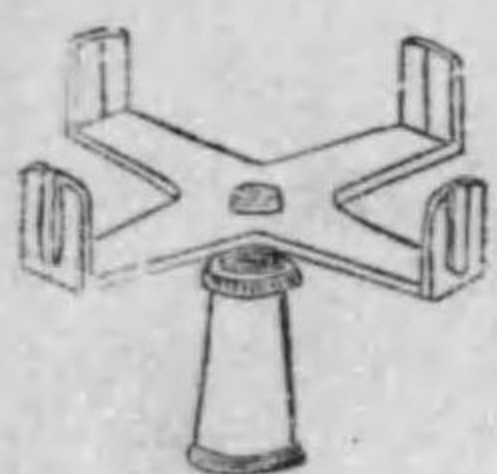


テ太サ一寸内外ノ檜、或ハ桂、等ノ圓棒ヲ紅白ニ様ニ塗リ別

ク、鐵ノ石突ヲ嵌メタルモノニシテ其長サ六尺乃至一丈ノモノ普通ナリ。

ヲ同時ニ見得ル器械ニシテ、鎖線ト直角ノ方向ニ枝距ヲ出ス時ニ用キラル、コトアリ。

第九圖



(二五) 叉桿 叉桿モ亦枝距線ヲ出スニ用キラル、モノニシテ鎖線上ニ垂直ニ小桿ヲ立テ其ノ上ニ叉桿頭ヲ搜入セルモノナリ、第九圖ニ示セルハ其ノ簡單ナルモノニシテ、相對スル二ツノ細孔ヲ鎖線ノ方向ニ合セ、他ノ一對ノ細孔ヲ見透ストキハ枝距線ノ方向ヲ見出スコトヲ得。

# 欠

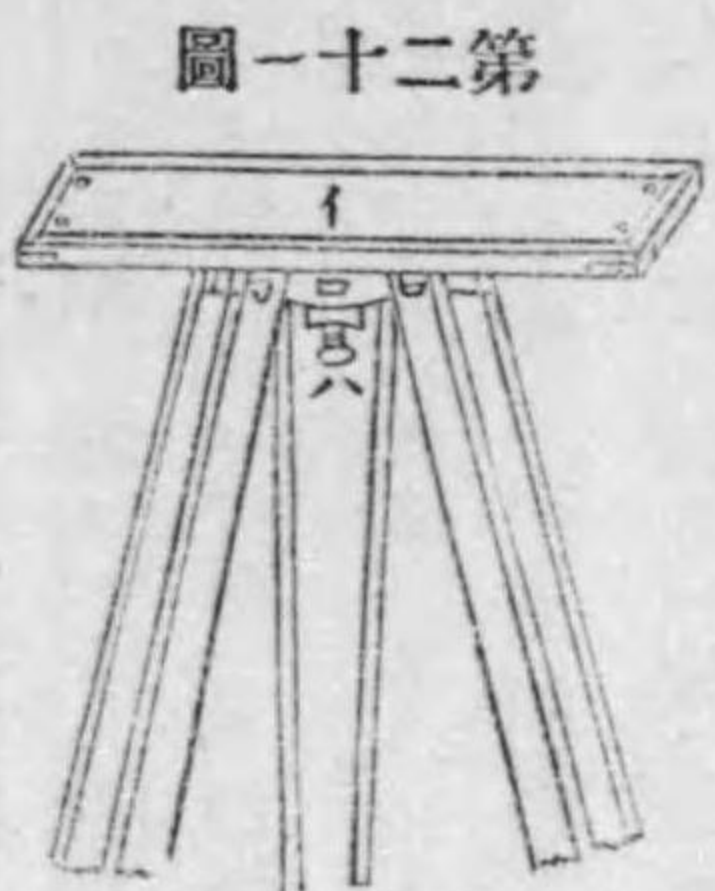
# 欠

## 第四章 平板測量法

### 第一節 平板測量ニ要スル器械

凡テ器械ハ使用ニ先ダチ要部ノ整正ナルヤ否ヲ點檢シ整正ナラザル部分ハ之レヲ改正シテ齊正ヲ認メタル後ニアラザレバ使用スベカラズ、若シ不正ナル器械ニ依リテ測量シタリトセンカ、其ノ結果ハ不正ナルヲ以テ測量後ニ於テ非常ナル手數ヲ爲シテ改正ヲ施サザルベカラバ然モ改正ヲ爲シ得ル場合ハ單ニ手數ノ問題ノミナルヲ以テ尙可ナリトスルモ、改正ヲ施スヲ得ザル場合多ク途ニ測量ヲ再行セザルベカラザルニ至ルコトアリ、故ニ器械ノ點檢ハ測量ニ尤モ必要ナルコトヲ覺悟シ測量ニ着手前點檢ヲ爲スベキハ勿論丈量繩ノ如キ不正ニ陥リ易キモノハ使用中ト雖時々點檢ヲ試ムルノ要アリト知ルベシ、而シテ器械ノ齊正ナルヤ否ヲ點檢セントスレバ其ノ用途及構造等ヲ知ラザルベカラザルヲ以テ構造ヲ記シテ點檢方法ヲ述ベントス。

(五〇) 平板 平板(測板又ハ圖板トモ云フ)ハ圖紙ヲ貼付スルノ板ニシテ第二十一圖ノ(イ)即チ是レナリ、其ノ構造ハ檜ノ厚サ約二分ノ板ヲ木理ヲ縱横トシテ三枚ヲ重ネ合セテ膠著シ樞又ハ櫻ノ如キ堅キ木質ノモノヲ用キテ周圍ヲ卷キ隅角ニハ眞鍮ノ隅金ヲ螺著シテ狂ヒヲ生ゼザル様作りタルモ



圖一十二第

ノニシテ測量ノトキ方筐羅針ヲ適宜ノ隅ニ螺著シ得ル様四隅ニ小孔ヲ穿テアリ、又平板ノ裏面ニハ飯匙形ノ金具ヲ付シテ三脚ノ(ハ)螺子ノ頭部ヲ嵌メ込ミ平板ハ任意ノ方向ニ旋回シ(ハ)螺子ヲ緊メルトキハ三脚ニ緊著シテ固定スル様装置シアリ。平板ノ大サハ一尺四方、一尺二寸四方、一尺五寸四方ノモノ、或ハ一尺二寸ノ長方形ノモノ等種々アリ、如何ナル大サノモノヲ使用スルモ測量上差支ナキヲ以テ測量ノ目的並ニ測地ノ大小ニ依リ測量ニ便宜ナルモノヲ選ムヲ宜シトス、而シテ地形測量ニ於テハ正方形ノモノハ使用上便宜ニシテ且ツ普通使用セラル。

平板測量ハ一ニ平板上ニ於テ行ハル、モノニシテ板面ハ正シク平ラカナラザルベカラズ、板面ガ平ラカナリヤ否ヲ點檢センニハ平板面上ニ正シキ長定規ノ縁ヲ添ヘ除カニ縦横ニ滑動セシメツ、板面ト定規トノ接觸面ヲ檢スルニ板面ト定規トガ間隙ナク接スルトキハ其ノ平板ハ正シキ證左ナルヲ以テ使用スルニ足ルベシ、若シ間隙アルトキハ製造者ノ手ニ依リ削リ改ムルノ外ナシ。平板裏面ノ金具ハ平板ヲ三脚ニ取り付ケ(ハ)螺子ヲ緩ムルトキハ任意ノ方向ニ旋回シ緊ムルトキハ平板ガ緊著シテ固定スレバ完全ナリ。

平板面ハ正シク平ラカナラザルベカラズ故ニ板面ヲ毀損セザル様注意シ測量ノ際平板上ニ植立スル

針孔ノ如キモ可成大ナラシメザルコト、及圖紙ヲ平板ニ貼付スルトキハ周圍ヲ卷キタル縁ノ部分ニノミ糊シ表面ニ糊著スルガ如キコトナキ様注意セザルベカラズ、又作業終ルカ、他ノ點ニ平板ヲ移サントスルトキハ三脚ト平板トノ接合螺子(ハ)ヲ緩ムルコトヲ忘ルベカラズ。

(五一) 三脚 第二十一圖(□)ハ三脚ニシテ平板ヲ安定スベキ臺ナリ其ノ構造ハ三脚板ヲ撐板ニ螺著シ撐板ノ中央ニ眞直ナル孔ヲ貫穿シ下字形螺子ヲ自由ニ上下シ得ル様嵌メタルモノニシテ下字形螺子ノ額部ヲ平板裏面ノ座金ニ付シアル孔ニ嵌メテ平板ニ接合セシム而シテ下字形螺子ノ螺旋ヲ緊ムレバ平板ハ固定シ緩ムレバ平板ハ自由ノ方向ニ滑動セシムルヲ得ベシ。

(五二) 方筐羅針 方筐羅針ハ螺旋ニ依リ平板ノ隅ニ固著セシメ方位ヲ定ムルニ要スルモノニシテ第二十二圖ハ即チ之レニシテ長方形ノ小箱ノ中ニ磁針ヲ備ヘ箱ノ底部中央ニ鐵ノ心柱アリテ羅針ノ兩端ヲ水平ニシ管内左右ニ振動シ得ル如クシ上面ヲ玻璃板ニテ覆ヒ風塵ノ入ルヲ防ギアリ、羅針ノ一方ハ瑠璃色トナシ北方ヲ示シ他方ハ白色トナシ南方ヲ示スヲ普通トス、羅針ハ短キモノヨリモ長キモノヲ良トス然レドモ長サ約四寸以上ノモノハ却テ振動敏捷ヲ欠クト云フヲ以テ、平板ノ大サニ依リ適宜ノモノヲ使用スルヲ宜シトス。羅針ハ水平ノ場所ニ置キタル場合ニ水平ナラザレバ南北ヲ指示セントシテ振動スルヲ得ザルベシ、故ニ水平ナラザル場合ニハ水平ヲ保ツマデ其ノ輕キ方ノ裏ニ少量ノ封蠟



圖二十二第

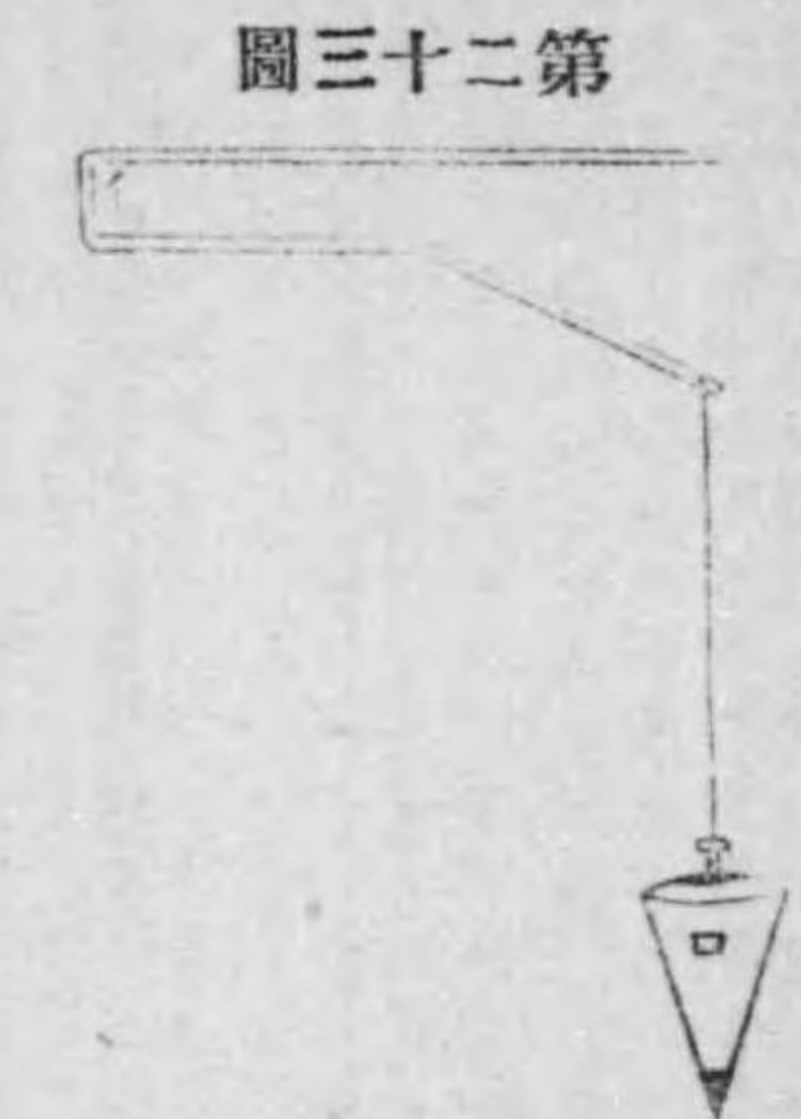
ヲ熱シテ著クベシ。

羅針ハ感應力充分ナラザルベカラズ。方筥羅針ヲ水平ノ塲所ニ据エ之レニ振動ヲ與ヘタル場合ニ  
羅針ハ舊位置ニ復セントシテ上下ニ二三回左右ニ七八回振動シテ靜止スルトキハ感應力充分ニシテ  
良好ナルノ證左ナリ、若シ其ノ振動一二回ニシテ靜止スルモノ、如キハ磁力弱キカ、又ハ磁針ヲ支  
フル心柱ノ尖頭銳ナラザルニ依ルモノナリ、故ニ前者ナルトキハ馬蹄形磁石又ハ磁氣棒ニ依リ數回  
除カニ摩スルトキハ磁力増加スベシ然レドモ是等ノ器械ナキトキハ製造者ノ手ニ依リ修理スルノ外  
ナシ、若シ心柱ノ磨滅ニ依ルモノナルトキハ心柱ヲ筥ノ裏面ヨリ取出シ質ノ緻密ナル砥石ヲ以テ  
尖頭ヲ輕ク研クトキハ改良シ得ベシ。

作業終ルカ又ハ他ノ點ニ移ラントスルトキハ筥ノ縁ニアル(ハ)留螺子ヲ締メテ羅針ノ振動ヲ停止セ  
シメ、又測量中ト雖可成激震ヲ與ヘザル様注意シ藏置スル場合ニハ近邊ニ鐵器類ヲ避クベキハ勿論  
東西ニ平行ニ置クヲ宜シトス。

(五三) 求心器及錘球

求心器ハ金屬製ノモノ木製ノモノ等種々アルモ其ノ構造ハ第二十三圖ノ如



ク鈎形ノ一端ニ錘球ヲ垂下シ得ル様製シタルモノニシテ、地  
上ノ點ト平板上ノ點トヲ鉛線中ニ在ラシムル様、即チ圖上點  
ヲシテ地上點ノ眞上ニ在ラシムル様平板ヲ据エルトキ又ハ圖  
上點ヲ地上ニ現ハサントスルトキニ使用セラル、モノナレバ  
垂下シタル錘球ト求心器トノ兩端ヲ結び付クルトキハ一直線  
ヲ爲サルベカラズ。

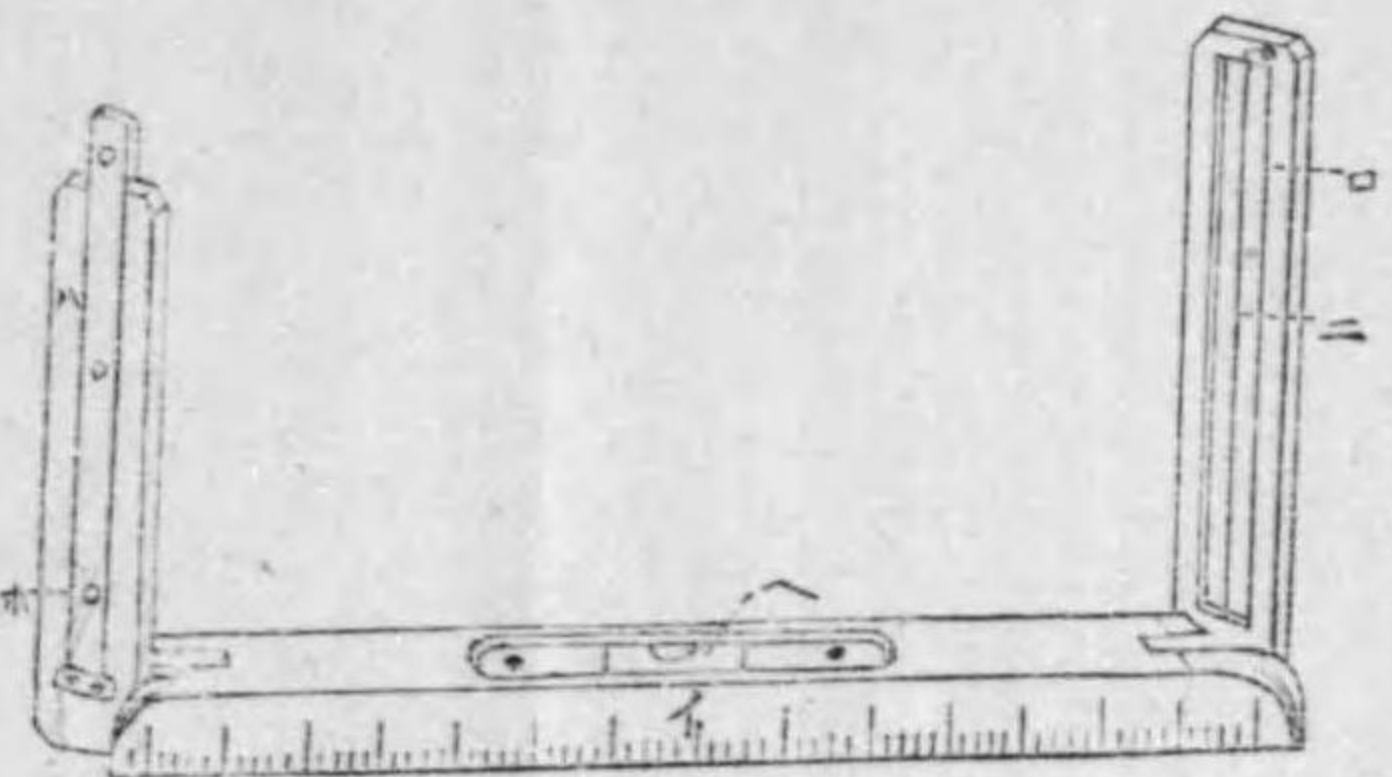
(五四) 照準儀

照準儀ノ構造ハ種々アルモ最モ普通ナルモノハ第二十四圖ノ如キモノニシテ、黃

楊製ノ定規ノ兩端ニ直平板ヲ付シ、定規ニハ水準器ヲ裝置シアリテ、直平板ノ一方ニハ枳形ノ長窓  
ヲ穿チ中央ニハ垂直ニ馬ノ尾ヲ張り、他方ノ直平板ニハ中央ト夫レヨリ上下ニ各一個都合三個ノ小  
孔ヲ穿チタルモノニシテ、馬ノ尾ヲ張リタル方ノ直平板ヲ前直平板ト云ヒ、馬ノ毛ヲ照準絲ト云フ  
小孔ヲ穿チタル方ノ直平板ハ之レヲ後直平板ト云ヒ、小孔ヲ規孔ト云フ。

照準儀ハ方向線ノ測定及平板ヲ水平ニ据ウルニ使用セラル、モノニシテ、定規ニ裝置シアル水準器  
ニ依リ平板ヲ水平ニ据エ、規孔ヨリ測點ニ樹テタル標桿ヲ規視シテ照準絲ニ一致セシメ、定規ニ添  
フテ方向線ヲ描クモノナリ、照準儀ノ大サハ七寸、九寸、一尺等種々アリテ何レヲ使用スルモ同一

圖四十二第



イ 定規部  
ロ 前直平板  
ハ 後直平板  
ニ 照準絲  
ホ 視孔  
ヘ 水準器

ナリ、只使用上ノ便宜ヨリ平板ノ大サニ依  
リテ適宜ノモノヲ選ブヲ宜シトス普通尺ニ  
寸ノ平板ニハ七寸、尺五寸ノ平板ニハ九寸  
ノモノ使用セラル。

定規ニ依リ描ク線ハ直線ナラザルベカラズ  
定規ノ縁ニ依リ直線ヲ描キ得ルヤ否ヲ檢ス  
ルニハ、定規ノ縁ニ添フテ圖紙上ニ一線ヲ

描キテ照準儀ヲ反對ニ置換ヘ其ノ線ニ一致  
セシメ、再ビ線ニ添フテ一線ヲ描クトキハ、

兩線ハ全ク重ナリ合フベシ、之レ定規ノ正シキ證左ナリ、若シ一致セザルトキハ定規ノ縁ハ直線ヲ  
描キ得ザルモノナレバ、平ラカナル板ノ上ニ紙鏝ヲ置キ輕ク定規ノ縁ヲ磨シテ再三點檢ヲ行ヒ二線  
ガ全ク重ナリ合フマデ改正スベシ。

水準器ハ定規ノ底面ニ平行ニ裝置セラレザルベカラズ

脚ノ一ツノ脚ト丁字形ヲ爲ス様ニ置キ、其ノ脚ヲ左右ニ動カシテ水準器ノ氣泡ヲ中央ニ導キ、次ニ  
平板ヲ三脚ニ固定シ平板上ニ照準儀ヲ二

照準儀ヲ反對ノ方向ニ置換フベシ、此ノトキ氣泡ガ依然中央ニアルトキハ水準儀ハ定規ノ底面ニ平  
行ニ裝置セラレアルモノニシテ水準器ノ裝置ガ正シキモノトス、若シ照準儀ヲ反對ニ置換ヘタル際  
氣泡ガ中央ニアラザルトキハ、水準器ノ一方ガ高キ證左ナルヲ以テ改正螺旋ニ依リ高キ方ヲ低クメ  
テ改正スベシ、然レドモ此ノ改正ハ一回ニテハ容易ニ改正シ得ラレザルニ依リ再三點檢ヲ爲シツ、  
齊正スベキナリ。

直平板ト定規トハ直角ヲ爲サルベカラズ

照準儀ヲ平板上ニ置キ照準儀ノ定規ノ厚キ方ニ正シ

キ三角定規ヲ沿ハセ、其ノ三角定規ヲ滑ラシテ定規ノ一邊ト直平板ト正シク接スルヤ否ヲ見ルベシ、  
若シ正シカラザルトキハ直平板ノ螺旋ヲ抜キ取り、直平板カ接合スル定規部ヲ少シク削リテ改正  
シ、再ビ點檢ヲ行フベシ。

視線平面ハ垂直ナラザルベカラズ

視線平面(三ツノ視孔ヨリ視タル視線ト照準絲トノ爲ス平面)

ハ垂直面ナリヤ否ヲ檢スルニハ水平ニ据エタル平板上ニ照準儀ヲ置キ、數十間隔リタル眞直ナル樹  
木又ハ避雷針ノ如キモノ、若シ適當ノモノナキトキハ絲ニ錘ヲ付シテ吊リ下ゲ、最初ニ上視孔ヨリ  
覗キテ照準絲ヲ合セ、次ニ照準儀ヲ動かサズ其儘中ノ視孔及下ノ視孔ヨリ覗キ視ルニ最初ト同様照  
準絲ガ視視シタルモノニ正シク合致スルトキハ其ノ視線平面ハ垂直ニシテ正シキヲ證ス、若シ合致  
セザルトキハ視線平面ハ垂直ナラザルモノナレバ、何レノ部分ガ不正ナルヤ次ノ如キ點檢ヲ爲シテ

不正部分ヲ探リ改正スベキナリ、**(一)**照準儀ヲ乗セタル平板ガ水平ナルヤ否ヲ檢スベシ、照準儀ノ水準器ハ既ニ規正セラレタルヲ以テ水準器ニ依リテ檢セバ平板ガ水平ナリヤ否ハ直チニ知ルコトヲ得ベシ、**(二)**直平板ハ垂直ナルヤ否ヲ檢スベシ之レヲ檢スルニハ照準儀ノ定規ノ線ノ厚キ方ヲ平板上ニ倒ストキハ兩直平板ハ板面ニ平等ニ接スベシ、若シ平等ニ接セザルトキハ前後何レカノ直平板ガ垂直ナラザルモノナレバ、直平板ガ接合スル定規ノ部分ヲ少シク削リ、兩直平板ガ平等ニ接スルニ至ルマデ改正スベシ、以上ノ改正ヲ爲スモ尙視線平面ガ不正ナルトキハ、三ツノ視孔ヲ結ヒ付クル直線ガ垂直ナラザルカ、又ハ照準絲ガ垂直ナラザルニ依ルモノナレバ、此ノ改正ハ製造者ノ手ニ依ルノ外ナシ。**(一〇四)**参照

**(五五)** 標桿 測桿ト同一ニ付キ**(二三)**ヲ参照スベシ。

**(五六)** 測量針 測量針ハ最モ細キ針ニシテ、照準儀ニ依リ方向視視ノトキ平板上ニ植立シ、又ハ圖上ニ點ヲ表示スルトキ針孔ヲ穿ツノ用ニ供スルモノナリ。

**(五七)** 縮尺用尺度 尺度ハ實測距離ヲ圖紙上ニ定ムルトキ、又ハ圖紙上ノ線長ヲ測リテ實距離ヲ知ラントスルトキノ用ニ供スルモノニシテ普通ノ尺度ト異ナラズ、唯目盛ヲ細緻ニシタルモノナリ、其ノ長サハ六寸、一尺二寸等種々アリ目盛モ亦五厘目ト二厘五毛目ト盛リタルモノ、又ハ五厘目ト二厘目ト盛リタルモノ等アリ、長サハ測圖ノ大小ニ依リ適宜ノモノヲ選ミ、目盛ハ縮尺割合ニ依

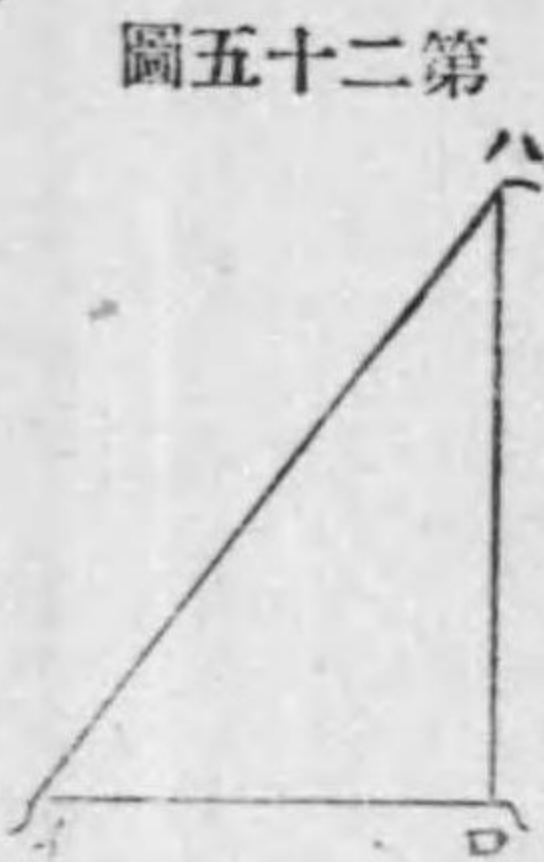
リ定ムルヲ可トス、而シテ六百分一ノ縮尺ニ依ルトキハ、二厘目盛ノモノハ使用上便宜ナラン。

**(五八)** 測鎖 **(一四)**乃至**(一九)**ヲ参照スベシ。

**(五九)** 檢定尺 檢定尺ハ長サ三尺幅一寸厚サ五分ノ樫製ノ尺度ニシテ丈量繩等ノ點檢ニ使用セラル。

**(六〇)** 三角定規 三角定規ハ、垂直線及平行線ノ描畫又ハ器械ノ點檢等ニ使用セラレ、測量上缺クベカラザルモノニシテ、二等邊三角定規(四十五度ノ三角定規)ト直角三角定規(六十度ノ三角定規)トノ二枚ヲ以テ一組トス、而シテ三角定規ノ直角部分ハ最モ正確ナラザルベカラザルヲ以テ時々之レガ點檢ヲ爲サルベカラズ、三角定規ノ直角部ガ正確ナリヤ否ヲ檢センニハ、圖紙上ニ一ツノ直線ヲ描キテ三角定規ノ直角ヲ挾ム一邊ヲ此ノ線ニ合セ、他ノ一邊ニ沿フテ一線ヲ描クベシ、次ニハ其ノ儘定規ヲ折返シ先ニ描ケル線ニ定規ノ一邊ヲ正シク合致セシメ、他ノ邊ニ沿フテ一線ヲ描クトキハ其ノ線ハ先ニ描キタル線ト重ナリテ一直線トナルカ、又ハ角ヲ爲スベシ、一直線トナリタルトキハ直角部ハ正確ナリ、若シ角ヲ爲シタルトキハ其ノ角ノ二分ノ一丈改正ヲ要スルモノナレバ、平ラカナル板上ニ紙鑑ヲ置キ、定規ノ一邊ヲ輕ク磨シテ正シクナルマデ削リ改ムベシ。

**(六一)** 繩製三角定規 實測ノ場合ニ於テ、直角ヲ測ル爲メ直角定規ヲ使用スルトキ、普通ノ三角定規ニテハ小ニ過ギ誤差ヲ生ズル虞アリ、故ニ、カ、ル場合ニハ、繩製ノ大ナル直角定規ヲ使用スルヲ可トス、繩製ノ直角定規ハ最モ簡單ニ製作スルヲ得ベシ、即チ、第二十五圖ニ示ス如ク「イロ」



圖五十二第

ノ長サヲ三、「ロハ」ノ長サヲ四、「イハ」ノ長サヲ五ナル割合トシテ三ツノ絲ヲ結ヒ付ケ、結目ニハ握糸ヲ附スベシ、使用スルトキ其ノ握糸ヲ三方ニ引キ張レバ「ロ」ハ直角トナルベシ、而シテ各邊ノ長サハ三、四、五ノ比ヲ爲ストキハ長サノ單位ハ尺、間、米突等何單位ニテモ同様ナリ。

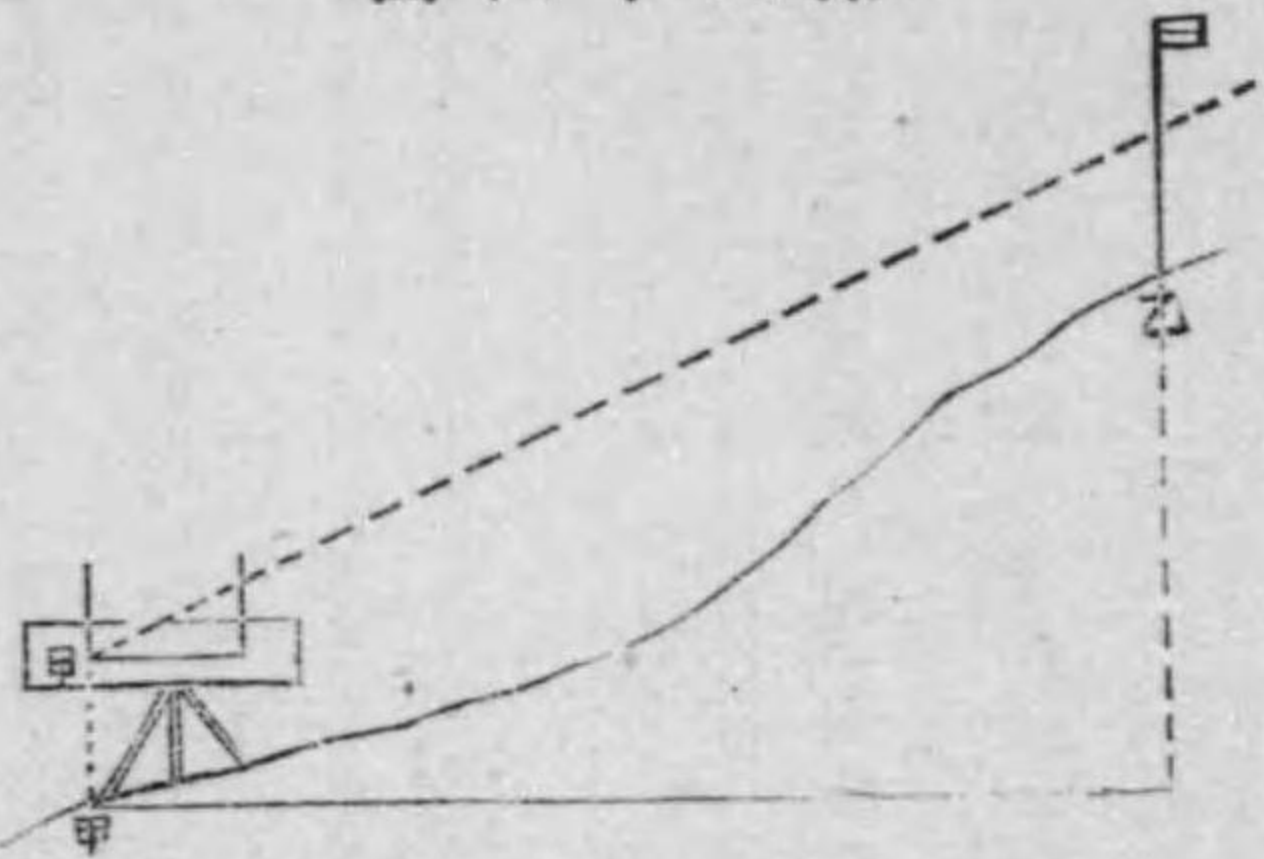
### 第二節 距離測量

距離ノ測量ハ第三章第三節ノ距離測量ト同一ナルヲ以テ(二六乃至二八)ヲ参照セラルベシ唯此處ニハ平板測量ニ特別ナル傾斜距離ヲ測リテ水平距離ニ換算スルノ方法ニ付キテ説明セントス。

傾斜地ニ於テ傾斜ノ角度ヲ知ルトキハ、傾斜距離ニ傾斜角度ノ餘弦ヲ乘シテ水平距離ヲ求ムルヲ得ベシ、故ニ、平板測量ニ在リテモ照準儀ノ直平板ニ目盛スルトキハ傾斜ノ角度ヲ知り得ベキニ依リ、傾斜距離ヲ測リテ水平距離ニ換算スルヲ得ベシ、而シテ照準儀ノ目盛ハ前後兩直平板ノ間隔ヲ百等分シタルモノ(九寸ノ照準儀ナレバ一ツノ目盛ハ九厘トナリ、七寸ノ照準儀ナレバ一ツノ目盛ハ七厘トナルベシ)ヲ前直平板ニ視孔ト同ジ高サヨリ目盛セルモノニシテ登傾斜ハ最下部ノ視孔ト同一高サヲ零トシ、降傾斜ハ最上部ノ視孔ト同一高サヲ零トシテ目盛スベキモノニシテ、登リハ右側ニ、降リハ左側ニ目盛スルヲ普通トス。

(六二) 傾斜距離ヲ測リテ水平距離ニ換算スル法 第二十六圖ノ如ク(甲)(乙)二點間ノ距離ヲ低キ方ヨ

圖六十二第



リ測ラントスルトキハ、先ヅ(甲)點ニ平板ヲ据エ(乙)點ニ標桿ヲ立ツベシ、次ニ地上ノ(甲)點ヨリ平板上ニ乗セタル照準儀ノ最下部視孔マデノ高サヲ測リテ、(乙)點ノ標桿ニ其ノ高サニ等シキ標桿ヲ付スベシ、然ル後照準儀ノ最下部ノ視孔ヨリ視シテ(乙)點ノ標桿ニ印サレタル點ヲ視テ登リノ目盛ヲ讀算スベシ、次ニ(甲)(乙)二點間ノ傾斜距離ヲ正シク實測シ、其ノ距離ニ先ニ讀算シタル分刻ノ乘率ヲ(六五)ノ乘率表ニ依リテ求メ之レヲ乘スルトキハ水平距離ヲ得ベシ、例ヘバ讀算シタル分刻ガ三十三ニシテ傾斜距離五十間ナリトスレバ三十ノ乘率〇、九五七八ヲ五十間ニ乘シテ次ノ如ク水平距離四十七間八分九厘ヲ得ベシ。

$$50 \times 0.9578 = 47.89$$

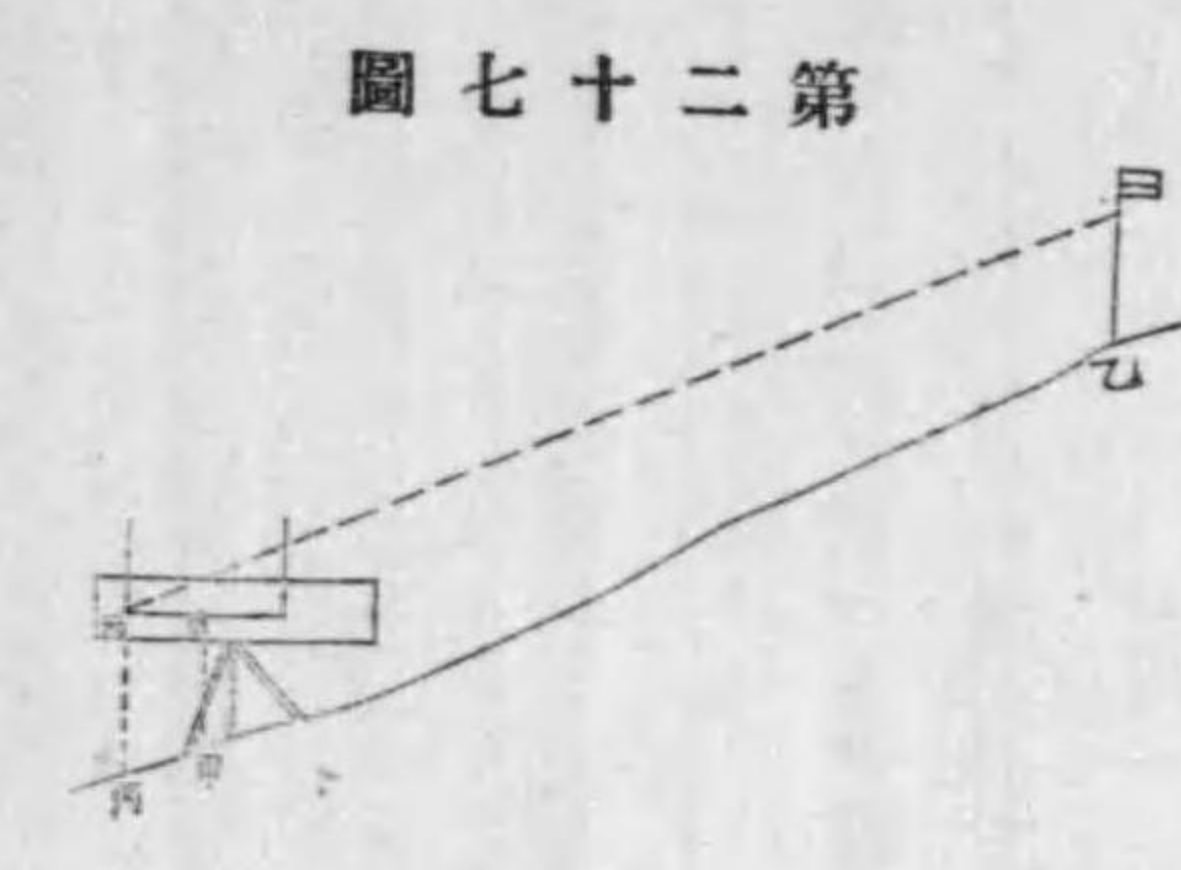
高キ方ニ平板ヲ据エタル場合ニ於テハ、標桿ニ印スベキ高サハ、地上點ヨリ照準儀ノ最上部ノ視孔マデノ高サニシテ測ルベキ方法等ハ前同様ナリ、而シテ何ゾレノ場合ニ於テモ標桿ニ印サレタル點ヲ視シタル際、視線ガ正シク分刻ニ恰當セザルトキハ、其ノ視線ニ近キ分刻ヲ讀算スベキナリ、又分刻ヲ讀算スル場合ニハ照準儀ノ視孔ヲ地上點ノ眞上ニ置カザルベカラズ(些少ノ差異ハ若支ナシ)然レドモ視孔ヲ地上點ノ眞上ニ置クガ爲メ標桿ノ印サレタル部分ガ平板ノ端ニ妨ゲラレ視視シ



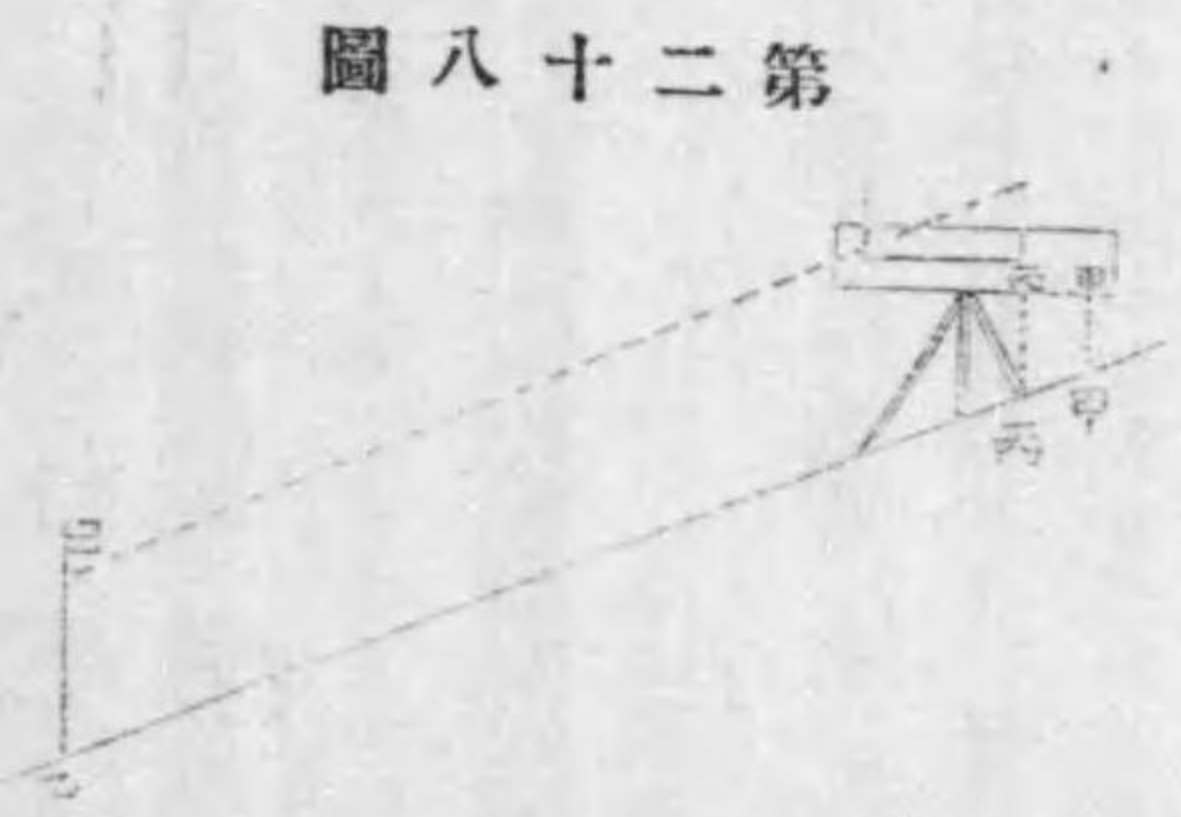
得ザル場合アリ、此ノ場合ニハ次ノ如ク爲スベシ。

(六三) 第二十七圖ノ如ク底キ方ヨリ高キ方ヲ視視スル場合ニハ(甲)點ト(乙)點トノ見通線ニ沿フテ(乙)點

ノ標桿ガ都合ヨク視得ルマデ照準儀ヲ後方ニ引寄セ(視孔ノアル位置ヲ求心器ニ依リ地上ニ表示シ假ニ之レヲ(丙)點ト名付)前同様ノ方法ニ依リテ(乙)(丙)二點間ノ水平距離ヲ求メ之レヨリ(甲)(丙)二點間ノ水平距離ヲ減ズルトキハ(甲)(乙)二點間ノ水平距離ヲ得ベシ。



圖七十二第



圖八十二第

(六四) 第二十八圖ノ如ク高キ方ヨリ底キ方ヲ視視スル場合ニハ(甲)點ト(乙)點トノ見通線ニ沿フテ(乙)點ノ標桿ガ都合ヨク視得ルマデ反對ニ照準儀ヲ前方ニ突出シ(視孔ノアル位置ヲ求心器ニ依リ地上ニ表示シ假ニ之レヲ(丙)點ト名付)前同様ノ方法ニ依リ(乙)(丙)二點間ノ水平距離ヲ求メ、之レニ(甲)(丙)二點間ノ水平距離ヲ加算スレバ(甲)(乙)二點間ノ水平距離ヲ得ベシ。

(六五) 傾斜距離換算ノ乗率表

一分別 十分別	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1.0000	1.0000	0.9998	0.9996	0.9992	0.9988	0.9982	0.9976	0.9968	0.9960
10	0.9950	0.9940	0.9929	0.9917	0.9903	0.9889	0.9874	0.9859	0.9842	0.9824
20	0.9806	0.9787	0.9766	0.9746	0.9724	0.9701	0.9678	0.9654	0.9630	0.9604
30	0.9578	0.9552	0.9524	0.9496	0.9468	0.9439	0.9409	0.9379	0.9348	0.9317
40	0.9285	0.9253	0.9220	0.9187	0.9153	0.9119	0.9085	0.9050	0.9015	0.8980
50	0.8944	0.8908	0.8872	0.8836	0.8799	0.8762	0.8725	0.8688	0.8650	0.8613
60	0.8575	0.8537	0.8499	0.8461	0.8423	0.8384	0.8346	0.8308	0.8269	0.8231
70	0.8192	0.8154	0.8115	0.8077	0.8038	0.8000				

凡例 本表ニ依リ今三十五ノ乗率ヲ求メトスレバ十分刻ノ欄ヲ三十マデ下リ一分刻ノ欄ヲ五マデ進ミテ縦横ノ切合ナル0.9439ヲ求ムベシ其他之ニ倣フ。

### 第三節 平板測量法

(六六) 平板測量(測板式測量) 平板測量ハ實地ノ形狀ヲ圖紙上ニ縮書スルノ方法ナリ、而シテ之レガ面積ヲ計算スル場合ニハ數多ノ三角形ニ區分シ、底邊長、垂線長、ヲ尺度ニテ測リ求積スルガ故ニ一名圖解法測量ノ稱アリ。

(六七) 縮尺 實地ノ形狀ヲ圖紙上ニ縮書スルハ、任意ノ縮尺割合ニ依ルヲ得ベク、即チ實測距離ヲ圖紙上ニ現ハストキ一間ヲ一分トシテ計算スレバ六百分ノ一、一間ヲ五厘トスレバ千二百分ノ一、一間ヲ二分トスレバ三百分ノ一ノ測量圖ヲ得ベシ而シテ一筆地測量ニ於テハ主トシテ六百分ノ一ノ縮尺割合ニ依リ、面積狭少ナル耕地墓地及市街地ノ如キハ三百分ノ一、面積廣大ナル山林原野等ハ適宜ノ縮尺割合ニ依ルヲ普通トス。

(六八) 圖上點ノ表示 圖紙上ニ點ヲ表示スルニハ、測量針ニテ針孔ヲ穿チテ之レヲ圖紙上ノ點トス、尙作業ノ際其ノ點ヲ視易スカラシムル爲メ、針孔ニ徑約五厘ノ小圈ヲ描クベシ、而シテ實測ノ際太キ縫針又ハ「ピン」等ヲ使用シテ針孔ヲ穿ツトキハ、其ノ針孔ハ徑一厘以上トナルベシ、從テ六百分ノ一ノ縮圖ニアリテハ距離一分以上(實地ノ距離六寸以上)ノ誤差ヲ生ズル虞アリ故ニ實測ノ場合ニハ針孔ヲ大ナラシメザル様注意スベク又圖上ノ點ニ依リ方向ヲ視視スルトキ照準儀ノ定規ノ線ガ

圖上點ニ植立シタル針ヲ離レ、又ハ針ノ曲リタルニ氣付カザルコトアルヲ以テ、照準儀ニ依リ方向ヲ視視スル場合ニハ右手ノ指頭ヲ以テ輕ク測量針ノ頭ヲ抑ヘテ眞直ナラシメ、照準儀ハ其ノ針ヲ機軸トシテ除カニ其ノ方向ニ廻轉セシムベシ。

(六九) 測量方法ノ分類 平板測量ハ作業ノ方法ニ依リ之レヲ分類スルトキハ左ノ三種ニ區別セラ

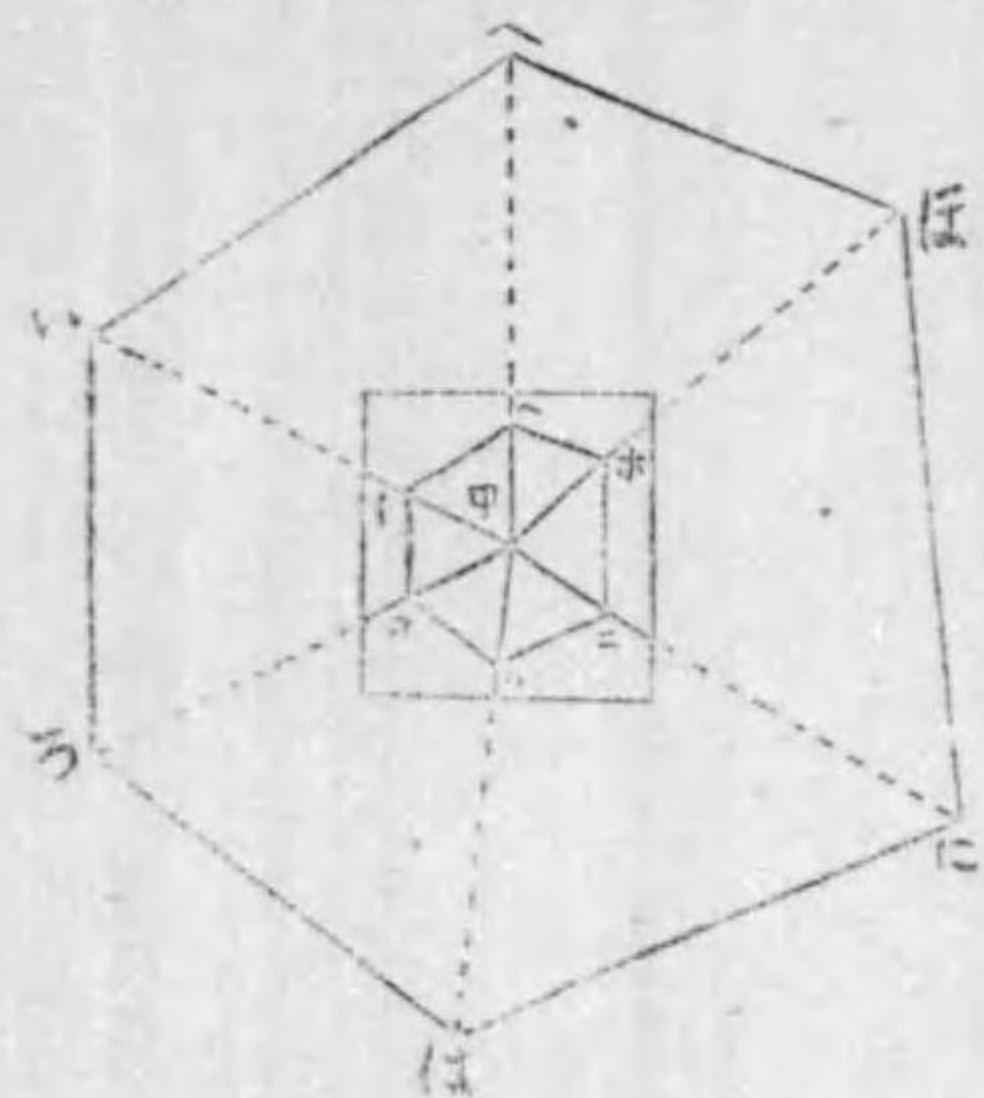
- 一、射出法(光線法、放散法トモ云フ)
- 二、進測法(前進法、道線法トモ云フ)
- 三、交會法(交切法、交叉法トモ云フ)

以上三種ノ區別ハ、作業ノ方法ニ依ル分類即チ圖紙上ニ縮書スル方法ノ異ナルニ從フテ區別セルモノナルモ、圖紙上ニ縮書スルノ方法ハ尙能ク吟味スルトキハ、距離ヲ測定スルコト、竝ニ方向線ヲ測書スルコトノ二ツニ歸着スベシ、而シテ距離ノ測量ハ第二節ニ述ベタルヲ以テ以下測量方法ニ付キテ説明セントス。

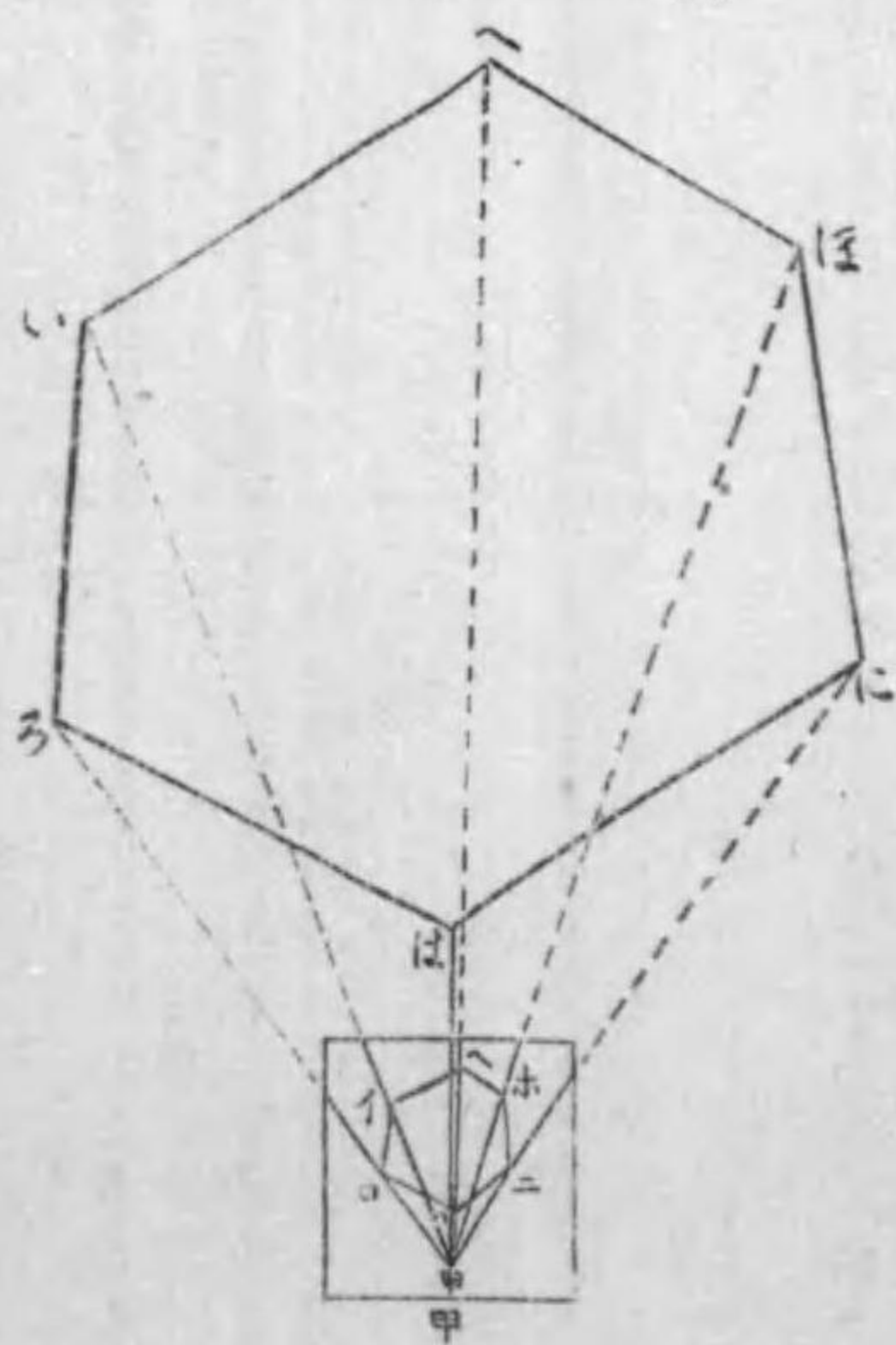
#### 射出法

(七〇) 射出法 射出法ハ平板測量中最モ簡單ニ測量シ得ル方法ニシテ、第二十九圖ニ示スガ如キ

(一)圖九十二第



(二)圖九十二第



土地ヲ測量セントスルハ、既知點アルハ其ノ既知點ニ平板ヲ据エベキモ、既知點ナキトキハ測地ノ内外ヲ問ハズ任意ノ場所ニ平板ヲ据付クベシ、即チ地上甲點ノ如キ場所ニ平板ヲ据エ圖紙上任意ノ場所ニ甲點ヲ定メ、求心器ニ依リテ圖上ノ甲點ト地上ノ甲點トヲ一致セシメテ平板ノ据付ヲ終ルベシ、次ニハ羅針ガ正シク南北準線ヲ指スマデ平板ヲ廻轉セシメテ方位ヲ合せ、然ル後、圖紙上ノ甲點ニ測量針ヲ立テ、照準儀ノ定規ノ線ヲ針ニ觸レシメツ、(イ)點ノ標桿ヲ視視シ標桿ト照準絲トヲ一致セシメテ、照準儀ノ定規ノ線ニ沿フテ(ツ)ノ方向線ヲ描キ、次ニ地上甲(イ)二點間ノ距離ヲ實測シ、其ノ距離ヲ縮尺ニ化シ圖上ノ甲點ヨリ計算シテ其長サ丈先ニ描キタル方向線上ニ採ルトキハ、圖紙

上ニイ点ヲ得ベシ、他ノ諸点モ同一作業ニ依リ測定シ、圖紙上ニ現ハシテ、各点ヲ結ヒ付クレバ「イロハニホヘ」ノ測圖ヲ得ベシ。

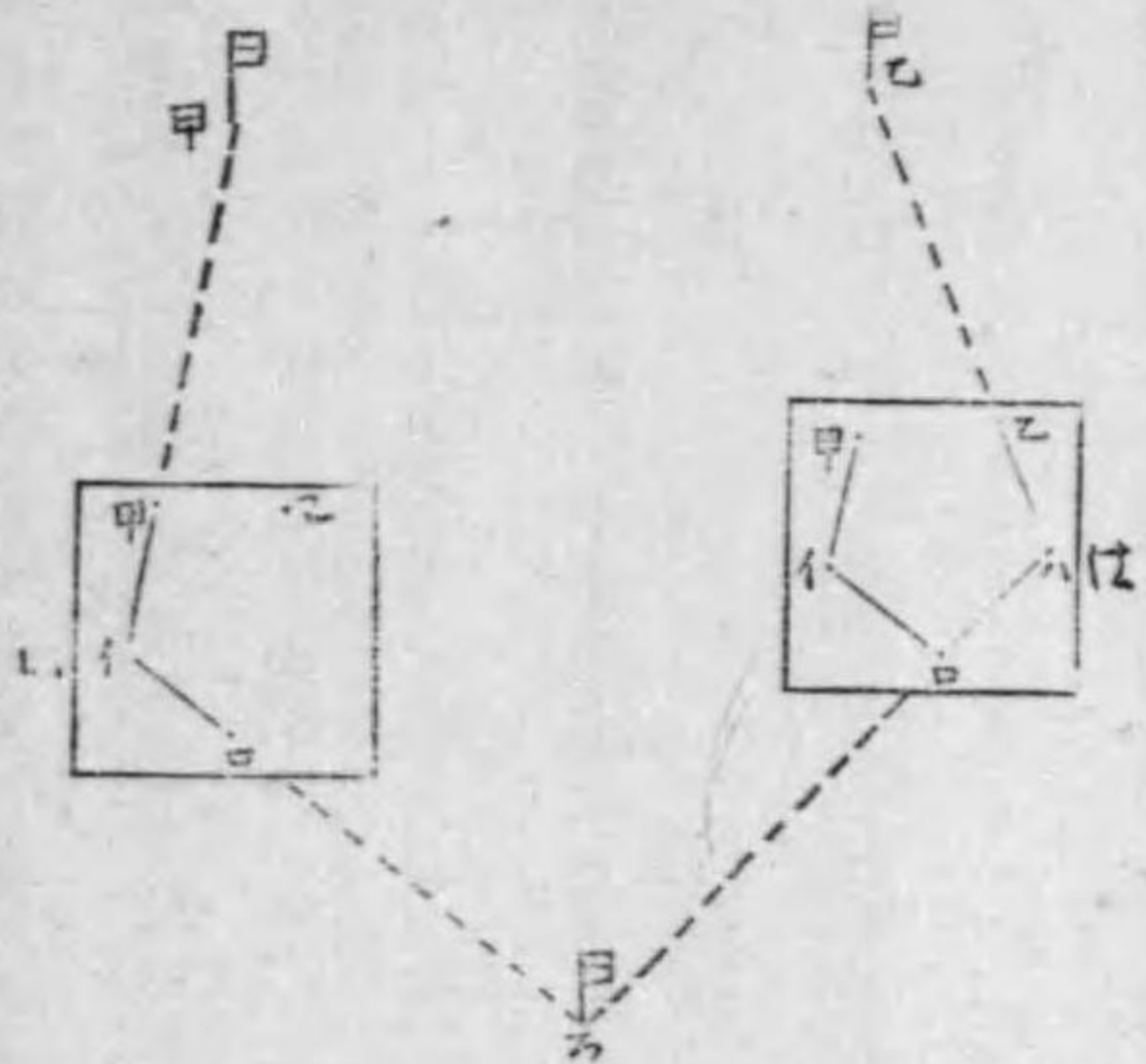
(七一)射出法ハ作業最モ簡單ナル丈、他ノ方法ノ如ク測量ノ結果ガ自然ニ点檢セララル、コトナン從ツテ作業ノ一部、即チ方向線ノ描畫、距離ノ實測、又ハ縮尺等ヲ誤ルトキハ誤謬ノ儘實測ヲ終ルニ至ル、而シテ以上ノ内最モ誤リ易キハ縮尺ナルガ如シ、故ニ、實測距離ハ之レヲ方向線上ニ記載シ置キ、再ビ縮尺ノ点檢ヲ行ヒ、又實測ヲ終リタルトキハ現場ニ於テ實地ト測圖トヲ對照シ測圖ガ實地ノ形狀ト符合スルヤ、及測点ノ誤脱等ナキヤニ注意スルトキハ、大体ノ誤リハ防グヲ得ベシ、尙精密ナル点檢ヲ爲サントスルトキハ、實地ニ於ケル周邊「いろ」ろは「はに」には「ほへ」「いへ」ヲ實測シテ圖上ノ距離ト對照シ符合ヲ認ムルカ、又ハ檢線「いろ」ろに「へは」ヲ實測シ、圖上ノ距離ト對照シテ符合ヲ認ムルトキハ、各点ハ誤リナク測量セラレタルモノニシテ、測圖ノ正確ナルヲ知ルベシ。

進測法

(七二)進測法 進測法ハ連續諸点ノ距離ヲ實測シ測点ノ位置ヲ決定スル方法ニシテ、或ル既知点ヨリ出發シテ他ノ既知点ニ閉塞セシムルカ、又ハ出發点ニ閉塞セシムルモノナリ、而シテ此ノ方法ニハ單規法、複規法ノ區別アリ。

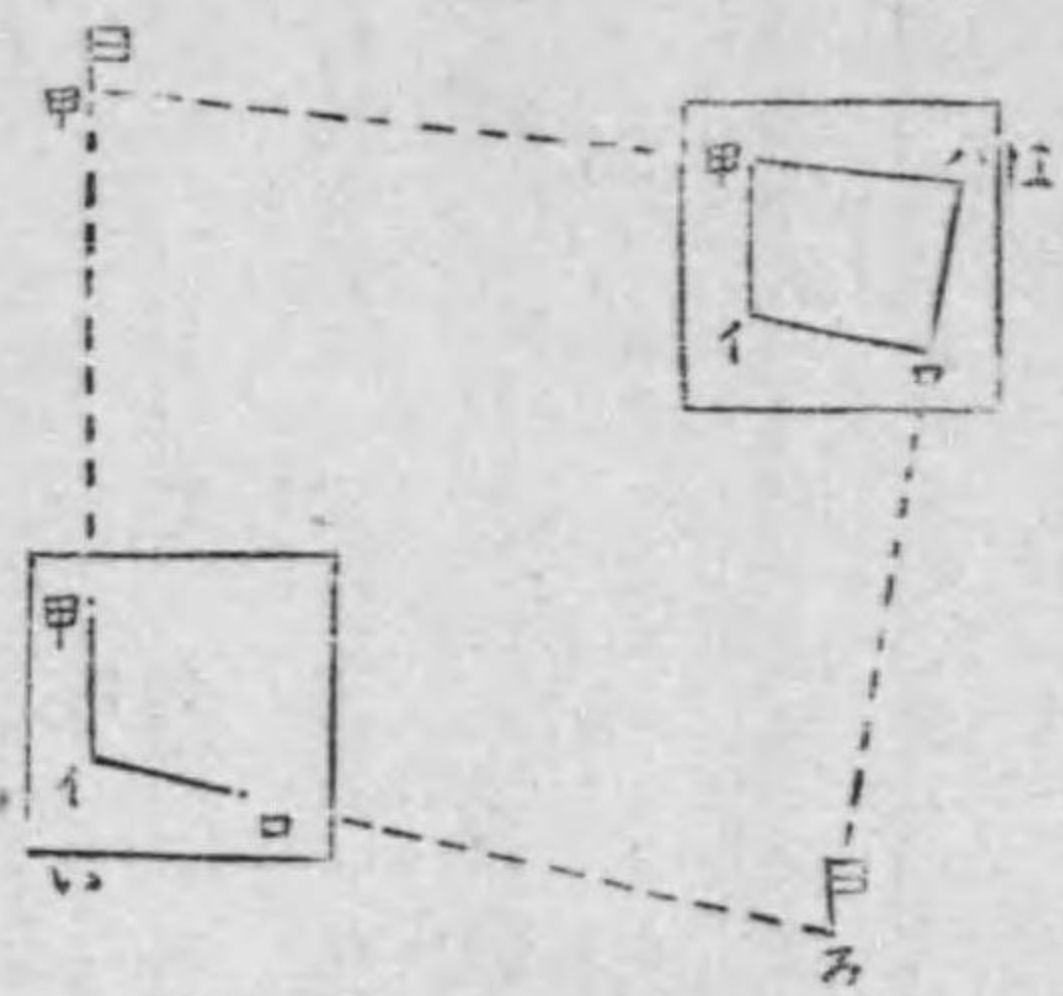
(七三) 單規法 單規法ハ平板ヲ隔一点毎ニ据付クル方法ニシテ、既知点(甲)ヨリ出行シテ未知点(乙)ヲ測リ既知点(乙)ニ閉塞セシメントスルカ (既知点ヨリ出行シテ他ノ既知点ニ) 又ハ(甲)点ヨリ出行シテ未知点(乙)ヲ測リ既知点(乙)ニ閉塞セシメントスルカ (既知点ヨリ出行シテ其ノ點ニ閉塞) 先ヅ(乙)点ニ至リ平板ヲ据付ベシ(乙)点ニ平板ヲ据ウル場合ニ、(乙)点ハ未知点ナレバ平板上ニ現レ居ラズ故ニ此ノ場合ニハ地上ノ(甲)点ト平板上ノ(甲)点トヲ對比シテ(乙)点ガ平板上ニ相當スル大体位置ヲ推想シ、其ノ推想シタル圖紙上ノ位置ト地上ノ(乙)点トヲ求心器ニ依リ一致セシメテ平板ノ据付ヲ終ルモノトス、次ニハ

圖十三第



方位ヲ羅針ニ依リ定メ、然後平板上ノ(甲)点ニ測量針ヲ立テ、照準儀ノ定規ノ線ヲ沿ハセ、(甲)点ノ標桿ヲ視視シテ(甲)点ヨリ手前ノ方ニ一ツノ方向線ヲ描キ、次ニハ(甲)点ニ二点間ノ距離ヲ實測シ(實測距離ハ方向線ニ沿ハセ記載シ置クヲ可トス) 其ノ距離ヲ縮尺シテ、先ニ描キタル方向線上ニ其ノ長サ丈探ルトキハ(乙)点ヲ得ベシ、次ニハ(乙)点ニ測量針ヲ立テ(乙)点ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描キ、前同様(乙)点ニ二点間ノ距離ヲ實測シ其ノ距離ヲ縮尺シテ方向線上ニ探ルトキハ(乙)点ヲ得ベシ、之レニテ(乙)点ニ於ケル作業ヲ終リタルモノナリ。

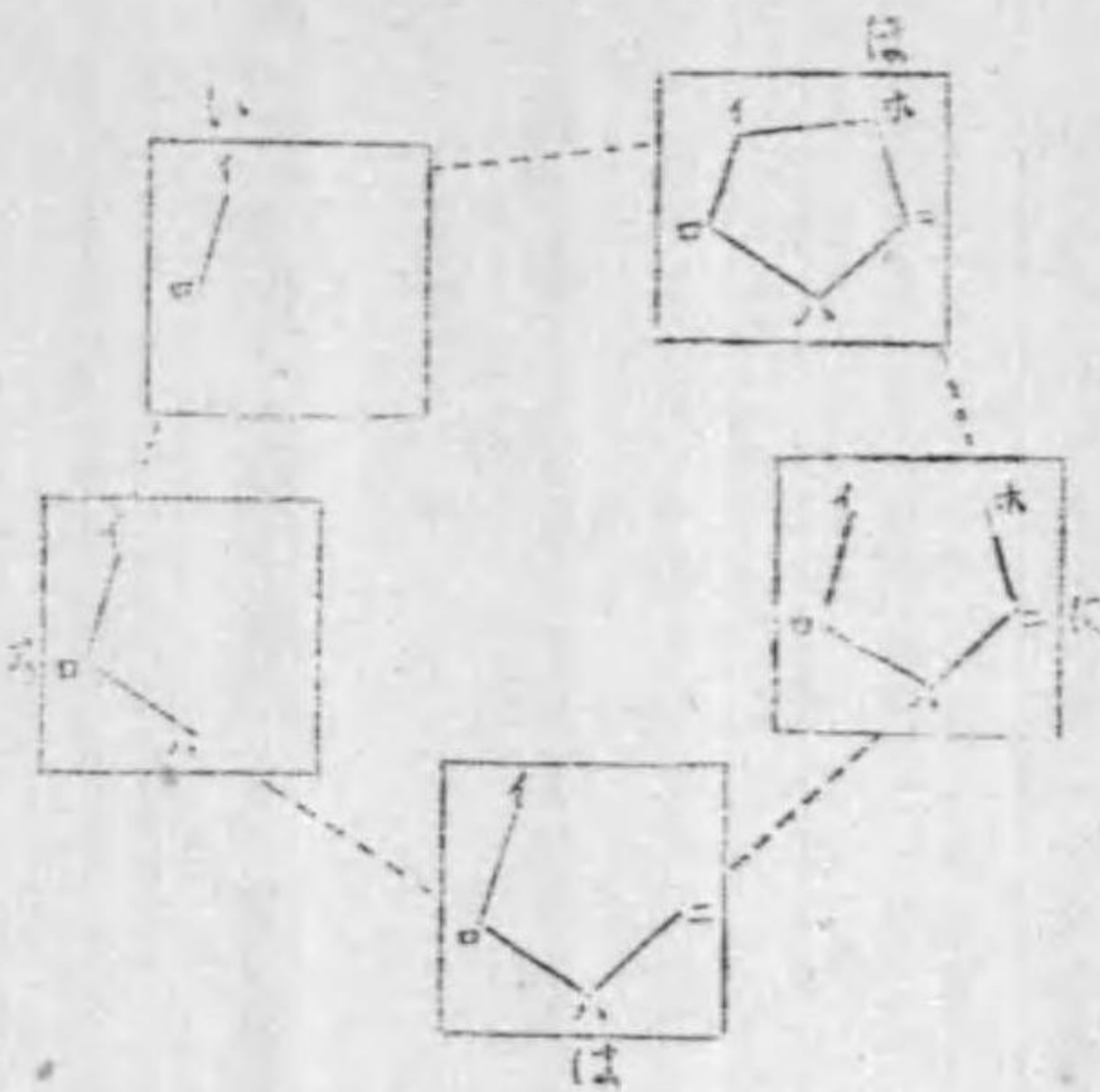
圖一十三第



ノナリ。他ノ諸点ハ、隔一点毎ニ平板ヲ据エ同操作ヲ繰返シテ測量スルニ過ギズ、即チ(乙)点ニ移リ、(乙)点ニ平板ヲ据付タルト同様ニシテ平板ヲ据エ、方位ハ同様羅針ニ依リテ定ムベシ、次ニハ(乙)点ニ測量針ヲ立テ、(乙)点ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描キ、(乙)点ニ二点間ノ距離ヲ實測シ、方向線上ニ其ノ縮尺長ヲ探リテ(乙)点ヲ求メ、次ニハ(乙)点ニ測量針ヲ立テ(乙)点(第三十圖)又ハ(甲)点(第三十一圖)ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描キ、(乙)点(第三十圖)ニ二点間又ハ(甲)点(第三十一圖)ニ二点間ノ距離ヲ實測シ、其ノ縮尺長ヲ方向線上ニ探ルトキハ夫レト(乙)点又ハ(甲)点ニ閉塞スベシ。

(七四) 複規法 複規法ハ每点ニ平板ヲ据付ケ測量スル方法ニシテ第三十二圖ノ如キ土地ヲ測量セントスルトキハ(乙)点ニ至リ平板ヲ据付ベシ、此ノ場合ニ於テ、(乙)点ガ既知点ナルトキハ直チニ平板上ノ(乙)点ト地上ノ(乙)点トヲ求心器ニ依リテ一致セシメ得ルモ既知点ナラザルトキハ平板上ニ任意ニ一ツノ点ヲ設ケ、之レヲ平板上ノ(乙)点ト定メテ地上ノ(乙)点ト求心器ニ依リ一致セシムルモノトス、次ニハ羅針ニ依リ方位ヲ定メ、然後(乙)点ニ測量針ヲ立テ、(乙)点ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描キ、

圖二十三第



次(いろ)二点間ノ距離ヲ實測シテ、其ノ縮尺長ヲ方向線上ニ探ルトキハ(□)点ヲ得ベシ、之レニテ(い)点ノ作業終リタルモノナレバ器械ヲ(ろ)点ニ移シテ正シク平板ヲ据エ、方位ハ「いろ」邊ニ依リテ定ムベシ、即チ平板上ノ「イロ」線ニ正シク照準儀ノ定規ノ線ヲ沿ハセ、(い)点ノ標桿ヲ視通シ、標桿ト照準絲ガ一致スルマデ平板ヲ旋回スレバ方位ハ定マルモノナリ、故ニ羅針ノ止螺旋ヲ緩メテ之レヲ檢スレバ、磁針ハ正シク南北準線ヲ指示シテ静止スルニ至ルベシ、次ニ(ロ)点ニ測量針ヲ立テ、(は)点ノ標桿ヲ視シテ方向線ヲ描キ、(ろ)は二点間ノ距離ヲ實測シ其ノ方向線上ニ縮尺距離ヲ探リテ(ハ)点ヲ求メ、(ろ)点ノ作業ヲ終ルモノトス、(は)に(ほ)ノ諸点ニ於テモ順次(ろ)点ニ於ケルト同操作ヲ繰返シテ、各点ノ測量ヲ終リ、(い)点ニ閉塞セシムルモノトス。

(七五) 進測法ハ何レノ点ヨリ出發シテ何レノ方向ニ進ムモ、同一ナル結果ヲ得ルヲ以テ差支ナキモ、操作ノ便宜上測地ヲ左方ニ見テ右方ニ進ムヲ普通トス。

(七六) 單規法ハ隔点毎ニ平板ヲ据エ、且ツ平板ヲ据ウルトキニハ地上点ト圖上ノ大体位置トヲ求

心器ニ依リ一致セシメ、又方位ハ、羅針ニ依リ定ムル結果不精密ナルヲ免レズ、故ニ、進測法ハ複規法ニ依ル可ナリトス、若シ單規法ニ依リタル場合ニハ圖上ノ方向線長(即チ二点間ノ縮尺距離)ヲシテ羅針ノ長サノ半ヲ超過セシメザル様注意スベシ、斯クスルニ於テハ羅針ニ依リ方位ヲ定ムル爲メ生ズル誤差ヲシテ妙カラシムルヲ得ベシ。

(七七) 閉塞差及其配分法 進測法ニ依リ測量シタル場合ニ於テ、閉塞差(四二)参照)ヲ生ジタルトキハ、閉塞差ノ配分ヲ爲サルベカラズ、其ノ配分方法並ニ閉塞差許容ノ範圍ハ第三章第八節ニ説明シアルヲ以テ(四二—四四)ヲ参照シテ改正スベシ、而シテ同章ニ説明セル配分方法ハ距離ニ比例シテ配分スル方法ナルモ、平板測量ノ如キ簡易測量ニ於テハ、必ズシモ距離ニ比例スルヲ要セズ、各点間同一誤差ヲ生ジタルモノト看做シテ、各点ニ配分スベキ量ヲ、左記ノ式ニ依リ計算シテ配分スルモノナリトス。

$$\frac{\text{閉塞差}}{\text{邊數}} \times 1 = \text{第一点配分數}$$

$$\frac{\text{閉塞差}}{\text{邊數}} \times 2 = \text{第二点配分數}$$

$$\frac{\text{閉塞差}}{\text{邊數}} \times 3 = \text{第三点配分數}$$

土地測量法 第四章 平板測量法

閉塞差  $\times 4 =$  第四點配分數

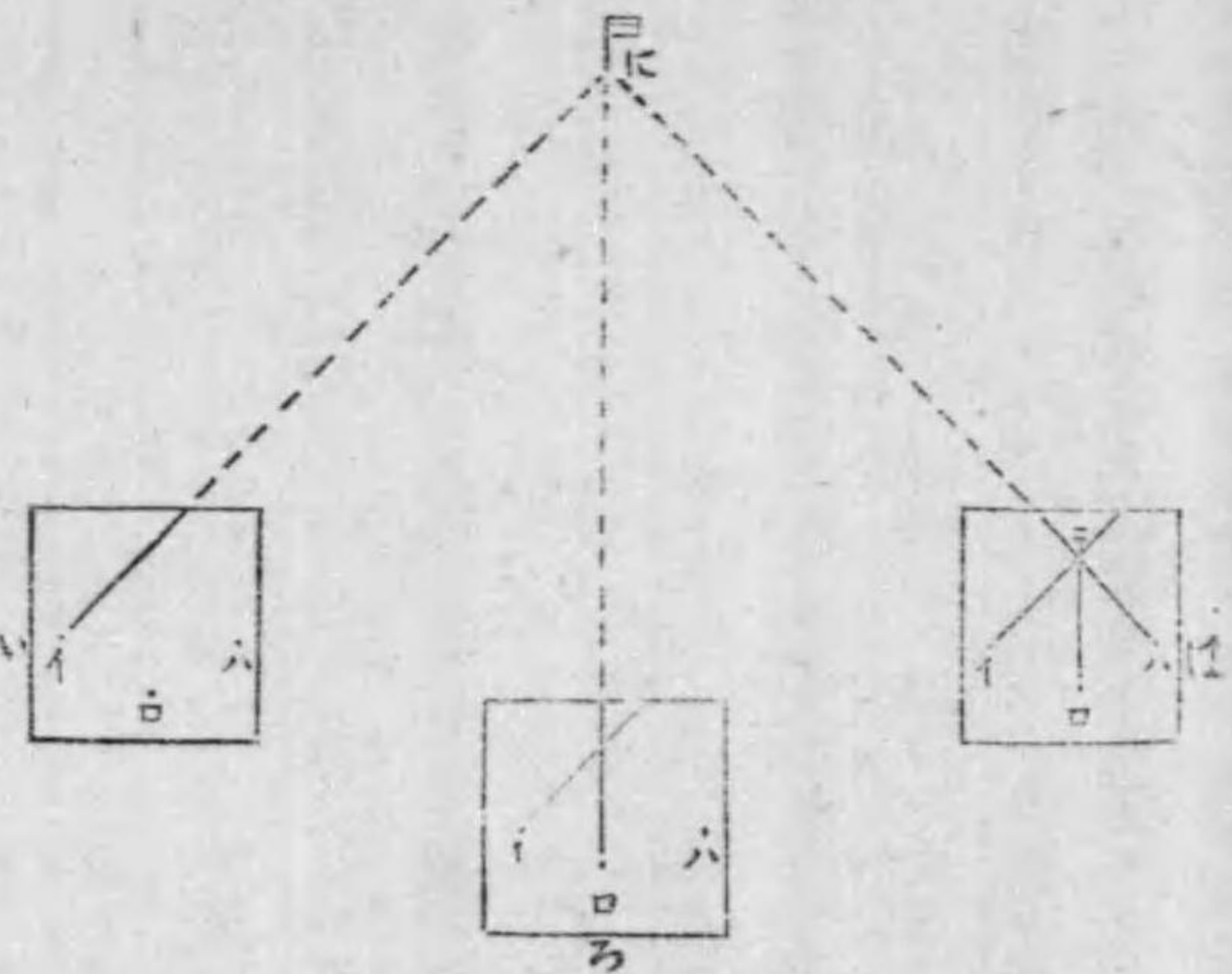
閉塞差  $\times$  邊數  $=$  最終配分數 即チ閉塞點ニ配分セラルルニキ數ニ閉塞差邊數

但シ第一點トハ出行點ノ次ノ點ニシテ順次第二點第三點トナル  
交會法

(七八) 交會法 ハ視視線ノ交會ニ依リ點ノ位置ヲ測定スル方法ナリ。而シテ交會法ハ、二視視線ノ交會ニ依リ測定スルヲ得ルモ、二直線ハ平行ナラザル限り何レカニテ交會スルヲ以テ、誤測ヲ發見セズシテ終局スルコトアリ、故ニ、交會法ハ三視視線ノ交會ニ依ルヲ可ナリトス、而シテ三視視線ノ交會角度ハ相互ニ三十度以上百五十度以下ノ角ニテ交會セシメ、誤差ヲ尠カラシムベシ、交會法ハ亦作業方法ノ差異ニ依リ細分スルトキハ前方交會法、後方交會法、側方交會法ノ三ツニ區別セラル。

(七九) 前方交會法 第三十三圖ノ如ク(いろ)はノ既知點ニ依リ前方交會法ヲ行フテ、未知點(に)ヲ測ラントスルトキハ、先以テ總テノ點ニ標桿ヲ立テ、地上ノ(い)點ニ至リ平板ヲ据エ方位ヲ定ムベシ、方位ヲ定ムルニハ平板上ノ(イ)點及(ロ)點ニ測量針ヲ立テ、之レニ照準儀ノ定規ノ線ヲ沿ヘ地上ノ(ろ)點ノ標桿ヲ視視シテ(ろ)點ノ標桿ガ照準絲ニ重ナリ合フマデ平板ヲ旋回シテ固定スレバ方位ハ定マルベシ、(平板上ニ二ツ以上ノ既知點アルトキハ、必ズ方位ハ、羅針ニ依ラズ既知點ニ依リ定ムベキナリ)、次ニ平板上ノ(い)點ニ測量針ヲ立テ、照準儀ヲ沿ヘ、地上ノ(ろ)點ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描クベシ、之レニテ(い)點ノ作業ヲ終リタルモノナレバ、平板ヲ(ろ)點ニ移シテ(い)點ニ於ケルト同一作業ヲ行フベシ、即チ、正シク平板ヲ据エ、方位ハ(いろ)或ハ(ろ)はノ既知點ニ依リテ定メ、然ル後(ロ)點ニ測量針ヲ立テ、(に)點ノ標桿ヲ視視シテ方向線ヲ描キ、(い)點ニテ描キタル方向線ト交會セシメテ(ろ)點ノ作業ヲ終リ、次ニ(は)點ニ移リテ平板ヲ据エ、(ろ)點ニ於ケル作業ト同一操作ヲ行フテ方向線ヲ描ケバ、三ツノ方向線ハ一點ニ於テ交會スベシ、此ノ交叉點ハ即チ地上ノ(に)點ニ相當スルモノナレバ、測量針ニテ穴ヲ穿チ、小圈ヲ繞ラシテ(ニ)ノ符號ヲ付スベシ。

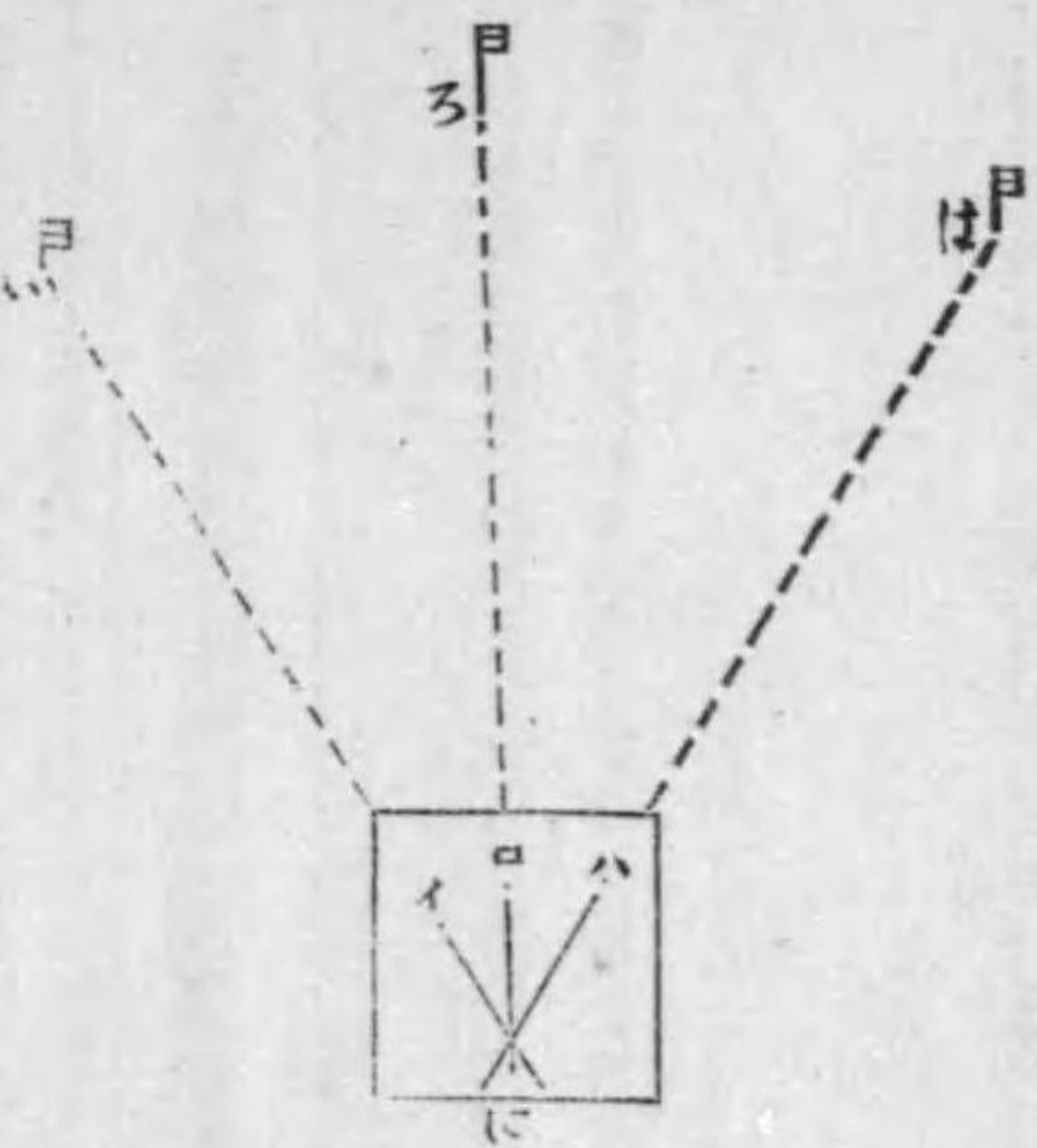
第三十三圖



チ地上ノ(に)點ニ相當スルモノナレバ、測量針ニテ穴ヲ穿チ、小圈ヲ繞ラシテ(ニ)ノ符號ヲ付スベシ。  
(八〇) 既知點アルトキハ直チニ前述ノ如クシテ測量スルヲ得ルモ、既知點ナキトキハ先以テ三ツノ點ヲ定メテ後前述ノ作業ヲ爲スベキナリ、即チ第三十四圖ノ(に)點ヲ測ラントスルニ既知點ナキト



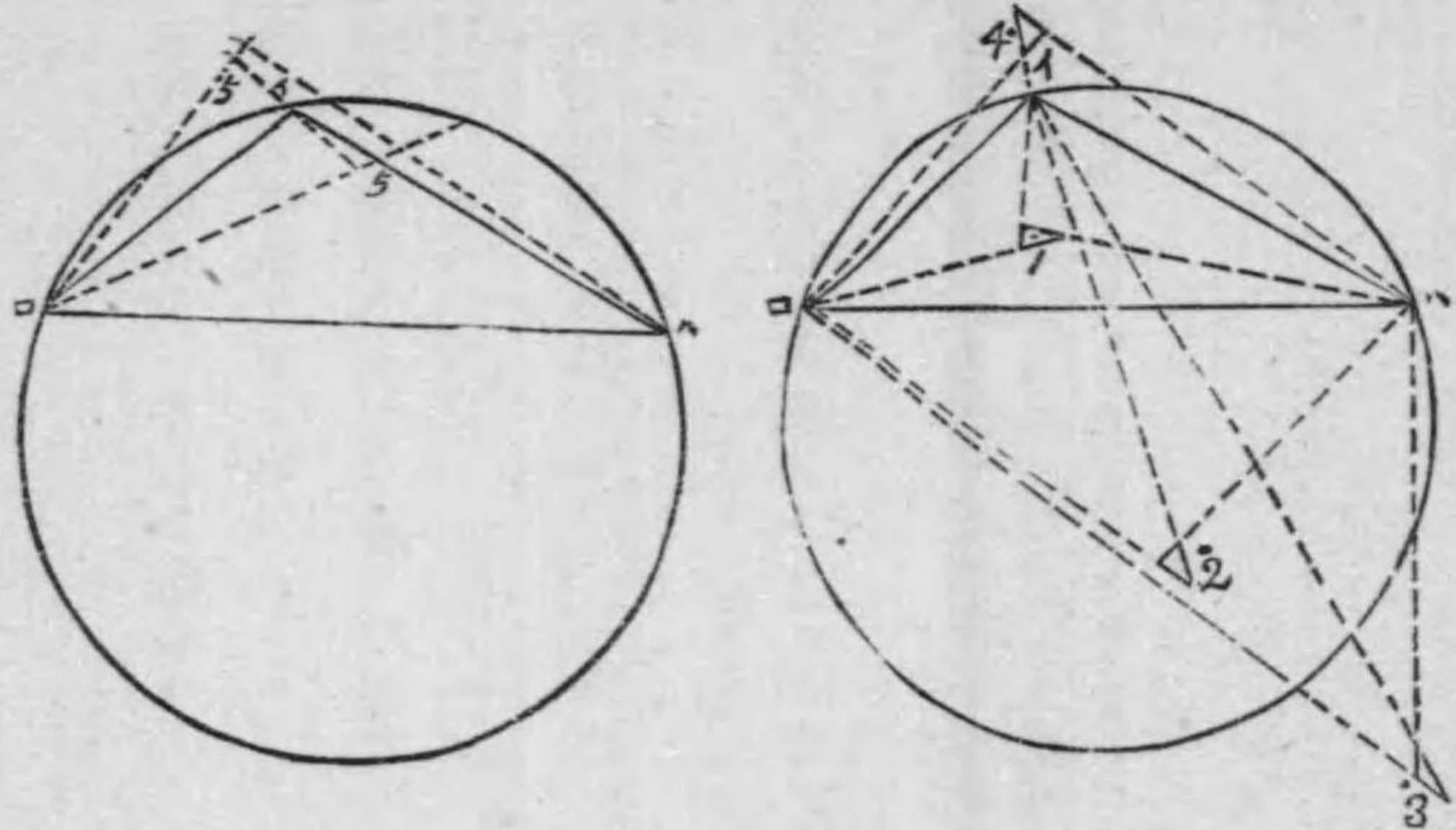
圖五十三第



ノ場合ニ於テ、求心器ニ依リ圖上點ト地上點トヲ一致セシメントスルモ、(1)點ハ未知點ナルヲ以テ圖紙上ニ現ハレ居ラズ故ニ地上點ト一致セシムベキ圖紙上ノ點ハ、地上ノ(1)點ト(1)點トノ方向、並ニ距離等ヲ目測シテ圖紙上ノ(1)點ト比較シ、大体(1)點ガ現ハル、圖紙上ノ想像位置ト一致セシムベキナリ、方位ハ亦既知點二以上アルモ、(2)點ガ未知點ナルヲ以テ羅針ニ依リ定メ、然ル後(1)點ニ測量針ヲ立テ、地上(1)點ノ標桿ヲ覘視シ、(1)點ヨリ後方ニ一ツノ方向線ヲ描キ、次ニ(2)點ニ測量針ヲ移シテ(2)點ノ標桿ヲ覘視シ、後方ニ方向線ヲ描キ、(3)點ヨリモ同操作ヲ施シテ方向線ヲ描クトキハ、三覘視線ハ一点ニ交會スベシ、此ノ交會点ハ即チ地上ノ(1)點ニ相當スルモノナレバ、針ヲ以テ穴ヲ穿チ(1)ノ符號ヲ付シテ測量ヲ終ルモノトス。

(八三) 後方交會法ニ於テモ三覘視線ガ一点ニ交會セズシテ示誤三角形ヲ現ハスコトアリ、而シテ此ノ示誤三角形ノ生ズル原因ハ、未知點ニ平板ヲ据エタル際方位ガ正方位ヨリ少シク偏倚シテ平板ガ据付ラレタル結果ナレバ、平板ヲ少シク旋回シテ方位ヲ正シクセバ示誤三角形ハ消除スルヲ得ベシ

圖六十三第



シ而シテ何レノ方向ニ幾何平板ヲ旋回シテ可ナリヤヲ知ラントスレハ、其ノ點ノ眞位置ガ大体何處ニアリヤヲ知ルヲ便ナリトス、故ニ今之等ノ關係ヲ吟味セントス、第三十六圖(1)點ヨリ描カレタル三覘視線ガ一点ニ交會セズシテ示誤三角形ヲ現ハシタリトセバ、(1)點(2)點(3)點ヲ連結シテ三角形ヲ作り、更ニ之レニ外接スル圓ヲ描クモノトスレハ、(1)點(2)點(3)點ト、示誤三角形及測点ノ眞位置(眞位置ハ圖中・印ヲ以テ表示ス)トハ、次ノ如キ關係アリ、故ニ略々其ノ眞位置ヲ推測シ、其ノ推測點ニ照準儀ノ定規ノ線ヲ沿ハセ、既知點(1)點ハ何レカラ覘視シテ、標桿ト照準絲ガ一致スルマデ平板ヲ旋回スレバ方位ハ正シウセラル、ナリ、從テ再ビ後方交會法ヲ行ヘバ、示誤三角形ハ消除セラレテ三覘視線ハ一点ニ交會スベシ、但シ此ノ操作ハ一回ニテハ充分其ノ目的ヲ達セザルコトアルヲ以テ示誤三角



形ガ消除セラル、マデ再三同操作ヲ繰返スベキナリ。

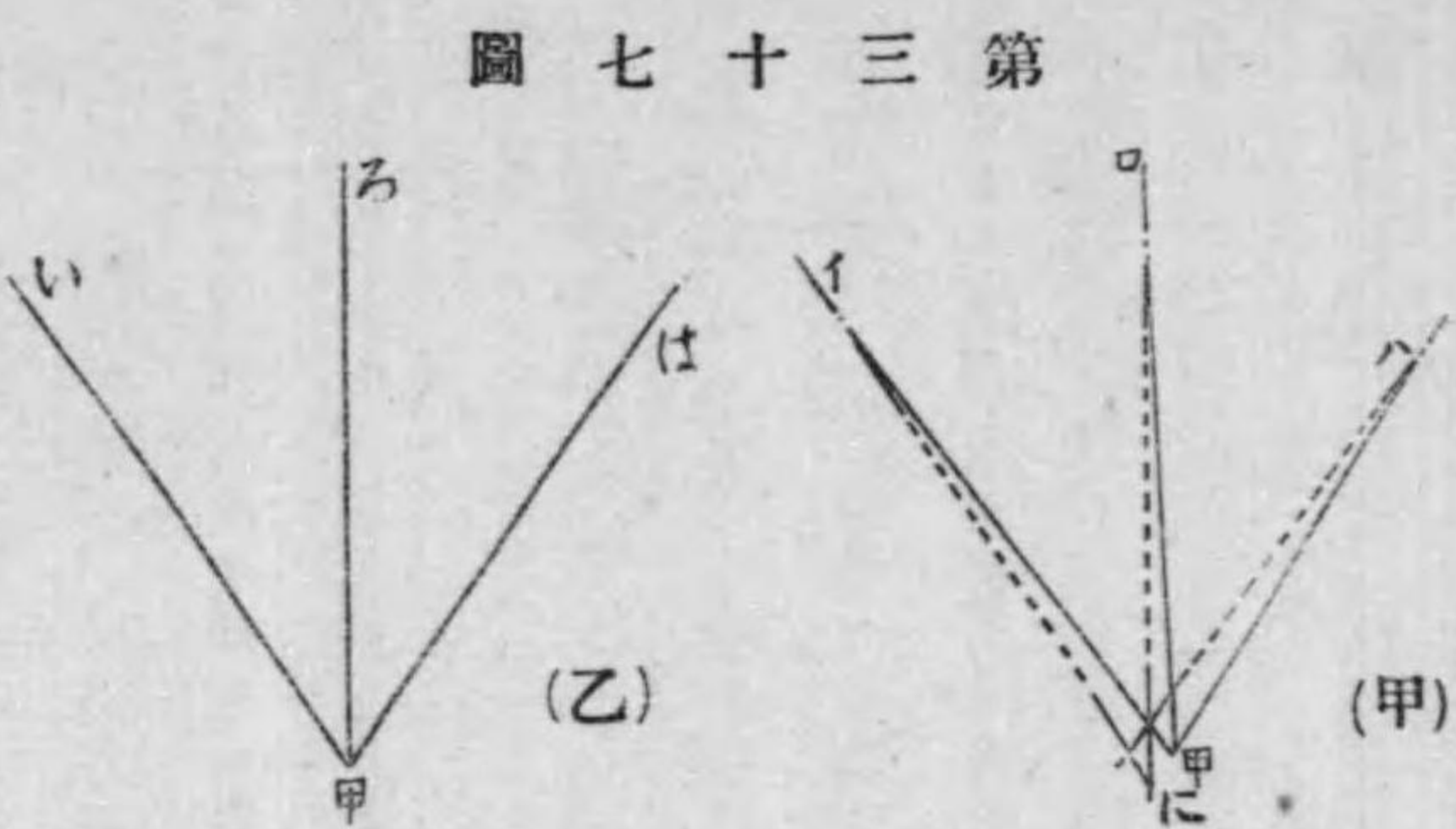
示誤三角形又ハ平板ノ位置ガ

- 一、三角形ノ内部ナルトキ。
- 二、三角形ノ内部ナルモ、圓ノ外部ナルトキ。
- 三、三角形及圓ノ外部ニシテ、三角形ノ一邊ニ相對スルトキ。
- 四、三角形、及圓ノ外側ニシテ三角形ノ角頂ニ相對スルトキ。
- 五、三角形ノ一邊上、又ハ其ノ延長線上ナルトキ(此場合ニハ圓ノ如ク、個ノ規視線ハ平行シテ他ノ規視線ニ交リ、示誤三角形ヲ成サザルベシ。)
- 六、圓周上ナルトキ(此場合ニハ示誤三角形ヲ成スコトナシ。)

測点ノ眞位置ハ

- 一、示誤三角形ノ内部ニアリ。
- 二、示誤三角形ノ外部ニシテ、内側ノ規視線ニ相對スル位置ニアリ。
- 三、示誤三角形ノ外部ニシテ、外側ノ規視線ガ成ス角ニ相對スル位置ニアリ。
- 四、二ノ場合ト同様ナリ。
- 五、三角形ノ一邊上ナルトキハ平行セル二規視線ノ中間ニアリ、三角形ノ一邊ノ延長上ナル時ハ二規視線ノ内短キモノ、外方ニアリ
- 六、圓周上ナルトキハ示誤三角形ヲ成スコトナシ故ニ其ノ交會點ハ必ズシモ正シキモノトノミ速斷スルヲ得ズ、從テカ、ル位置ハ可成避クルヲ宜シトス。

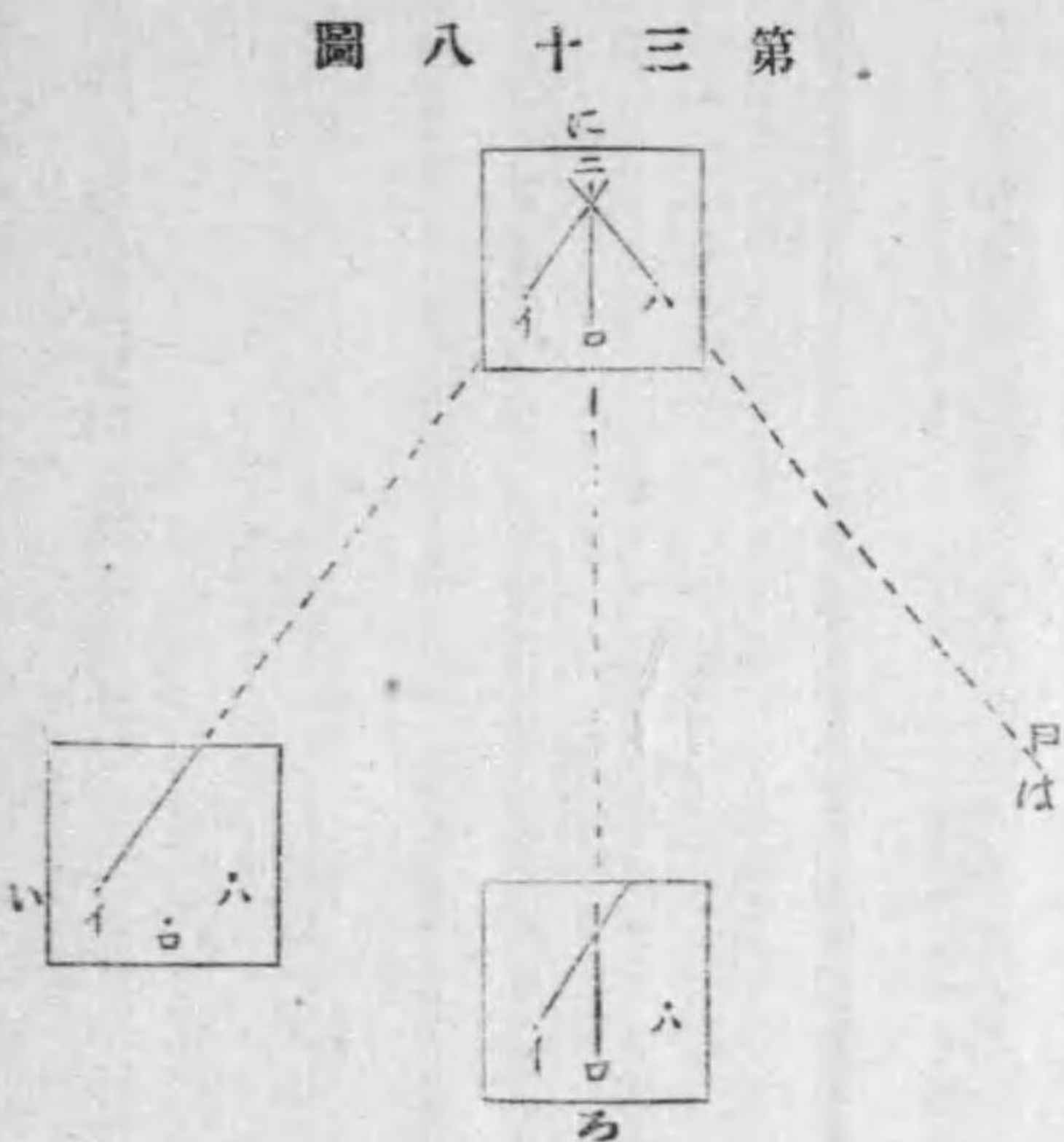
(八四) 後方交會法ノ示誤三角形ハ(八三)ノ方法ニ依リ消除シテ眞位置ヲ求ムベキモ亦次ノ如キ方法ニ依リ直チニ眞位置ヲ求ムルヲ得ベシ今第三十七圖甲ノ點線ニ



テ示セルガ如ク、(イ)ハ(ロ)ハ点ヨリ描ケル三規視線ガ一点ニ交會セズシテ示誤三角形ヲ生ジタリトセバ、別ニ薄紙ヲ平板上ニ乗セ、其ノ薄紙ニ任意ノ一点ヲ設ケ(假リニ此ノ薄紙上ノ点ヲ(甲)ト名付) (甲)点ヲシテ地上ノ点ノ眞上ニアル様求心器ニテ合セ、然ル後(甲)点ニ測量針ヲ立テ、順次地上ノ(イ)(ロ)ハノ三点ヲ規視シテ、乙圖ノ如ク(甲)点ヨリ成ス三ツノ方向線ヲ描クベシ、次ニ薄紙ノ方向線ヲシテ圖紙上ノ既知点(イ)(ロ)ハニ夫レノ、合致スル様薄紙ヲ正シク重ね合セ(甲圖ノ實線ハ乙圖ノ重ね合セヲ示ス) (甲)點ニ針ヲ立ツルトキハ圖紙上ニモ其ノ針孔ヲ得ベシ其ノ針孔ハ即チ(二)点ノ眞位置ナリ。

(八五) 側方交會法 側方交會法ハ前方交會法ト後方交會法トヲ混用シテ測量スル方法ニ過ギズ、

例へば第三十八圖(いろ)はノ既知点ニ依リ(に)点ヲ測ラントスルニ前方交會法ニ依レバ(いろ)は(いろ)はノ三点ニ順次平板ヲ据エテ(に)點ヲ規視セザルベカラズ、然ルニ、(は)点ヨリハ(に)点ヲ規視スルヲ得ザルカ、又ハ平板ヲ据付ケ得ズ、又後方交會法ニ依ラントシテ(に)點ニ平板ヲ据ユレバ(いろ)は(は)點ハ規視スルヲ得ルモ、(ろ)點ハ規視スルヲ得ザル場合ニ、(いろ)は(は)点ヨリ前方交會法ヲ行ヒ、(に)点ニ移リ(は)点ヲ規視シテ後方交會法ヲ行ヒ、以テ測量ヲ終ル方法ナリ、即チ先ヅ地上(いろ)点ニ至リテ平板ヲ据エ既知点(いろ)又ハ(いろ)ニ依リテ方位ヲ定メ、次ニ(いろ)点ニ測量針ヲ立テ、(に)点ノ標桿ヲ規視シテ、方向線ヲ描キテ(ろ)点ニ移リ、同操作ヲ行フトキハ、二ツノ方向線ハ一点ニ於テ交會スベシ、此ノ交又点ハ即チ地上(に)点ニ相當スルモ、三線ノ交會ニアラザレバ(に)点ニ移リテ平板ヲ据エ、「イニ」又ハ「ロニ」



ノ方向線ニ照準儀ノ定規ノ縁ヲ沿ハセ、(いろ)又ハ(ろ)ノ標桿ヲ規視シ平板ヲ旋回シテ方位ヲ定メ、次ニ(ハ)点ニ測量針ヲ立テ、後方交會法ニ依リ一ツノ方向線ヲ描ケバ、既ニ描カレタル二線ト一

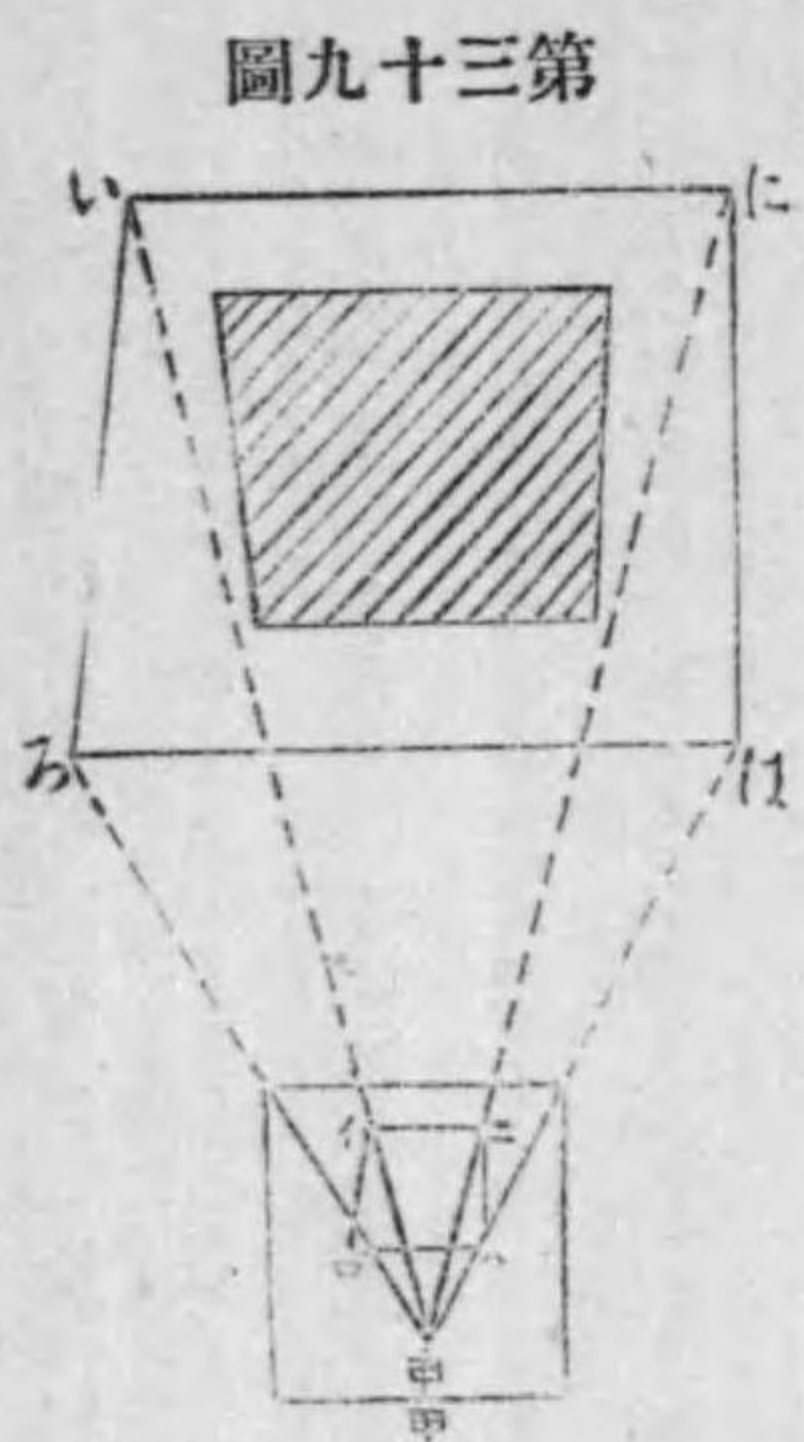
第三十八圖

点ニ於テ交會スベシ、此ノ交又点ハ即チ(に)点ナリ、若シ示誤三角形ヲ生ジタルトキハ、前方交會法ニ於ケルト同様ニ處置スベキモノト知ルベシ。

### 第四節 應用問題

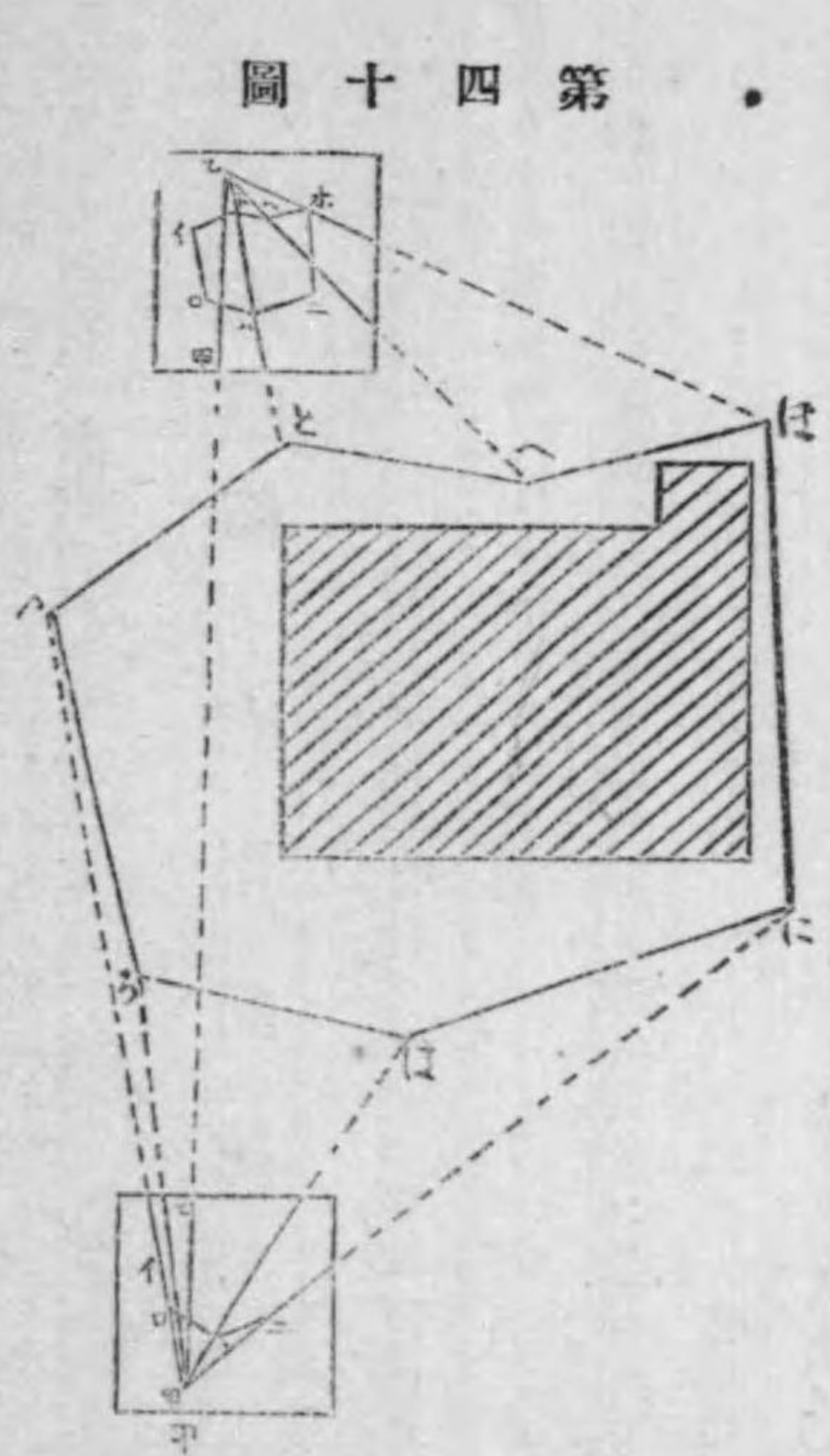
平板測量ノ測量方法ハ以上ニテ説明ヲ終リタルモ實地ノ測量ニ方リテハ測地ノ廣狹障礙物ノ有無其他種々ナル關係ヨリシテ難問題ニ遭遇スルコトアルベシ、カ、ル場合ニ於テハ實地ノ踏査ニ充分ナル注意ヲ拂ヒテ適當ナル方法ヲ選定シ、或ハ二三ノ方法ヲ混用シテ測量ノ正確ト簡便トヲ期セザルベカラズ今其ノ應用ニ關シ普通遭遇スル二三ノ場合ニ付説明セン。

(八六) 障礙物アル場合ノ一 第三十九圖ノ如キ(いろ)ノ土地ニシテ、中ニ建物又ハ竹木ノ如キ障礙物アリテ、射出法ニ依ラントスルモ其ノ土地内ノ或ル一点ヨリハ、全点ヲ規視シ得ザルトキハ、其ノ障礙物ヲ避ケ各点ヲ一点ヨリ規視シ得ベキ(甲)点ノ如キ場所ニ平板ヲ据エテ、圖ノ如ク射出法ヲ行フベシ。



第三十九圖

(八七) 障碍物アル場合ノ二 第四十圖(いろはにほへこ)ノ如キ土地ニシテ射出法ニ依ラントスルニ何レノ場所ニ平板ヲ据ウルモ、一点ヨリハ各点ヲ視視シ得ザルトキハ、數回平板ヲ移シテ測量スルモノトス、即チ先以テ(いろは)ニテ視視シ得ベキ(甲)点ノ如キ場所ニ平板ヲ据エ、射出法ヲ行フテ之レヲ測リ、次ニ殘リノ諸點ヲ視視シ得ベキ(乙)点ノ如キ場所ニ標桿ヲ立テ、之レヲ視視シテ方向線ヲ描キ距離ヲ實測シテ其ノ方向線上ニ(乙)点ヲ求メ、然ル後(乙)点ニ移リテ平板ヲ据エ、(甲)点ノ標桿ヲ見返シテ方位ヲ定メ、(乙)点ヨリ射出法ヲ行フテ(ほへ)ノ測定スレトキハ測圖(いろはニホヘト)ヲ得。



圖十四第

据エテ之レヨリ射出法ヲ行フベキハ前同様ナリ。

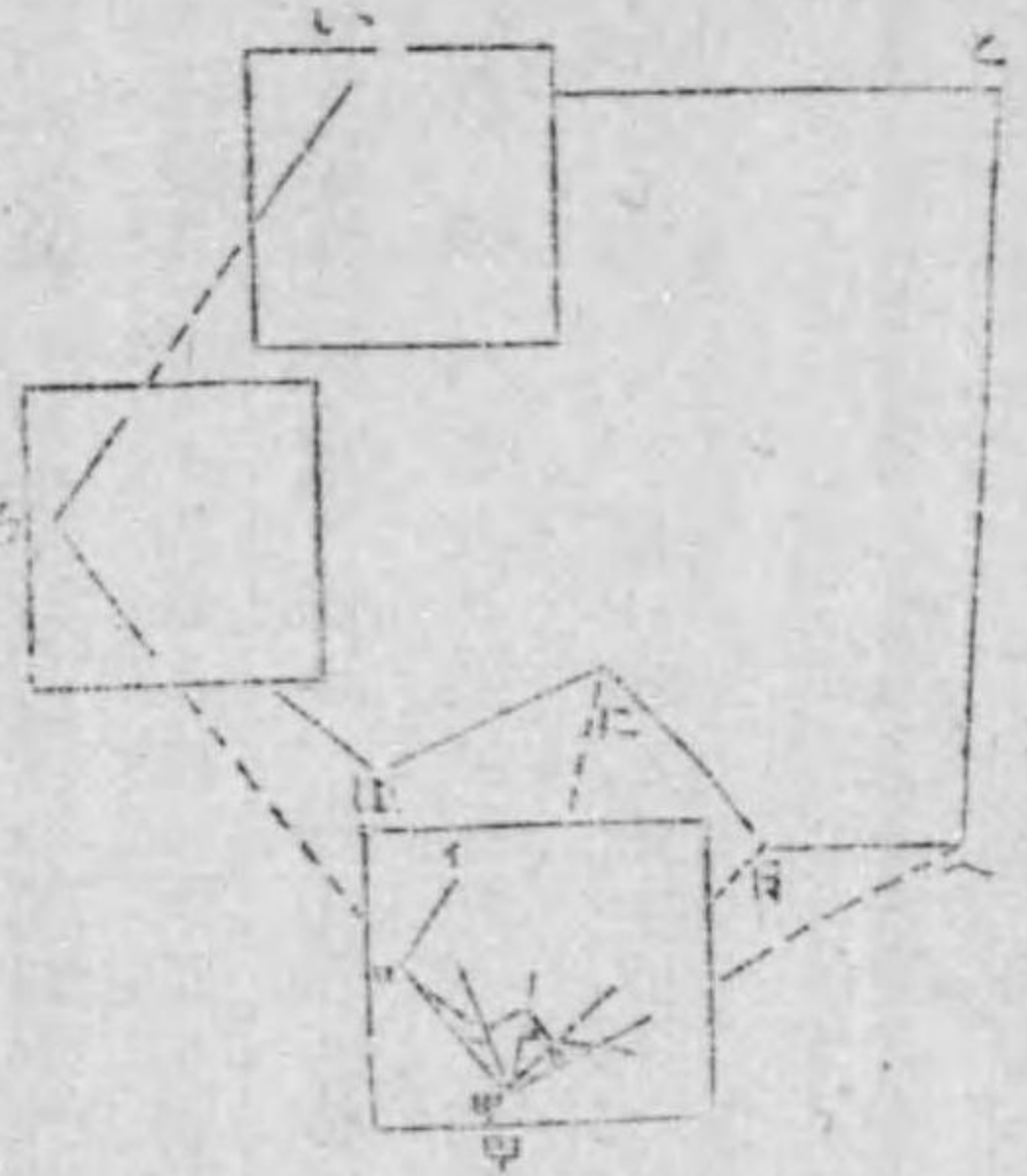
境界点(ろ)ガ平板ヲ据付ケ得ル土地ニシテ、且ツ(いろは)ノ諸點ヲ視視シ得ルトキハ特ニ(甲)点ヲ設ケズシテ(ろ)点ニ平板ヲ据エテ之レヨリ射出法ヲ行フモ可ナリ、又境界点(い)ガ平板ヲ据付ケ得ル土地ニシテ、且ツ(ほへ)ノ諸點ヲ視視シ得ルトキハ、特ニ(乙)点ヲ設ケズシテ、(い)点ニ移リ平板ヲ

(八八) 障碍物アル場合ノ三

第四十五圖

いろはにほへこ)ノ如キ土地ニシテ中ニ木竹ノ如キ障碍物アル土地、即チ山林原野ノ如キ地ハ(八七)ニ依リ射出法ヲ行ハントスレバ、種々ナル場所ニ平板ヲ移サザルヘカラズ、故ニカ、ル土地ハ進測法ニ依ルヲ可トスル場合多シ、而シテ今(い)点ヨリ出行シテ進測法ニ依ラントスル(ろ)ハ二点間ハ距離ヲ實測スルヲ得ザルカ、又ハ(ほ)点ハ平板ヲ据付ケ得ザル土地ナリトスレバ、(甲)点ノ如キ假点ヲ設ケテ進測スベキナリ、即チ(い)点ニ平板ヲ据エテ(ろ)点ヲ測リ、(ろ)点ニ移リ平板ヲ据エテ(甲)点ヲ測リ、次ニ(甲)点ニ移リテ平板ヲ据エ、(甲)点ヨリ射出法ニ依リテ(ほ)ノ三点ヲ測リ、然ル後再ビ(甲)点ヨリ進測法ヲ繼續シテ(へ)点ヲ測リ順次進行シテ出行点(い)ニ閉塞セシムベキナリ。

圖五十四第

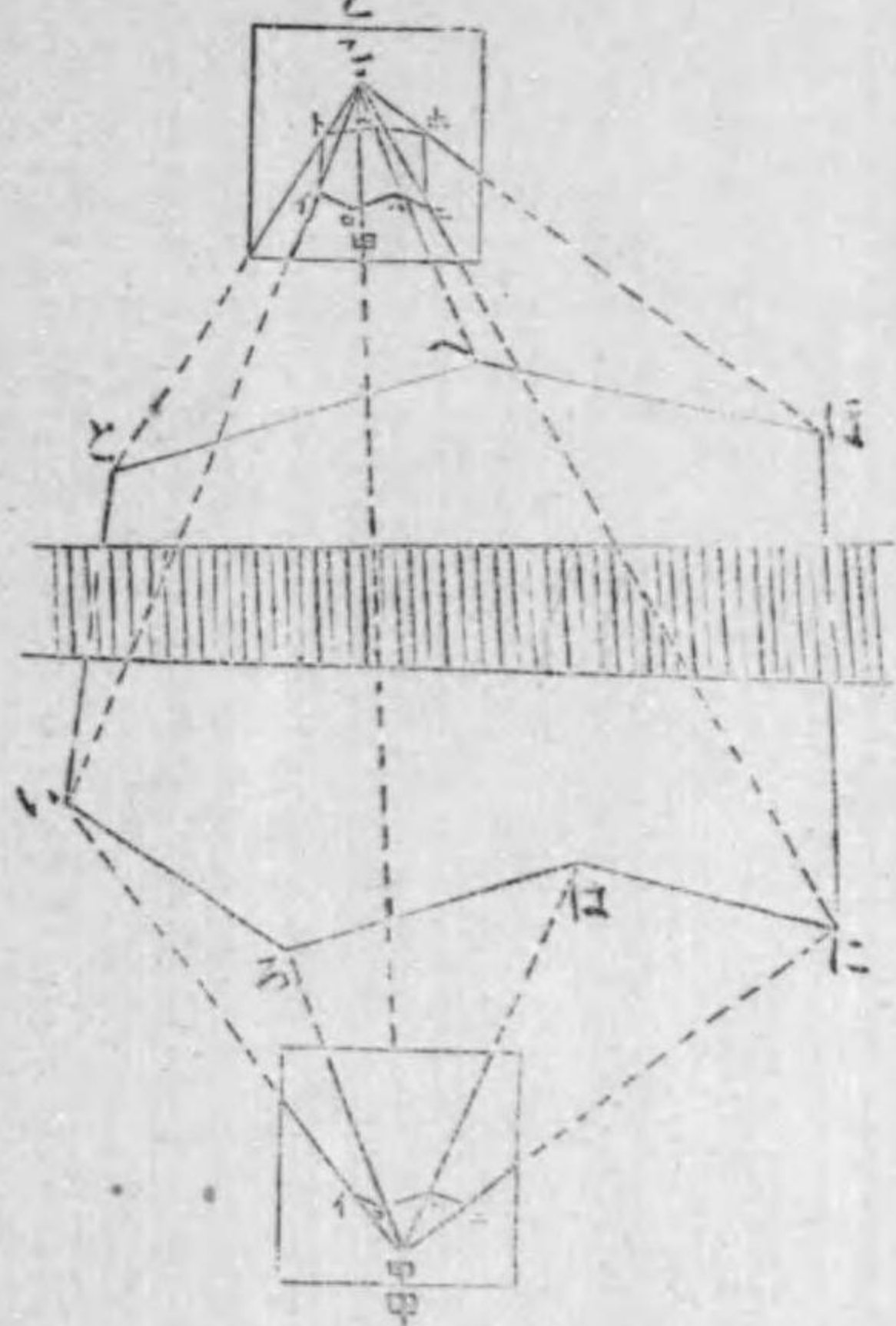


レ即チ時間ヲ節約シ、且ツ閉塞差ヲシテ尠カラシメンガ爲メナリ、而シテ必要上設クル假点ハ、測

地ノ内外ヲ問ハズ便宜ナル場所ニ設クルヲ得ベシ。

(八九) 障礙地アル場合ノ四 第四十六圖(いろはにほへこ)ノ如キ土地ニシテ、其ノ土地内ニ河川ノ如キ障礙物アリテ對岸ニ至ル距離ヲ實測シ得ザルモ、總テノ点ガ視視シ得ル場合ニハ、先以テ(甲)点ノ如キ場所ニ平板ヲ据エ、射出法ニ依リテ(いろは)ノ諸点ヲ測リ、次ニ(ほへこ)ノ諸点ヲ視視シ得ベキ(乙)点ニ移リテ平板ヲ据エ既知点ノ内交會角度ノ宜シキ(い)に(甲)ノ三点ヲ利用シ、後方交會法ニ依リテ(乙)点ヲ測定シ、然ル後(乙)点ヨリ再ビ射出法ニ依リテ、(ほへこ)ノ諸點ヲ測定スレバ測圖「イロハ

圖六十四第



ニ平板ヲ据エテ、後方交會法ニ依リ其ノ点ヲ測リ、殘リノ諸點ヲ射出法ニ依リ測定スルモ亦可ナリ。

ニホヘト」ヲ得ベシ。

境界点(いろは)ノ諸点中平板ヲ据付ケ得ル点アルトキハ、特ニ(甲)点ヲ設ケズシテ其ノ点ニ平板ヲ据付クベキハ、既ニ述べタルガ如シ、又(ほへこ)ノ諸点中平板ヲ据付ケ得ル場所ニシテ、且ツ既知点ヨリノ交會角度ガ宜シキ点アルトキハ、特ニ(乙)点ヲ設ケズ、其ノ境界点

(九〇) 第四十六圖ノ如キ土地ハ又前方交會法ニ依リ測定スルヲ利益トスル場合多シ第四十七圖ハ

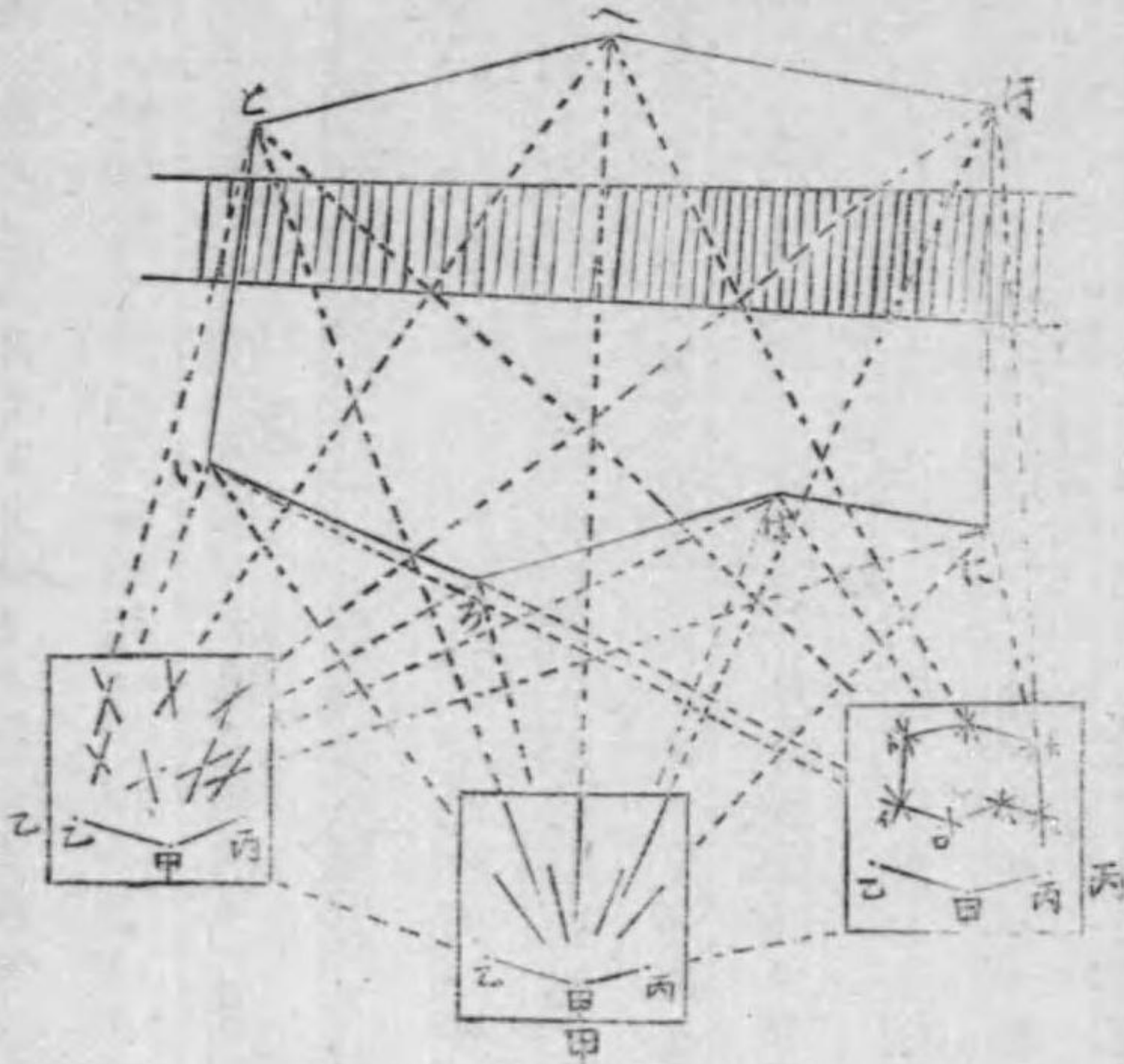
即チ此ノ方法ニ依リタルモノニシテ、最初平板ヲ据ウベキ(甲)(乙)(丙)ノ三点ヲ定ムベシ、而シテ(甲)(乙)(丙)ノ三点ヲ定ムルニハ各境界点ガ此ノ三点ニ對シテ成ス交會角度ガ宜シキ場所ニ選定スベク充分注意ヲ拂フベキナリ、三点ノ選定終ラバ任意ノ一点(甲)ニ至リテ平板ヲ据エ平板上ニ(甲)点ヲ任意ニ定メ、

此ノ(甲)点ヨリ先以テ(乙)(丙)ノ二点ヲ測定シ、次ニ各境界点ヲ視視シテ圖ノ如ク方向線ヲ描クベシ、順次(乙)(丙)點ニ移リテ各境界點ヲ視視シ方向線ヲ描クトキハ各境界點ハ夫々三ツノ方向線ノ交會ニ依リ測定セラレ、測圖「イロハニホヘト」ヲ得ベシ。

境界點ノ總テガ(甲)(乙)(丙)ノ三点ニ對シテ成ス交會角度ガ宜シキ様ニ(甲)(乙)(丙)ノ三点ヲ定ムベキモ、若シ或ル二三ノ點ニシテ交會角度ガ惡シキトキハ、其ノ點ノミハ(甲)(乙)(丙)中便宜ノ點ニ至リタルトキ射出法ニ依リ測定スルモ可ナリ。

境界點(いろは)ノ諸點中平板ヲ据付ケ得ル三点ア

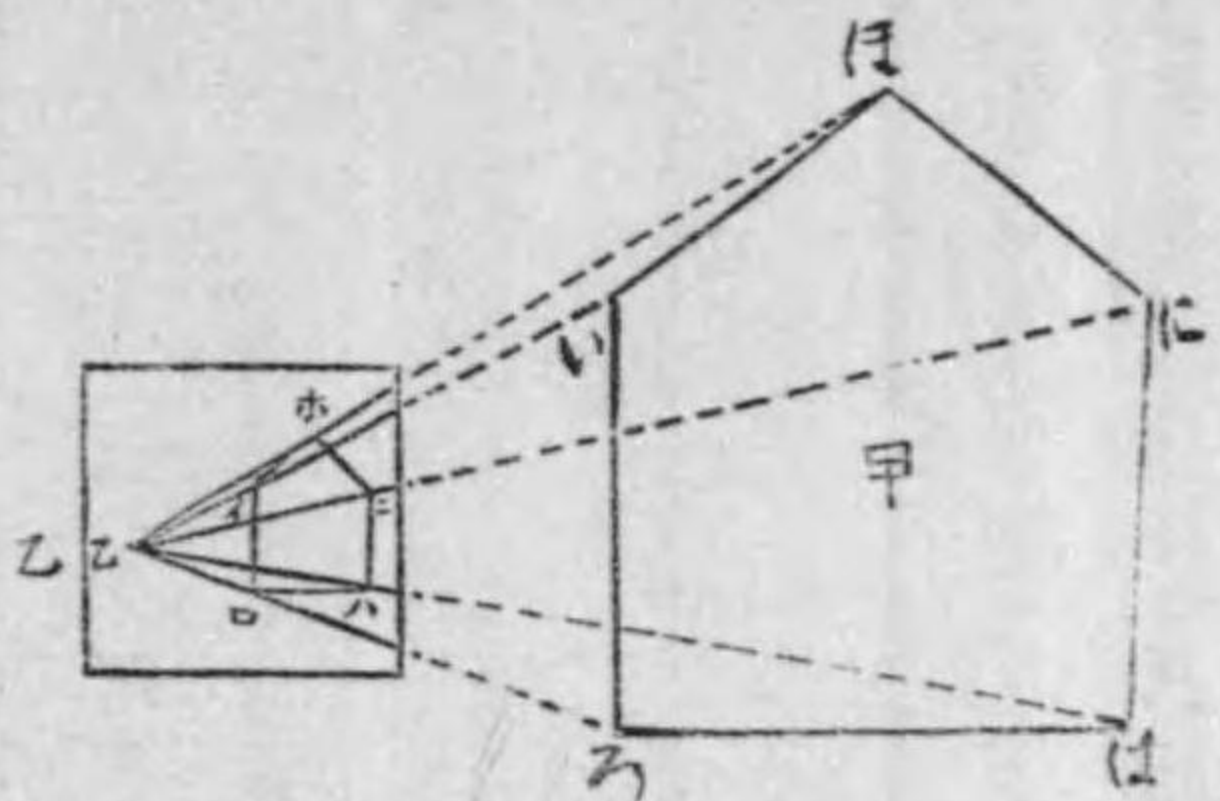
圖七十四第



リ、且ツ其ノ三點ヨリシテ残りノ諸點ガ成ス交會角度ガ宜シキトキハ、特ニ(甲)(乙)(丙)ノ三點ヲ設ケズシテ其ノ境界點ヲ(甲)(乙)(丙)ニ利用シ之レニ依リテ前方交會法ヲ行フモ可ナリ、又場合ニ依リテハ、境界點中一點或ハ二點ヲ利用シテ他ノ場所ニ二點或ハ一點ヲ設クルモ差支ナシ。

(九一) 傾斜地ノ場合ノ一 第四十八圖(いろはにほへ)ノ如キ土地ニシテ(い)ヨリ(ろ)ノ方向ニ傾斜甚シク、高キ方ニ平板ヲ据ウルモ、低キ方ニ据ウルモ、全境界點ヲ一點ヨリ視視スルヲ得ザルトキハ、中程ノ(甲)點ノ如キ場所ニ平板ヲ据付ベシ。若シ其ノ點ヨリモ視點シ得ザルトキハ傾斜ノ方向ト反對ナル方向ニ去ルベシ、然ルトキハ傾斜ハ次第二緩カニ見ユルヲ以テ、各點ヲ一點ヨリ視視シ得ベシ即チ乙點ノ如キ場所マデ去リテ平板ヲ据付ルトキハ、之レヨリ射出法ニ依リテ測量スルヲ得ベシ。

圖八十四第



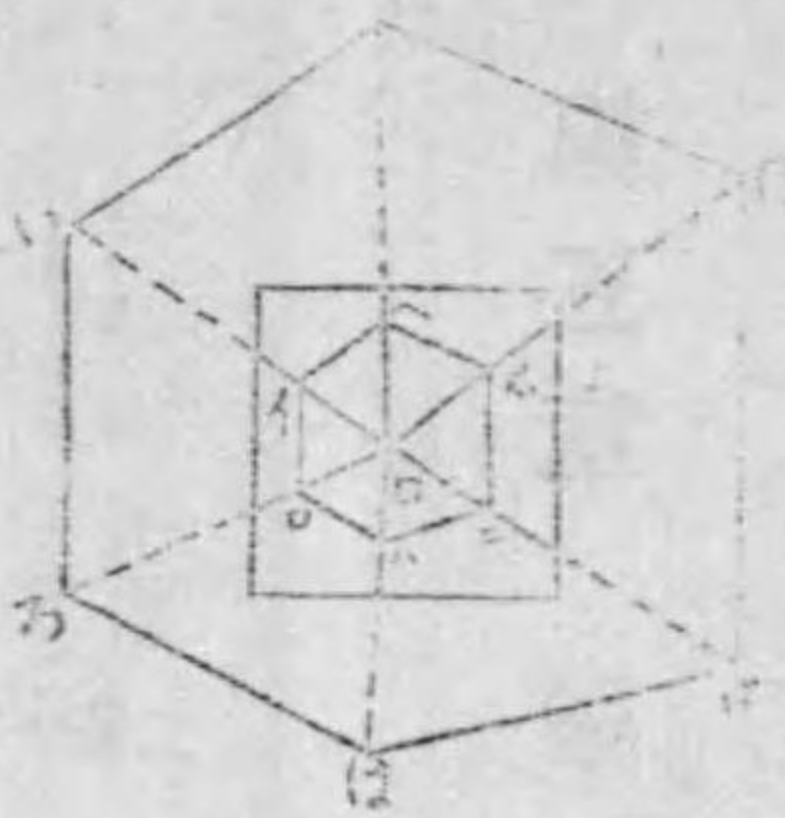
(九二) 第四十八圖ノ如キ土地ハ又前方交會法ニ依リテ測量スルヲ利益トスル場合尠カラザルベシ、例ヘバ山腹ノ開墾地ニシテ竹木等ノ障碍物ナキ場合ニ依リテハ殊ニ妙ナリトス、此ノ場合ニ於テハ山麓ノ平地又ハ道路等ニ三點ヲ選ミ之レニ依リテ前方交會法ヲ行フトキハ時間ハ節約セラレ、且ツ測

圖ハ誤差少ナカルベシ、(第四十七圖ノ土地ガ傾斜シタルモノト假想シテ之レヲ参照セラルベシ)

(九三) 傾斜地ノ場合ノ二

第四十九圖(いろはにほへ)ノ如キ土地ニシテ其ノ傾斜ガ中高ニテ恰モ摺鉢ヲ倒サマニシタルガ如キ土地ナルトキハ、中高ノ場所ニ平板ヲ据ウレバ、圖ノ如ク射出法ニ依リテ測量スルヲ得ベシ、然レドモ此ノ場合ニハ、各點ニ至ル距離ハ總テ傾斜シタル場所ナルヲ以テ距離ノ測定ニ十分ノ注意ヲ拂ハザレバ、誤差多キ測圖トナルベシ。

圖九十四第



(九四) 第四十九圖ノ土地ニシテ、周圍或ハ周圍附近ノ通過容易ナルトキハ、進測法ニ依リ測量スルヲ利益トスル場合多カルベシ、此ノ方法ニ依ルトキハ平板ヲ据ウル回数多キモ、距離ノ測定容易ナルヲ以テ比較的精密ナル測圖ヲ得ベシ、要スルニ本問ノ如キ土地ハ實地ノ狀況ニ依リ利益ナル方法ヲ採ルノ外ナシ。

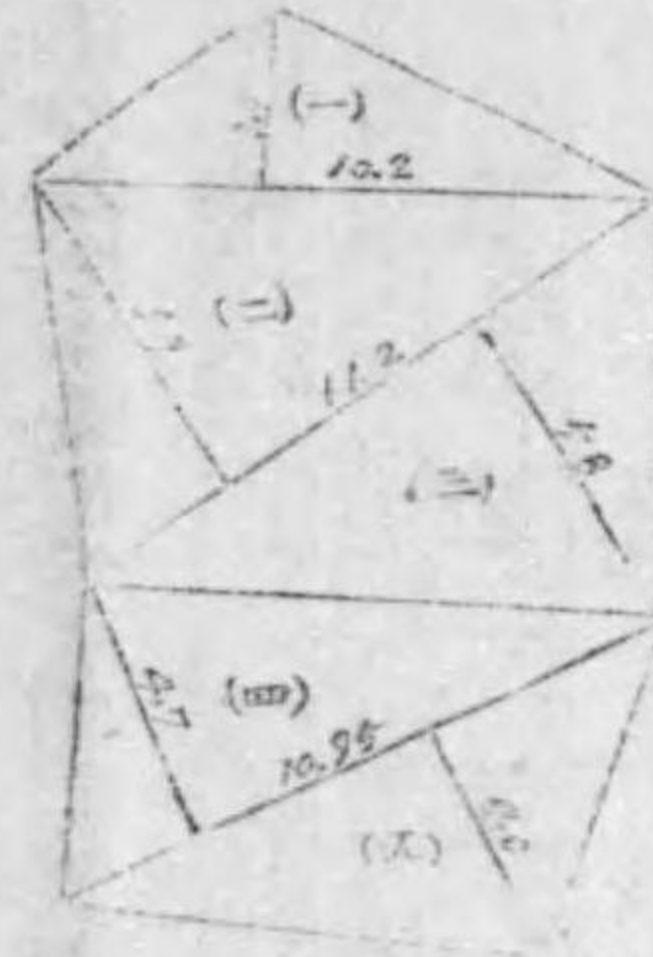
### 第五節 面積計算

(九五) 平板測量ニ依リ縮書セラレタル測圖ハ、數多ノ三角形ニ區分シテ面積計算ヲ爲スベキモノニシテ、第三章第十節ニ記載セル計算方法ト同一ナリ故ニ第五十圖ハ(四八)ヲ参照シテ之レヲ見ル

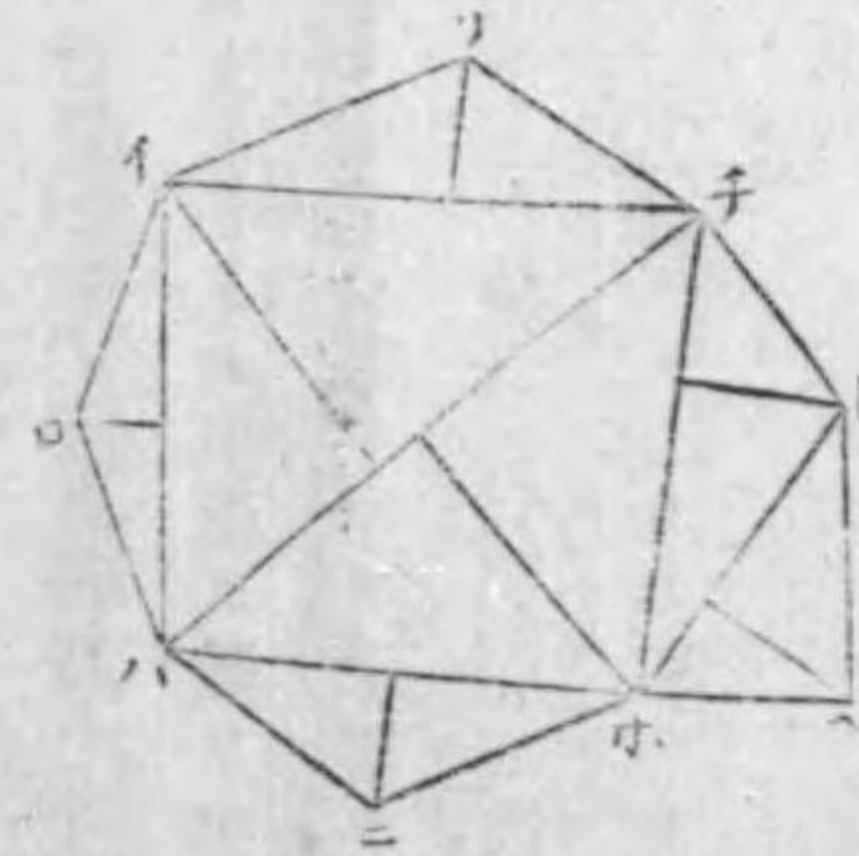
坪數百貳拾八坪四合五勺

圖十五第

(一)	30.60
(二)	66.08
(三)	64.96
(四)	51.465
(五)	43.80
計	256.905
二除	128.45



圖一十五第



六六  
ベシ。  
測圖ヲ數多ノ三角形ニ區分  
スルニハ、三角形ノ各邊ノ  
長サガ可成等邊ニ近キ様ニ  
區分シテ面積計算上ノ誤差  
ヲ防グベキナリ、從テ第五  
十一圖ノ如キ測圖ハ先以テ  
中央ニ大ナル四角形ヲ作  
リ、然ル後三角形ニ區分シ  
テ三角形ノ各邊ノ長サヲシ  
テ等邊ニ近カラシムベシ。

### 第五章 羅盤測量法

#### 第一節

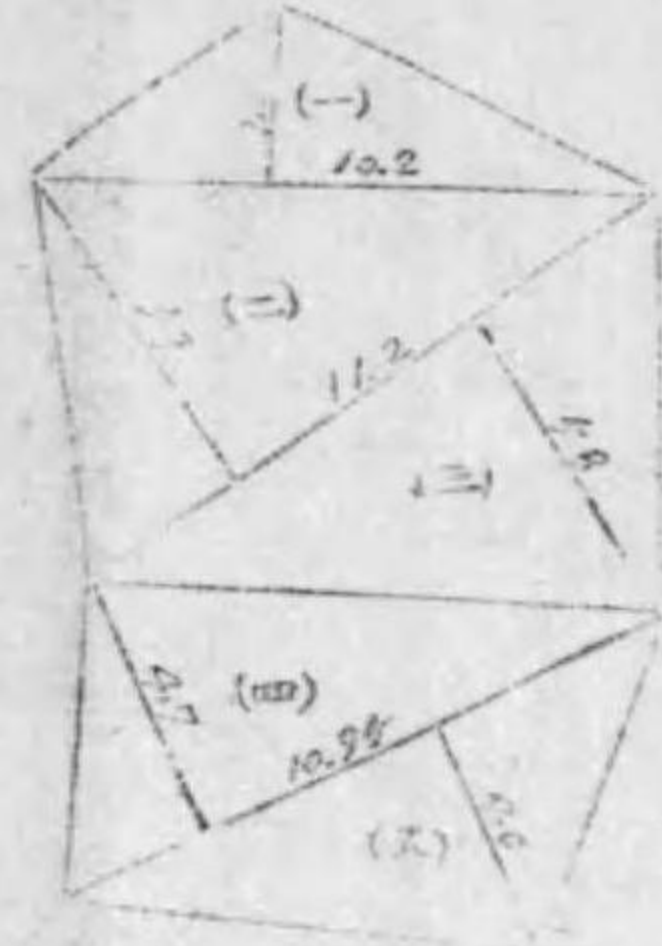
羅盤測量法(羅針儀測量法)コンパス測量法

# 欠

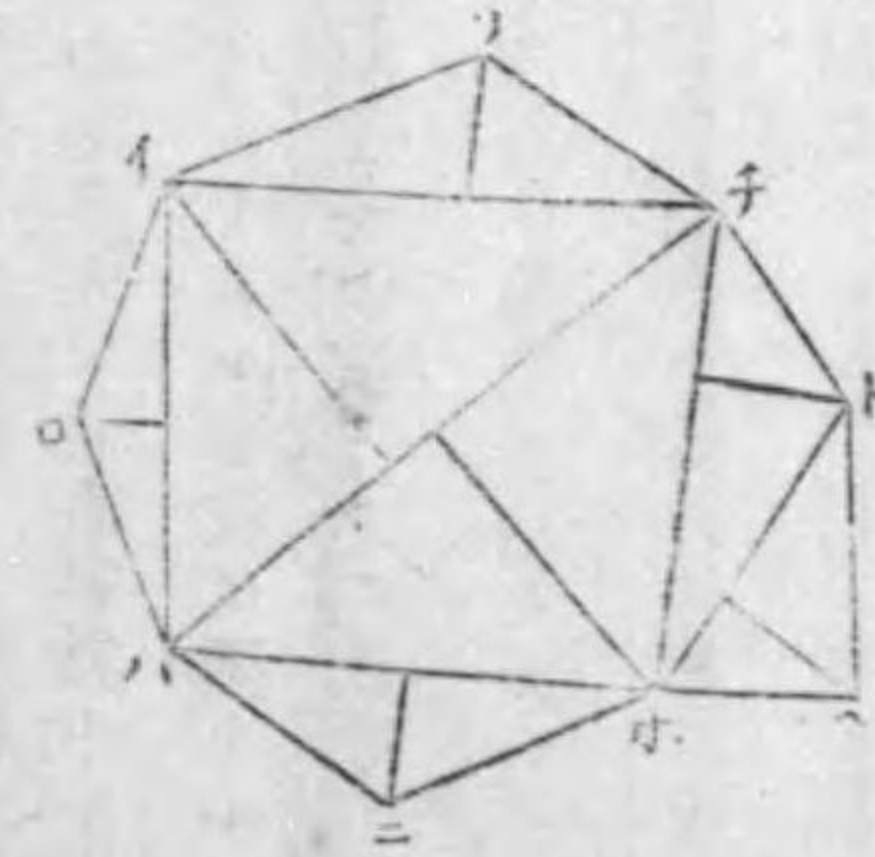
坪數百貳拾八坪四合五勺

圖十五第

(一)	30.60
(二)	66.08
(三)	64.95
(四)	51.465
(五)	43.80
計	256.905
二除	128.45



圖一十五第



測圖ヲ數多ノ三角形ニ區分  
スルニハ、三角形ノ各邊ノ  
長サガ可成等邊ニ近キ様ニ  
區分シテ面積計算上ノ誤差  
ヲ防グベキナリ、從テ第五  
十一圖ノ如キ測圖ハ先以テ  
中央ニ大ナル四角形ヲ作  
リ、然ル後三角形ニ區分シ  
テ三角形ノ各邊ノ長サヲシ  
テ等邊ニ近カラシムベシ。

## 第五章 羅盤測量法

### 第一節 羅盤測量法(羅針儀測量法)(コンパス測量法)

# 欠

外廻轉シ得ザルモノヲ經緯儀(セオドライト)ト呼ブ、兩者トモ方位角、廻旋角、及傾斜角ヲ測ルヲ目的トシテ其ノ測量方法モ殆ド同一ナレ共「トランシット」ノ方便益多シ、而シテ「コンパス」測量ニ比シ廻旋角ヲ測リ、遠距離ヲ測定シ、更ニ傾斜角、其他ノ諸點ニ大ナル「精確サ」ヲ有スル點ニ於テ遙ニ優レリ。

## 第二節 器械ノ説明及使用方法

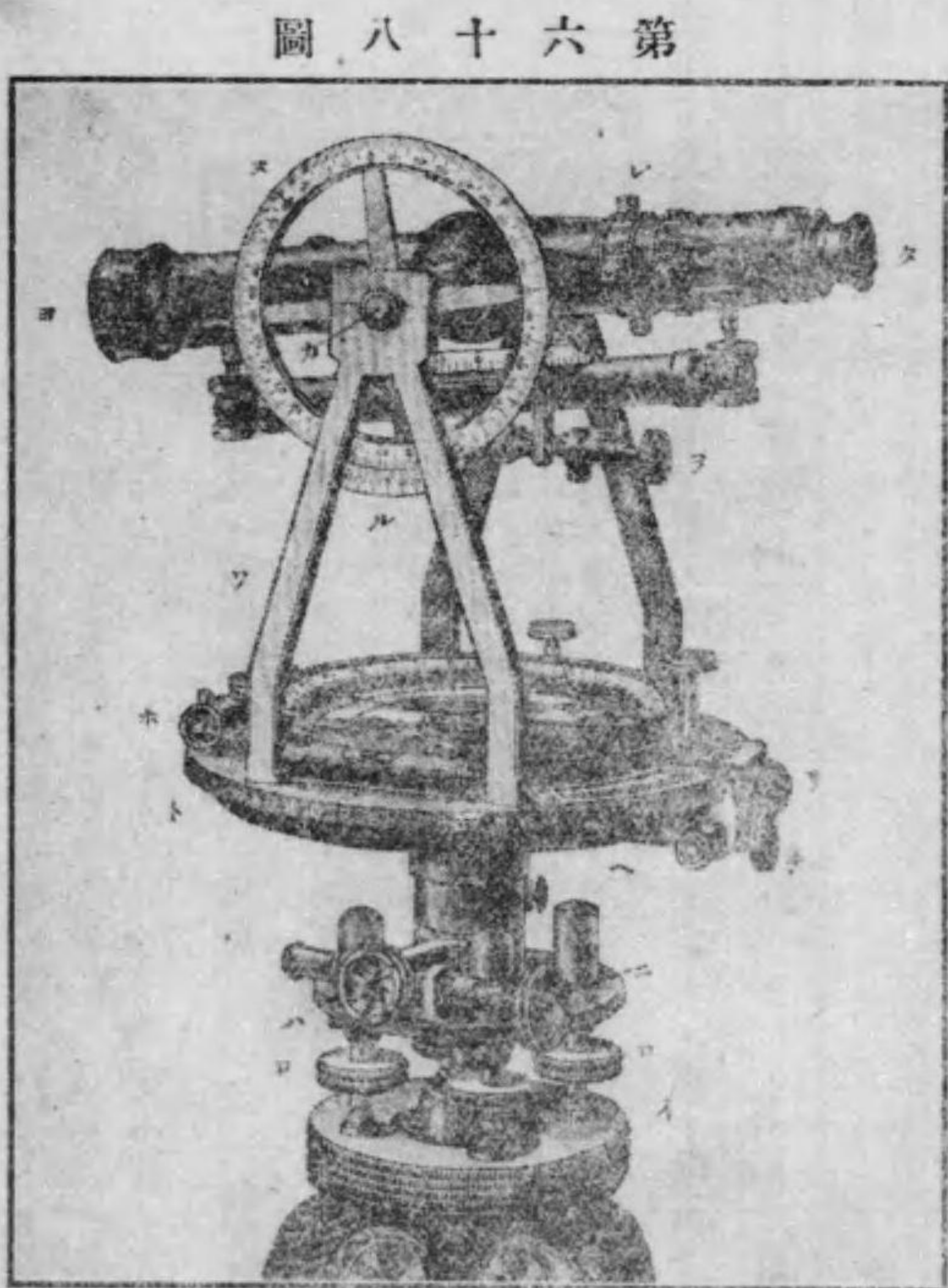


圖 八 十 六 第

土地測量法 第六章 轉鏡儀測量法及經緯儀測量法

- イ、移心裝置
- ロ、水準螺旋
- ハ、器軸緊迫螺旋
- ニ、下緊微動螺旋
- ホ、氣泡管
- ヘ、水平分度圓ノ一部及ビ副尺
- ト、上盤
- チ、上盤緊迫螺旋
- リ、上盤微動螺旋
- ス、垂直分度圓
- ル、全副尺
- チ、轉鏡微動螺旋
- リ、支脚
- カ、望遠鏡ノ橫軸
- コ、對物レンズ
- ク、對眼レンズ
- ケ、十字線保持螺旋



器械ノ説明

第六十八圖ハ測量用轉鏡儀（トランシット）ニシテ今左ニ其ノ主ナル點ヲ説明セン。

(一一八) 望遠鏡 鏡筒又ハ黃銅製ノ鏡管ニ對物「レンズ」(ヨ)ト對眼「レンズ」(タ)トヲ裝置ス、對眼「レンズ」ハ普通二種ノ別アリテ一ツハラムステン實映對眼「レンズ」ニシテ像ハ倒ニ映ズ、他ハ立映對眼「レンズ」ニシテ像ハ正立スレドモ前者ニ比シ鏡管長ク光モ弱シ、前者ハ歐洲製ノ「トランシット」ニ多ク後者ハ米國製ノモノニ多シ。

(一一九) 十字線 對眼鏡ノ少シク前方ニテ望遠鏡ノ像ヲ結ブ所ニ蜘蛛ノ絲或ハ白金線ヲ交叉シタル圓環ヲ裝置シ水平垂直ヲ定メ測線ノ方向ヲ決定スル用ニ供ス此ノ交叉線ヲ十字線ト云フ、此ノ圓環ハ上下左右ニ四個ノ螺旋(レ)ニテ鏡管ニ保持セラレ之ニヨリ圓環ヲ隨ラシテ十字點ガ中心ニアル様視準線ヲ整正ス。

羅針儀、及羅針分度圈ニ就テハ「コンパス」ノ場合ト同一ナルヲ以テ説明ヲ略ク。

(一二〇) 分度圓 第六十八圖(ヘ)ハ水平分度圓ノ一部分ト副尺トヲ示セルモノニシテ分度圓ハ全圓ヲ三百六十度迄分刻セルガ普通ニシテ方位角ニ關セズ廻旋角ヲ測ルモノナリ。

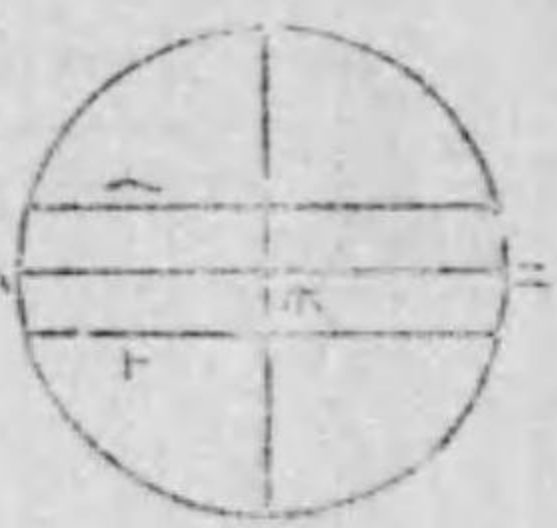
全圖ノ(ヌ)ハ垂直分度圓(轉鏡分度圓)ニシテ全圓ナルアリ或ハ四分ノ一圓ナルアリ、前者ハ〇度ヨリ三百六十度ニ至リ、後者ハ九十度ニ終ル兩者トモ望遠鏡ガ水平ナル時ハ副尺(ル)ノ零ト正シク一

欠

# 欠

之等ノ諸點ヲ満足セシメテ殆ド遺憾ナカラシムルモノハ即チ現今最新式ト稱セラル、「スタヂア」測量法トス、此ノ測量法ニ用フル器械ハ「トランシット」望遠鏡中ノ十字線「イロ」「ハニ」ニ更ニ二本ノ横線「ヘ」「ト」ヲ「ハニ」線ニ平行ニ且ツ等距離ニ装置シタルノミニシテ他ノ諸點ハ全ク「トランシット」ト同一ナリ、此ノ横線ヲ「スタヂア」線ト謂ヒ其ノ二本ノ線ノ間ニ狭マレタル長サヲ夾距又ハ「スタヂア」距離ト云フ、之ニヨリ距離ヲ測定シ得ルガ故ニ他ノ諸器械ノ如ク卷尺等ニテ距離ヲ實測スル必要ナク極メテ便利ナリ

第七十二圖



「スタヂア」測量法ハ西曆一八二〇年伊太利ニ於テバーロー氏ガ行ヒタルガ濫觴ニシテ「スタヂア」ト謂フ名ハバーロー氏ガ此ノ測量ニ用フル尺杖（函尺）ニ付ケタルモノナレドモ現今ハ「スタヂア」線ヲ装置セル「トランシット」ヲ「スタヂア」ト呼ブニ至レリ、又一名「テレメーター」トモ謂フ（測距儀又ハ測距經緯儀ト云フ意味ナリ）。

## 第二節 「スタヂア」測量法ノ理論

(一四六) 原理 「スタヂア」測量ハ畧測法(五)ニ述ベタル原理ノ應用ニ過ギズシテ望遠鏡ノ對眼「レンズ」ハ單ニ物像ヲ廓大スル丈ナル故此ノ理論ニ關係スルモノハ只對物「レンズ」ノミナリ、今第七十三圖(ス)ハ「スタヂア」線ノ間隔、(ハ)ハ函尺ノ讀ミ即チ夾距、(シ)ハ對物「レンズ」ト「スタヂ

「ア」線トノ距離、(キ)ヲ對物「レンズ」ト函尺トノ間ノ距離、(巨)ヲ測點間ノ距離トセバ相似三角形ナルコトヨリ次ノ式ヲ生ズ。

$$\frac{(キ)}{(シ)} = \frac{(巨)}{(ハ)} \quad \dots\dots (1)$$

「スタヂア」線ハ對物鏡ノ焦點ニ置クモノ故(シ)ハ又對物鏡ノ焦點距離ナリ故ニ對物「レンズ」ヨリ函尺マデノ距離(キ)ハ

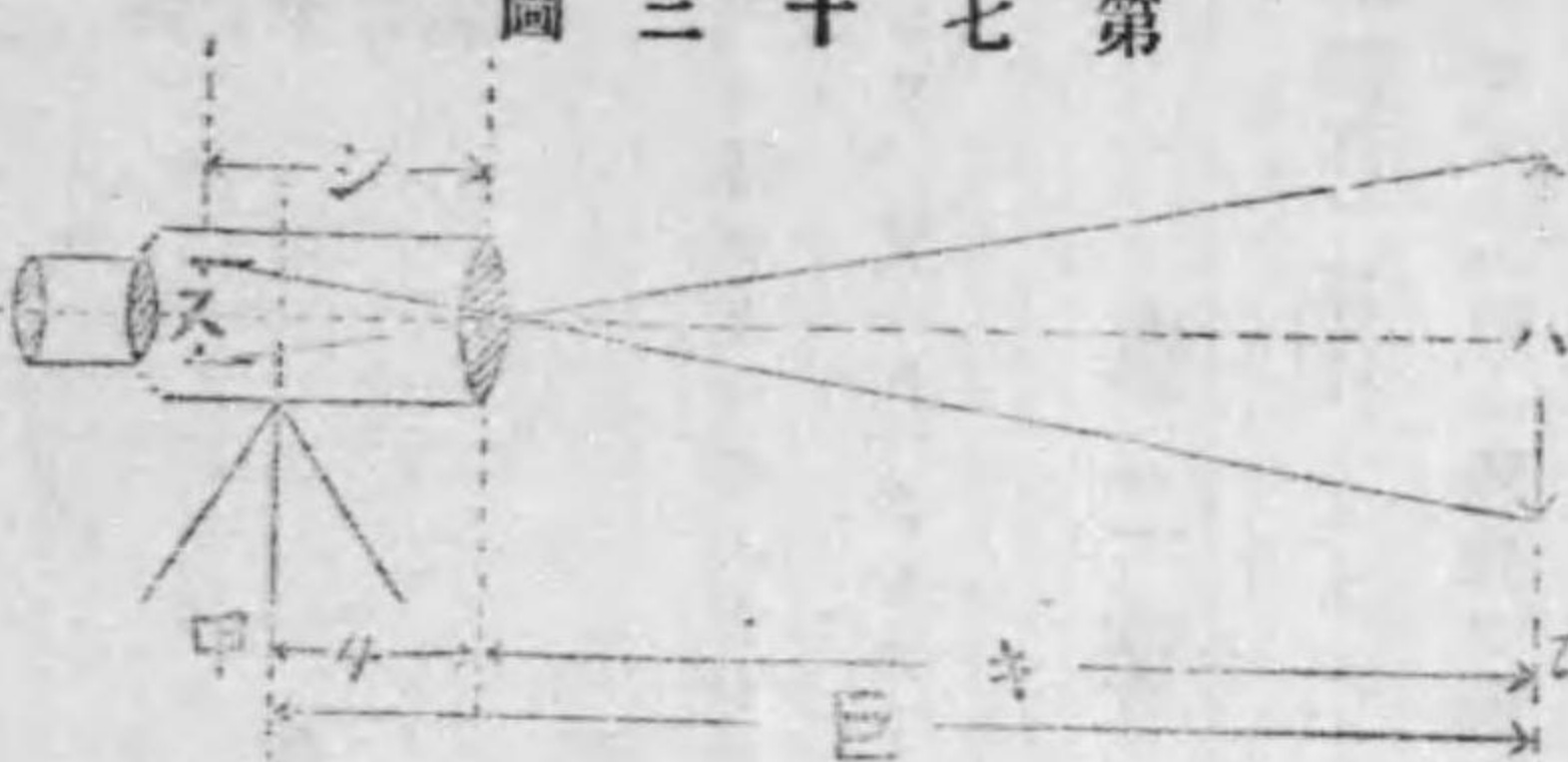
$$(キ) = (ハ) \times \frac{(シ)}{(ハ)}$$

トナルベキ筈ナレドモ「レンズ」ヲ通リタル光ハ光學上ノ理論ニヨレバ圖ノ如ク直入セズシテ屈折シ正シキ相似三角形ニナラズ從ツテ此ノ長さト少々異リ恰モ之ニ對物「レンズ」ノ焦點距離(シ)ヲ加ヘタルモノト等シ即チ

$$(キ) = (ハ) \times \frac{(シ)}{(ハ)} + (シ) \quad \dots\dots (2)$$

而シテ測量ニ於ケル距離ハ(甲)點ヨリ(乙)點マデノ長さ(巨)ナル故(巨)ヲ求ムルニハ(キ)ニ對物鏡ヨリ器械ノ中心マデノ長さ(チ)ヲ加ヘザルベカラズ。

圖 三 十 七 第



$$(巨) = (チ) + (キ)$$

然ルニ式(2)ニヨリ(キ) = (シ) + (ハ) ×  $\frac{(シ)}{(ハ)}$  ナル故

$$(巨) = (チ) + (シ) + (ハ) \times \frac{(シ)}{(ハ)}$$

$$\frac{(チ) + (シ) = [シ]}{(シ)} = [ハ]$$

トスルハ

$$(巨) = [シ] + [ハ] \times [ハ] \quad \dots\dots (3)$$

此ノ「ハ」及「シ」ヲ器械ノ恒數ト云フ。

(一四七) 器械恒數ノ測定法 實際ノ場合(チ)及(シ)ハ器械ニツキタル定數ナルヲ以テ直接ニ其ノ値ヲ測ルコトヲ得。

- (一) 機械ノ中央ヨリ對物「レンズ」ニ至ル迄ノ長さヲ測レバ之即チ(チ)ノ値ナリ。
- (二) 遠キ物体 (月或ハ星ヲ見ルガ正式ナレトモ一〇〇尺)ニ向テ十字線ヲ合セ十字線面ヨリ對物鏡迄ノ長さヲ

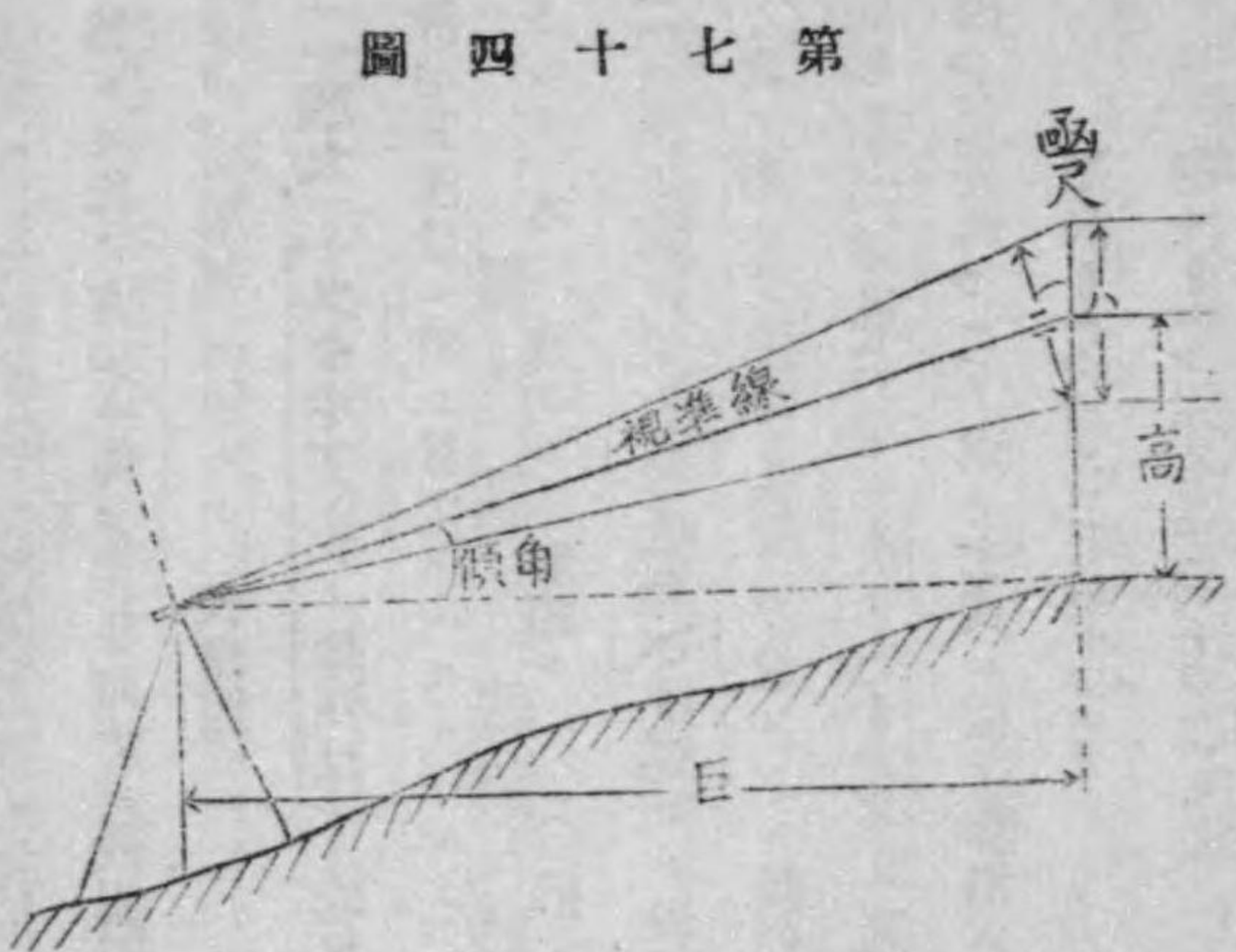
測レバ之(シ)即焦點距離ナリ。

斯クシテ求メタル(チ)ト(シ)ヲ加フレバ恒數「イ」ヲ得、恒數「イ」ハ通常焦點距離(シ)ノ一倍半ナリ而シテ普通ノ「スタヂア」ニテハ「スタヂア」線ノ間隔ハ焦點距離ノ  $\frac{1}{100}$  ニ作リアリテ恒數「 $\alpha$ 」ニ(イ)  $\frac{1}{100}$  ト云フ整數ニナリ居ル故ニ(ハ)ナル讀ミヲ一〇〇倍シテ之ニ(一)ニヨリ求メタル數(イ)  $\frac{1}{100}$  ヲ加フレバ測量セル距離トナル、若シ(イ)ナル割合即チ恒數「 $\alpha$ 」ガ不明ノ器械ナラバ前ノ(一)ニヨリ求メタル(イ)  $\frac{1}{100}$  「 $\beta$ 」ナル長サ丈ヲ機械ヲ据エタル點ヨリ測リ之ヲ地上ニ記シ其ノ點ヨリ適當ノ距離ヲ測リテ一基線ヲ定メ其ノ終點ニ函尺ヲ立テ、「スタヂア」線ニヨリ夾マレタル長サヲ讀ムベシ、然ル時ハ器械ヲ据エタル點ト函尺トノ間ノ距離ヨリ(チ)ト(シ)ヲ引キタルモノヲ以テ(ハ)ト(シ)トノ積ヲ除セバ「スタヂア」線ノ間隔(ス)ヲ求メラル。

$$S = \frac{(\alpha \times \beta)}{(\beta - \alpha)}$$

從ツテ此ノ(ス)ヲ以テ焦點距離(シ)ヲ割レバ其ノ器械ノ恒數「 $\alpha$ 」ヲ知ルヲ得ベシ、但シ前述ノ如ク(イ)  $\frac{1}{100}$  ナル器械ハ最モ便利ナル故「スタヂア」線ノ装置可動ナルモノハ其ノ線ノ間隔ヲ焦點距離ノ  $\frac{1}{100}$  ニ直シ置クガヨシ。

(一四八) 視準線ノ傾斜セル時距離及高サヲ見出ス法 前節ニハ視準線ノ水平ナル時ニ距離ヲ算出スル法ヲ述ベタルガ視準線ノ傾斜セル場合ニ第七十四圖ノ



圖四十七第

如ク函尺ヲ直立セシムレバ其ノ讀ミ(ハ)ハ視準線ニ垂直ナル讀ミ(ニ)ト差アルモノナリ。

今一〇〇呎ノ距離ヲ測リタル時函尺ノ傾度ト視準線ノ傾度トニ依ル誤差ヲ示セバ左表ノ如シ(ホルダン氏ニ據ル)

照尺ノ傾ケルトキ距離ニ及ス誤差

照尺ノ傾度	傾ノ傾度	0	5°	10°	20°	30°	45°
1:100	0°34'	0	0.1	0.2	0.4	0.6	1.0
1:50	1°9'	0	0.2	0.4	0.7	1.2	2.0
1:25	2°18'	0	3.0	0.7	1.5	2.3	4.0

斯クノ如ク傾斜地ノ測定ニ於テ(一四六)ニ述ベタル計算法ヲ用フレバ誤差ヲ生ズル故之ニハ特別ノ算式ヲ用キザルベ

カラズ、右ノ圖ノ如ク「スタヂア」ノ讀ミト傾角ヲ知レバ其ノ角ノ正弦ト餘弦トヲ用キテ距離及高サヲ算出スル式ハ次ノ如シ。(「い」 $\alpha$ )ハ器ノ定數ナリ前節参照)

距離計算式 (距)  $= \frac{S}{C} \times A \times (\text{餘弦})^2 + \frac{S}{C} \times B \times (\text{餘弦})$

高さ計算式 (高)  $= \frac{S}{C} \times A \times (\text{正弦}) + \frac{S}{C} \times B \times (\text{正弦})$

然ドモ此ノ方法ハ極メテ手數ナル故實際ノ場合ニハ「スタヂア」表ニ依リ距離ト高サトヲ見出スモノナリ。(卷尾「スタヂア」表參照)

(一四九) 「スタヂア」表ノ使用法 卷尾ニ掲ゲタル表ハアルサー、ウエンスロー氏ガペンシルヴニア

洲地質測量ニ際シ算定セルモノニシテ「スタヂア」線距ガ焦點距離ノ百分ノ一即チ  $\frac{S}{C} \parallel 100$  ナル器械トシテ「ろ」ヲ乗ケタル形即チ  $\frac{S}{C} \parallel 100$  倍シタルモノヲ載セタルモノナリ今器械ノ定數ハズデニ前項

(一)  $\frac{S}{C} \parallel 100$  ニシテ、野業ニ於ケル函尺ノ讀ミハ  $4.735$  傾斜角  $7.20'$  ナル時、此ノ表ヲ用キテ距離ト高サヲ求メンニ傾斜角ノ度數及分數ノ兩欄ノ出合フ所ニテ  $7.20'$  ニ相當スル水平距離  $98.37$  差高  $12.66$  ヲ求メ  $C \parallel 100$  ノ列(定數「 $S$ 」トハ表ノ  $C$  ノ事ナル故)ニテ  $7'$  ニ相當スル水平距離  $0.99$  差高  $0.13$  ヲ求メ次式ニ依リ算出ス。

$$\text{距離} = 4.735 \times 98.37 + 0.99$$

$$\text{高サ} = 4.735 \times 12.66 + 0.13$$

(一五〇) 函尺ノ目盛 「スタヂア」測量ニアリテハ更ニ函尺ヲ要ス、一般ニ望遠鏡ガ 距離距離  
スタヂア線距離

100 ト云フ割合ニ作ラレタル器械、又ハ可動「スタヂア」線ヲ有シテ之ヲ適當ニ移動シ得ルモノナラバ普通ノ水準用函尺(一六六)參照ヲ用キ得レド然ラズシテ不動「スタヂア」線ナル時ハ器械ニ好都合ナル様目盛スルヲ便トス。

之ヲナサンニハ大氣ノ動搖ナキ靜穩ナル日、平坦ナル土地ニ器械ヲ据エテ、其ノ中心ヨリ「い」即チ  $\frac{4}{100}$  丈ケ隔リタル點ヨリ鋼製卷尺ノ如キ標準尺ヲ以テ基線(二百尺)ヲ測リ、此所ニ白地ノ函尺ヲ立テ之ニ觀測者ノ指圖ニ從ツテ二本ノ「スタヂア」線ト一致スルニ點ヲ記ス、此ノ二點間ノ長サ即チ夾距ヲ基本トシテ十進法ニ目盛セバ又「スタヂア」表ヲ適用シ得ベシ。

### 第三節 器械ノ検査整正並ニ使用法

(一五一) 器械ノ使用法 器械ノ据付ケ、地平角傾斜角ノ測定、直線ノ決定並ニ延長、等器械ノ使用法ニ就テハ「トランシット」ニ於ケルト同様ナルヲ以テ省ク(一三三)―(一三五)參照)

(一五二) 器械ノ検査及整正 器械ノ検査及整正ニ就テハ「トランシット」ニ要スル諸件ハ又凡テ之ニ必要ニシテ其他ハ「スタヂア」線及函尺ノ検査ナルガ(一四七)(一五〇)ヲ熟讀セバ自カラ適用シ得ラルベキニヨリ此處ニ之ヲ略ス。

### 第四節 「スタヂア」測量ノ實測方法

(一五三) 野業 「スタヂア」測量ノ實測方法ハ「トランシット」ノ角度法、象限法、經緯測法、ハ勿論「コンパス」ニ於ケル諸法ニ至ルマデ前記ノ何レヲモ適用シ得ルモノナルガ、今「スタヂア」測量ニ依ル地形測量ニ際シ最モ確實ナル進測法ニ就テ述ベシ。先ヅ適當ノ一點ヲ選ビテ出發點トシ茲ニ器械ヲ据エ地面ヨリ望遠鏡ノ橫軸中心マデノ高サヲ測ル之ヲ器械高ト云フ、次ニ水平分度圓ノ副尺(水平副尺)ヲ零ニ合セ其マ、望遠鏡ヲN(或ハS)ニ定メテ以テ視線ヲ子午線ニ一致セシメ下緊シテ後上緊ヲ弛メテ第二ノ點ニ立テタル函尺ヲ規ヒ器械高ト同ジ高サヲ十字線ノ中點ニ視準シテ「スタヂア」線ニヨル夾距ヲ讀ム、次ニ方位角、水平回旋角、傾斜角、トヲ順次ニ讀ミテ第二ノ點ニ器械ヲ移ス。

第二ノ點ニ於テハ器械ヲ据付ケテ器械高ヲ測リ水平副尺ヲ零ニ合セテ第一ノ點ヲ後視シ「スタヂア」距離即チ夾距、方位角、傾斜角、ヲ讀ミ下緊シテ後上緊ヲ弛メテ第三ノ點ヲ前視スベシ、此ノ場合ニ於テハ第一ノ點ニテ第二ノ點ヲ見タルト同様ノ觀測ヲナスベシ、器械ヲ据エタル點ニテナスベキ作業ヲ表示スレバ次ノ如シ

器械高ヲ測ル	器械ノ高(後視ノマ)
「スタヂア」距離ヲ讀ム	「スタヂア」距離ヲ讀ム
後視 方位角ヲ讀ム(大サ前視ト同大ニ)	前視 方位角ヲ讀ム
水平回旋角ヲ零トナシ置ク	水平回旋角ヲ讀ム
傾斜角ヲ讀ム(大サ前視ト同大ニ)	傾斜角ヲ讀ム

斯クノ如クシテ測點上ニ器械ヲ移シテ漸次進行スルモノナルガ測線外ニ家屋、道路、樹木、山川等ノ位置形狀ヲ求メンニハ適當ニ枝距ヲ出シテ之ヲ測定ス。

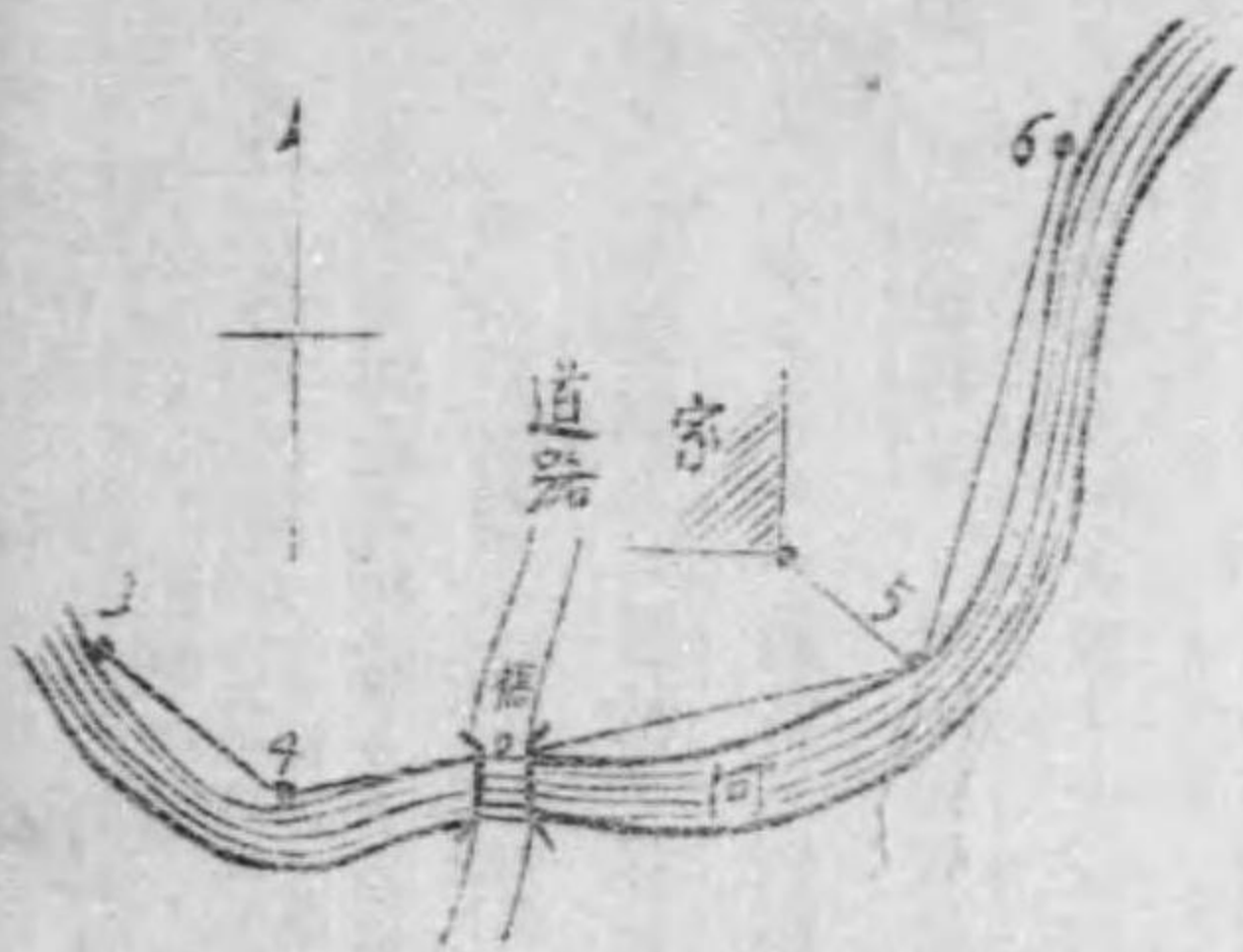
(一五四) 野帳記載法 野帳記載法ハ種々アレドモ次ニ記スルモノヲ以テ最モ便ナリトス而シテ野外ニ於テ記入スベキハ次表ノ一、二、三、四、五、八ノ六行ニシテ印ハ器械ヲ据付ケタル點ヲ表ハス。

測點並ニ物體	水平ノ方位角	回旋角	スタヂアノ上線	スタヂアノ下線	讀高	夾距	計算高	傾斜角	差高	基面高	備考
1. 4ニテ	N75°25'W	0	1.26	0.48	0.78	78	-	0°10'	-	1.76	83.00 器械高=87=視線高
2. 3後視	N74°15'E	127°40'	3.50	2.80	0.70	70	+	0°32'	+	1.90	84.90
3. 5	N76°08'E	128°33'	10.50	8.64	2.16	216	+	0°55'	+	10.38	93.26 器械高=87
4. 4ニテ	N75°08'W	0	10.76	8.60	2.16	216	-	0°54'	-	10.13	93.13
5. 4後視	N53°32'W	51°20'	4.70	4.12	0.58	58	+	10°57'	+	10.00	103.26
6. 家ノ角	N14°33'E	121°25'	8.00	6.22	1.78	178	+	1°27'	+	8.50	101.76

第五節 内業

(一五五) 計算 内業トシテハ野帳ノ計算、及製圖法ニシテ計算スルハ前表六、七、九、十、ノ各行ニシテ「スタヂア」讀高ノ上線下線ノ差ハ即チ夾距ニシテ(一四九)ニヨリ「スタヂア」表ヲ使用シテ水平距離及差高ヲ求メラル、基面上高ハ觀測點ノ高サガ已ニ知ラレアル故之ニ差高ヲ加減シテ得ラル。

圖 五 十 七 第



(一五六) 製圖方法 製圖法ハ以上ノ計算ヲ了リタル後主要點ヨリ始メ次々ニ細密ノ點ヲ記入スルモノニシテ其レ等諸點ノ位置ノ定メ方ハ前ニ(一二三)ニ於テ述べタル通りナリ、今(一五五)ニ於ケル表ニ依リ製圖セルモノヲ示セバ第七十五圖ノ如シ

欠

# 欠

ル場合等ニ用フルモノニシテ陸地測量トシテハ殆ト用フル事ナシ。

## 第十章 字圖及町村圖ノ作製

字圖及町村圖ノ作製ニアタリ平板測量ノ結果ノミニ據リ直ニ之ヲ續ギ合ス時ハ微細ノ誤差ハ累積シテ極メテ尨大ナル結果ヲ現ス事アリ加之其ノ那邊ニ於テ誤測セルカラ發見スル事全ク不可能ナリ、故ニ其ノ初メニ於テ豫メ之ガ標據タルベキ諸點(圖根點)ヲ設ケ之ヲ實測シテ圖根圖ヲ調製シ置カザルベカラズ、之等ノ方法ヲ説明センニハ三角測量ノ理論ニ入ルヲ要スト雖今單ニ字圖等ノ作製方法ヲ會得スルニ足ル程度ニ於テ之ヲ畧述セントス。

### 第一節 三角測量法

(一七七) 三角測量ノ理論 三角測量ハ一邊ノ長サト之ヲ夾ム角度トヲ測リテ其ノ邊長ヲ算出シ各點ノ位置ヲ定ムル方法ニシテ其ノ原理ハ次ノ如キ簡單ナル点ニアリ。

「イロ」ノ長サヲ實測シ「イ」角及「ロ」角ヲ觀測シタリトセバ「ハ」角及「イハ」「ロハ」ノ線ハ計算ニヨリ知ル事ヲ得、即チ三角形ノ內角ノ和ハ百八十度ナルガ故ニ







量ヲナシ圖根點ガ恰度平板ノ一區域内(區域外ニテモ圖割ノ一寸以内位ナレバ差支ナシ)ニ三個宛入ル程度ニ測點ノ位置ヲ選定シ置カザルベカラズ。然レドモスデニ地圖ノ存スル時ハ豫備測量ヲ要セズシテ直ニ從來ノ地圖ニ依リ地形ヲ案ジテ測點ヲ設クベキ位置ヲ選定シ、其ノ字地内ニ參謀本部陸地測量部ノ三角點(一二等其他ノ圖根點)存在スル場合ハ之等ノ諸點ニ準據シテ經緯距法ニヨリ前ニ選定セル諸點ヲ測量シ(一四一)經緯距法ニヨリ圖根點ヲ作製スルヲ得ベシ。

(一八一) 測板上ノ圖紙ニ圖根點ノ展開並ニ一筆地原圖測量 細部圖根點ノ作製完了セバ平板測量ニテ一筆地測量ヲ施行シテ一筆地原圖ヲ作製スルモノナルガ、此ノ場合ニハ先ヅ圖紙ヲ平板ニ貼付シ之ニ正シク方一尺ノ正方形ヲ劃シ之ニ(一二三)ニヨリ細部圖根點ノ百分ノ一區割ヲ千二百分一ノ縮尺ニ依リ展開シタルモノヲ作り、此ノ平板ヲ以テ地上ノ圖根點ト圖紙上ノ圖根點トニ準據シテ平板測量法ニヨリ一筆地ノ測量ヲ施行ス此ノ場合ニハ圖根點ノ展開ガ千二百分一ナルヲ以テ必ズ千二百分一ノ縮尺ニ依ラザルベカラズ。  
斯クシテ一筆地原圖ノ調製ヲ了リ細部圖根點ト此ノ原圖トニ依リ字圖ヲ作製スルモノナリ。

### 第三節 字圖又ハ一筆地原圖ノ著墨及註記

測量ヲ了リ鉛筆ノ製圖ヲ完結シタルモノハ著墨セザルベカラズ之ガ著墨、註記、圖譜等ハ官公署ノ

作業ナルトキハ夫々規定等アルベキヲ以テ之レニ依ルベキハ勿論ナルモ然ラザルトキハ一般地圖ニ倣フベキモノナリ、今其ノ普通ニシテ主ナル點ヲ擧グレバ次ノ如シ。

(一八二) 著墨スベキ主ナルモノ

- (一) 方位
- (二) 一、二、等圖根點、及細部圖根點
- (三) 一筆地界、字界、及其レ以上ノ境界
- (四) 道路、堤塘、河川、溝渠、海岸線等
- (五) 橋梁、渡船場、其他
- (六) 諸註記

(一八三) 地圖ニ使用スル線ノ種類

- (一) 一號實線 ——— 太サ約一厘
- (二) 二號實線 ——— 太サ約五毛
- (三) 三號實線 ——— 太サ約二毛五糸

(一八四) 地圖ニ使用スル境界線ノ種類 右ノ線及點線ヲ以テ各種ノ境界線ヲ表ハス方式ハ場合ニ依リ多少ノ差異アレドモ今其ノ一例ヲ示ス。

府縣界 ———— 實一分五厘、虛一分五厘ノ一號点線ノ虛部ニ、一號線ノ長サ五厘ノ

モノ二個ヲ挿ム。

國界 ———— 實一分五厘、虛一分、ノ一號点線ノ虛部ニ、一號線ノ長サ五厘ノモ

ノ一個ヲ挿ム。


郡市界 ———— 實一分、虛一分五厘、ノ一號点線ノ虛部ニ、經一厘ノ圓點三個ヲ挿

ム。

町村界 ———— 實一分、虛一分、ノ二號点線ノ虛部ニ、經五毛ノ圓點二個ヲ挿ム。

大字界 ———— 實一分、虛一分、ノ二號点線ノ虛部ニ、經五毛ノ圓點一個ヲ挿ム。

字界 ———— 實一分、虛五厘、ノ二號点線トス。

一筆地界  三號實線ヲ以テ示シ、其ノ隅角点ハ經約五毛ノ圓點ヲ以テ示シ、線

ハ此ノ点ニ密接セシメザルモノトス。

其他道路、河川、海岸等ノ線ハ其ノ眞形ニ依リ三號實線ヲ以テ示ス。

(一八五) 圖根点ノ圖示

一等圖根点  中心ニ一点ヲ有スル高サ約一分ノ重複三角形ヲ二號線ニテ示ス。

二等圖根点  中心ニ一点ヲ有スル高サ約八厘ノ三角形ヲ二號線ニテ示ス。

細部圖根点 ○ 經約四厘ノ圓ヲ三號線ニテ示ス。

(一八六) 彩色 彩色ニ用フル色ハ黒、代赭、綠、藍、及洋紅ノ五種トシ普通字圖ニ於テハ道路ヲ

代赭ニ海河沼湖等ヲ藍色ニ彩ルノミナレドモ之ヨリ大ナル地圖ニ於テハ官民有地、神社寺院敷地、

町村共有地、河海沼湖、道路溝渠等ヲ色別スルモノアリ其他地圖ノ性質ニ依リ多少ノ別アリ、之等

製圖記號、色彩等ニ就テハ陸地測量部發行ノ製圖記號其他ヲ参照スルヲ便トス。

(一八七) 註記 註記文字ハ漢字、假名、及亞刺比亞數字ノ三種ニシテ漢字數字ハ地番ニ用キ、アラ

ビア數字ハ圖根点ノ番號ニ使用ス、其他註記スベキ主ナル點ハ左ノ如シ。

(一) 縮尺、縮尺ハ圖面ノ下部中央ニ 六五分ノ (一分一厘) 又ハ 600 1 ト記載ス。

(二) 町、村、大字、字名及地番、地目。

(三) 製圖完成年月日及測圖者氏名。

土地測量法終

「スタデヤ」表

分 數	4°		5°		6°		7°	
	水 距	平 離	高 差	水 距	平 離	差 高	水 距	平 離
0 ... ..	99.51	6.96	99.24	8.68	98.91	10.40	98.51	12.10
2 ... ..	"	7.02	99.23	8.74	98.90	10.45	98.50	12.15
4 ... ..	99.50	7.07	99.22	8.80	98.88	10.51	98.48	12.21
6 ... ..	99.49	7.13	99.21	8.85	98.87	10.57	98.47	12.26
8 ... ..	99.48	7.19	99.20	8.91	98.86	10.62	98.45	12.32
10 ... ..	99.47	7.25	99.19	8.97	98.85	10.68	98.44	12.38
12 ... ..	99.46	4.30	99.18	9.03	98.83	10.74	98.34	12.43
14 ... ..	"	7.36	99.17	9.08	98.82	10.79	98.41	12.49
16 ... ..	99.45	7.42	99.16	9.14	98.81	10.85	98.40	12.55
18 ... ..	99.44	7.48	99.15	9.20	98.80	10.91	98.39	12.60
20 ... ..	99.43	7.53	99.14	9.25	98.78	10.96	98.37	12.66
22 ... ..	99.42	7.59	99.13	9.31	98.77	11.02	98.36	12.72
24 ... ..	99.41	7.65	99.11	9.37	98.76	11.08	98.34	12.77
26 ... ..	99.40	7.71	99.10	9.43	98.74	11.13	98.33	12.83
28 ... ..	99.39	7.76	99.09	9.48	98.73	11.19	98.31	12.88
30 ... ..	99.38	7.82	99.08	9.54	98.72	11.25	98.29	12.94
32 ... ..	99.38	7.88	99.07	9.60	98.71	11.30	98.28	13.00
34 ... ..	99.37	7.94	99.06	9.65	98.69	11.36	98.27	13.05
36 ... ..	99.36	7.99	99.05	9.71	98.68	11.42	98.25	13.11
38 ... ..	99.35	8.05	99.04	9.77	98.67	11.47	98.24	13.17
40 ... ..	99.34	8.11	99.03	9.83	98.65	11.53	98.22	13.22
42 ... ..	99.33	8.17	99.01	9.88	98.64	11.59	98.20	13.28
44 ... ..	99.32	8.22	99.00	9.94	98.63	11.64	98.19	13.33
46 ... ..	99.31	8.28	98.99	10.00	98.61	11.70	98.17	13.39
48 ... ..	99.30	8.34	98.98	10.05	98.60	11.76	98.16	13.45
50 ... ..	99.29	8.40	98.97	10.11	98.58	11.81	98.14	13.50
52 ... ..	99.28	8.45	98.96	10.17	98.57	11.87	98.13	13.56
54 ... ..	99.27	8.51	98.94	10.22	98.56	11.93	98.11	13.61
56 ... ..	99.26	8.57	98.93	10.28	98.54	11.98	98.10	13.67
58 ... ..	99.25	8.63	98.92	10.34	98.53	12.04	98.08	13.73
60 ... ..	99.24	8.68	98.91	10.40	98.51	12.10	98.06	13.78
c=0.75	0.75	0.06	0.75	0.07	0.75	0.08	0.74	0.19
c=1.0	1.0	0.08	0.99	0.09	0.99	0.11	0.99	0.13
c=1.25	1.25	0.10	1.24	0.11	1.24	0.14	1.24	0.16

「スタデヤ」表

111

「スタデヤ」表

分 數	0°		1°		2°		3°	
	水 距	平 離	差 高	水 距	平 離	差 高	水 距	平 離
0 ... ..	100.00	0.00	99.97	1.74	99.88	3.49	99.73	5.23
2 ... ..	"	0.06	"	1.80	99.87	3.55	99.72	5.28
4 ... ..	"	0.12	"	1.86	"	3.60	99.71	5.34
6 ... ..	"	0.17	99.96	1.92	"	3.66	"	5.40
8 ... ..	"	0.23	"	1.98	99.86	3.72	99.70	5.46
10 ... ..	"	0.29	"	2.04	"	3.78	99.69	5.52
12 ... ..	"	0.35	"	2.09	99.85	3.84	"	5.57
14 ... ..	"	0.41	99.95	2.15	"	3.90	99.68	5.63
16 ... ..	"	0.47	"	2.21	99.84	2.95	"	5.69
18 ... ..	"	0.52	"	2.27	"	4.01	99.67	5.75
20 ... ..	"	0.58	"	2.33	99.83	4.07	99.66	5.80
22 ... ..	"	0.64	99.94	2.38	"	4.13	"	5.86
24 ... ..	"	0.70	"	2.44	99.82	4.18	99.65	5.92
26 ... ..	99.99	0.76	"	2.50	"	4.24	99.64	5.98
28 ... ..	"	0.81	99.93	2.56	99.81	4.30	99.63	6.04
30 ... ..	"	0.87	"	2.62	"	4.36	"	6.09
32 ... ..	"	0.93	"	2.67	99.80	4.42	99.62	6.15
34 ... ..	"	0.99	"	2.73	"	4.48	"	6.21
36 ... ..	"	1.05	99.92	2.79	99.79	4.53	99.61	6.27
38 ... ..	"	1.11	"	2.85	"	4.59	99.60	6.33
40 ... ..	"	1.16	"	2.91	99.78	4.65	99.59	6.38
42 ... ..	"	1.22	99.91	2.97	"	4.71	"	6.44
44 ... ..	99.98	1.28	"	3.02	99.77	4.76	99.58	6.50
46 ... ..	"	1.34	99.90	3.08	"	4.82	99.57	6.56
48 ... ..	"	1.40	"	3.14	99.76	4.88	99.56	6.61
50 ... ..	"	1.45	"	3.20	"	4.94	"	6.67
52 ... ..	"	1.51	99.89	3.26	99.75	4.99	99.55	6.73
54 ... ..	"	1.57	"	3.31	99.74	5.05	99.54	6.78
56 ... ..	99.97	1.63	"	3.37	"	5.11	99.53	6.84
58 ... ..	"	1.69	99.88	3.43	99.73	5.17	99.52	6.90
60 ... ..	"	1.74	"	3.49	"	5.23	99.51	6.96
c=0.75	0.75	0.01	0.75	0.02	0.75	0.03	0.75	0.05
c=1.00	1.00	0.01	1.00	0.03	1.00	0.04	1.00	0.06
c=1.25	1.25	0.02	1.25	0.03	1.25	0.05	1.25	0.08

「スタデヤ」表

110

「スタデヤ」表

分 数	12°		13°		14°		15°	
	水 距	平 離	水 距	平 離	水 距	平 離	水 距	平 離
0 ... ..	95.68	20.34	94.94	21.92	94.15	23.47	93.30	25.00
2 ... ..	95.65	20.39	94.91	21.97	94.12	23.52	93.27	25.05
4 ... ..	95.63	20.44	94.89	22.02	94.09	23.58	93.24	25.10
6 ... ..	95.61	20.50	94.86	22.08	94.07	23.63	93.21	25.15
8 ... ..	95.58	20.55	94.84	22.13	94.04	23.68	93.18	25.20
10 ... ..	95.56	20.60	94.81	22.18	94.01	23.73	93.16	25.25
12 ... ..	95.53	20.66	94.79	22.23	93.98	23.78	93.13	25.30
14 ... ..	95.51	20.71	94.76	22.28	93.95	23.83	93.10	25.35
16 ... ..	95.49	20.76	94.73	22.34	93.93	23.88	93.07	25.40
18 ... ..	95.46	20.81	94.71	22.39	93.90	23.93	93.04	25.45
20 ... ..	95.44	20.87	94.68	22.44	93.87	23.99	93.01	25.50
22 ... ..	95.41	20.92	94.66	22.49	93.84	24.04	92.98	25.55
24 ... ..	95.39	20.97	94.63	22.54	93.81	24.09	92.95	25.60
26 ... ..	95.36	21.03	94.60	22.60	93.79	24.14	92.92	25.65
28 ... ..	95.34	21.08	94.58	22.65	93.76	24.19	92.89	25.70
30 ... ..	95.32	21.13	94.55	22.70	93.73	24.24	92.86	25.75
32 ... ..	95.29	21.18	94.52	22.75	93.70	24.29	92.83	25.80
34 ... ..	95.27	21.24	94.50	22.80	93.67	24.34	92.80	25.85
36 ... ..	95.24	21.29	94.47	22.85	93.65	24.39	92.77	25.90
38 ... ..	95.22	21.34	94.44	22.91	93.62	24.44	92.74	25.95
40 ... ..	95.19	21.39	94.42	22.96	93.59	24.49	92.71	26.00
42 ... ..	95.17	21.45	94.39	23.01	93.56	24.55	92.68	26.05
44 ... ..	95.14	21.50	94.36	23.06	93.53	24.60	92.65	26.10
46 ... ..	95.12	21.55	94.34	23.11	93.50	24.65	92.62	26.15
48 ... ..	95.09	21.60	94.31	23.16	93.47	24.70	92.59	26.20
50 ... ..	95.07	21.66	94.28	23.22	93.45	24.75	92.56	26.25
52 ... ..	95.04	21.71	94.26	23.27	93.42	24.80	92.53	26.30
54 ... ..	95.02	21.76	94.23	23.32	93.39	24.85	92.49	26.35
56 ... ..	94.99	21.81	94.20	23.37	93.36	24.90	92.46	26.40
58 ... ..	94.97	21.87	94.17	23.42	93.33	24.95	92.43	26.45
60 ... ..	94.94	21.92	94.15	23.47	93.30	25.00	92.40	26.50
c=0.75	0.73	0.16	0.73	0.17	0.72	0.19	0.72	0.20
c=1.00	0.98	0.22	0.97	0.23	0.97	0.25	0.96	0.27
c=1.25	1.22	0.27	1.21	0.29	1.21	0.31	1.20	0.34

「スタデヤ」表

1111

「スタデヤ」表

分 数	8°		9°		10°		11°	
	水 距	平 離	水 距	平 離	水 距	平 離	水 距	平 離
0 ... ..	98.06	13.78	97.55	15.45	96.98	17.10	96.36	18.73
2 ... ..	98.05	13.84	97.53	15.51	96.96	17.16	96.34	18.78
4 ... ..	98.03	13.89	97.52	15.56	96.94	17.21	96.32	18.84
6 ... ..	98.01	13.95	97.50	15.62	96.92	17.26	96.29	18.89
8 ... ..	98.00	14.01	97.48	15.67	96.90	17.32	96.27	18.95
10 ... ..	97.98	14.06	97.46	15.73	96.88	17.37	96.25	19.00
12 ... ..	97.97	14.12	97.44	15.78	96.86	17.43	96.23	19.05
14 ... ..	97.95	14.17	97.43	15.84	96.84	17.48	96.21	19.11
16 ... ..	97.93	14.23	97.41	15.89	96.82	17.54	96.18	19.16
18 ... ..	97.92	14.28	97.39	15.95	96.80	17.59	96.16	19.21
20 ... ..	97.90	14.34	97.37	16.00	96.78	17.65	96.14	19.27
22 ... ..	97.88	14.40	97.35	16.06	96.76	17.70	96.12	19.32
24 ... ..	97.87	14.45	97.33	16.11	96.74	17.76	96.09	19.38
26 ... ..	97.85	14.51	97.31	16.17	96.72	17.81	96.07	19.43
28 ... ..	97.83	14.56	97.29	16.22	96.70	17.86	96.05	19.48
30 ... ..	97.82	14.62	97.28	16.28	96.68	17.92	96.03	19.54
32 ... ..	97.80	14.67	97.26	16.33	96.66	17.97	96.01	19.59
34 ... ..	97.78	14.73	97.24	16.39	96.64	18.03	95.98	19.64
36 ... ..	97.76	14.79	97.22	16.44	96.62	18.08	95.95	19.70
38 ... ..	97.75	14.84	97.20	16.50	96.60	18.14	95.93	19.75
40 ... ..	97.73	14.90	97.18	16.55	96.57	18.19	95.91	19.80
42 ... ..	97.71	14.95	97.16	16.61	96.55	18.24	95.89	19.86
44 ... ..	97.69	15.01	97.14	16.66	96.53	18.30	95.86	19.91
46 ... ..	97.68	15.06	97.12	16.72	96.51	18.35	95.84	19.96
48 ... ..	97.66	15.12	97.10	16.77	96.50	18.41	95.82	20.02
50 ... ..	97.64	15.17	97.08	16.83	96.47	18.46	95.79	20.07
52 ... ..	97.62	15.23	97.06	16.88	96.45	18.51	95.77	20.12
54 ... ..	97.61	15.28	97.04	16.94	96.42	18.57	95.75	20.18
56 ... ..	97.59	15.34	97.02	16.99	96.40	18.62	95.72	20.23
58 ... ..	97.57	15.40	97.00	17.05	96.38	18.68	95.70	20.28
60 ... ..	97.55	15.45	96.98	17.10	96.36	18.73	95.68	20.34
c=0.75	0.74	0.11	0.74	0.12	0.74	0.14	0.73	0.15
c=1.00	0.99	0.15	0.99	0.16	0.98	0.18	0.98	0.20
c=1.25	1.23	0.18	1.23	0.21	1.23	0.23	1.22	0.25

「スタデヤ」表

1111

「スタデヤ」表

分 数	20°		21°		22°		23°	
	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高
0 ... ..	88.30	32.14	87.16	33.46	85.97	34.73	84.73	35.97
2 ... ..	88.26	32.18	87.12	33.50	85.93	34.77	84.69	36.01
4 ... ..	88.23	32.23	87.08	33.54	85.89	34.82	84.65	36.05
6 ... ..	88.19	32.27	87.04	33.59	85.85	34.86	84.61	36.09
8 ... ..	88.15	32.32	87.00	33.63	85.80	34.90	84.57	36.13
10 ... ..	88.11	32.36	86.96	33.67	85.76	34.94	84.52	36.17
12 ... ..	88.08	32.41	86.92	33.72	85.72	34.98	84.48	36.21
14 ... ..	88.04	32.45	86.88	33.76	85.68	35.02	84.44	36.25
16 ... ..	88.00	32.49	86.84	33.80	85.64	35.07	84.40	36.29
18 ... ..	87.96	32.54	86.80	33.84	85.60	35.11	84.35	36.33
20 ... ..	87.93	32.58	86.77	33.89	85.56	35.15	84.31	36.37
22 ... ..	87.89	32.63	86.73	33.93	85.52	35.19	84.27	36.41
24 ... ..	87.85	32.67	86.69	33.97	85.48	35.23	84.23	36.45
26 ... ..	87.81	32.72	86.65	34.01	85.44	35.27	84.18	36.49
28 ... ..	87.77	32.76	86.61	34.06	85.40	35.31	84.14	36.53
30 ... ..	87.74	32.80	86.57	34.10	85.36	35.36	84.10	36.57
32 ... ..	87.70	32.85	86.53	34.14	85.31	35.40	84.06	36.61
34 ... ..	87.66	32.89	86.49	34.18	85.27	35.44	84.01	36.65
36 ... ..	87.62	32.93	86.45	34.23	85.23	35.48	83.97	36.69
38 ... ..	87.58	32.98	86.41	34.27	85.19	35.52	83.93	36.73
40 ... ..	87.54	33.02	86.37	34.31	85.15	35.56	83.86	36.77
42 ... ..	87.51	33.07	86.33	34.35	85.11	35.60	83.84	36.80
44 ... ..	87.47	33.11	86.29	34.40	85.07	35.64	83.80	36.84
46 ... ..	87.43	33.15	86.25	34.44	85.02	35.68	83.76	36.88
48 ... ..	87.39	33.20	86.21	34.48	84.98	35.72	83.72	36.92
50 ... ..	87.35	33.24	86.17	34.52	84.94	35.76	83.67	36.96
52 ... ..	87.31	33.28	86.13	34.57	84.90	35.80	83.63	37.00
54 ... ..	87.27	33.33	86.09	34.61	84.86	35.85	83.59	37.04
56 ... ..	87.24	33.37	86.05	34.65	84.82	35.89	83.54	37.08
58 ... ..	87.20	33.41	86.01	34.69	84.77	35.93	83.50	37.12
60 ... ..	87.16	33.46	85.97	34.73	84.73	35.97	83.46	37.16
c = 0.75	0.70	0.16	0.70	0.27	0.69	0.29	0.69	0.30
c = 1.00	0.94	0.35	0.93	0.37	0.92	0.38	0.92	0.40
c = 1.25	1.17	0.44	1.16	0.46	1.15	0.48	1.15	0.50

「スタデヤ」表

一三五

「スタデヤ」表

分 数	16°		17°		18°		19°	
	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高	水 平 距 離	差 高
0 ... ..	92.40	26.50	91.45	27.96	90.45	29.39	89.40	30.78
2 ... ..	92.37	26.55	91.42	28.01	90.42	29.44	89.36	30.83
4 ... ..	92.34	26.59	91.39	28.06	90.38	29.48	89.33	30.87
6 ... ..	92.31	26.64	91.35	28.10	90.35	29.53	89.29	30.92
8 ... ..	92.28	26.69	91.32	28.15	90.31	29.58	89.26	30.97
10 ... ..	92.25	26.74	91.29	28.20	90.28	29.62	89.22	31.01
12 ... ..	92.22	26.79	91.26	28.25	90.24	29.67	89.18	31.06
14 ... ..	92.19	26.84	91.22	28.30	90.21	29.72	89.15	31.10
16 ... ..	92.15	26.89	91.19	28.34	90.18	29.76	89.11	31.15
18 ... ..	92.12	26.94	91.16	28.39	90.14	29.81	89.08	31.19
20 ... ..	92.09	26.99	91.12	28.44	90.11	29.86	89.04	31.24
22 ... ..	92.06	27.04	91.09	28.49	90.07	29.90	89.00	31.28
24 ... ..	92.03	27.09	91.06	28.54	90.04	29.95	88.96	31.33
26 ... ..	92.00	27.13	91.02	28.58	90.00	30.00	88.93	31.38
28 ... ..	91.97	27.18	90.99	28.63	89.97	30.04	88.89	31.42
30 ... ..	91.93	27.23	90.96	28.68	89.93	30.09	88.86	31.47
32 ... ..	91.90	27.28	90.92	28.73	89.90	30.14	88.82	31.51
34 ... ..	91.87	27.33	90.89	28.77	89.86	30.19	88.78	31.56
36 ... ..	91.84	27.38	90.85	28.82	89.83	30.23	88.75	31.60
38 ... ..	91.81	27.43	90.82	28.87	89.79	30.28	88.71	31.65
40 ... ..	91.77	27.48	90.79	28.92	89.76	30.32	88.67	31.69
42 ... ..	91.74	27.52	90.76	28.96	89.72	30.37	88.64	31.74
44 ... ..	91.71	27.57	90.72	29.01	89.69	30.41	88.60	31.78
46 ... ..	91.68	27.62	90.69	29.06	89.65	30.46	88.56	31.83
48 ... ..	91.65	27.67	90.66	29.11	89.61	30.51	88.53	31.87
50 ... ..	91.61	27.72	90.62	29.15	89.58	30.55	88.49	31.92
52 ... ..	91.58	27.77	90.59	29.20	89.54	30.60	88.45	31.96
54 ... ..	91.55	27.81	90.55	29.25	89.51	30.65	88.41	32.01
56 ... ..	91.52	27.86	90.52	29.30	89.47	30.69	88.38	32.05
58 ... ..	91.48	27.91	90.48	29.34	89.44	30.74	88.34	32.09
60 ... ..	91.45	27.96	90.45	29.39	89.40	30.78	88.30	32.14
c = 0.75	0.72	0.21	0.72	0.23	0.71	0.24	0.71	0.25
c = 1.00	0.86	0.28	0.95	0.30	0.95	0.32	0.94	0.33
c = 1.25	1.20	0.35	1.19	0.38	1.19	0.40	1.18	0.42

「スタデヤ」表

一三四

「スタデヤ」表

分 數	28°		29°		30°	
	水距	平離 差 高	水距	平離 差 高	水距	平離 差 高
0 ... ..	77.96	41.45	76.50	42.40	75.00	43.30
2 ... ..	77.91	41.48	76.45	42.43	74.95	43.33
4 ... ..	77.86	41.52	76.40	42.46	74.90	43.36
6 ... ..	77.81	41.55	76.35	42.49	74.85	43.39
8 ... ..	77.77	41.58	76.30	42.53	74.80	43.42
10 ... ..	77.72	41.61	76.25	42.56	74.75	43.45
12 ... ..	77.67	41.65	76.20	42.59	74.70	43.47
14 ... ..	77.62	41.68	76.15	42.62	74.65	43.50
16 ... ..	77.57	41.71	76.10	42.65	74.60	43.53
18 ... ..	77.52	41.74	76.05	42.68	74.55	43.56
20 ... ..	77.48	41.77	76.00	42.71	74.49	43.59
22 ... ..	77.42	41.81	75.95	42.74	74.44	43.62
24 ... ..	77.38	41.84	75.90	42.77	74.39	43.65
26 ... ..	77.33	41.87	75.85	42.80	74.34	43.67
28 ... ..	77.28	41.90	75.80	42.83	74.29	43.70
30 ... ..	77.23	41.93	75.75	42.86	74.24	43.73
32 ... ..	77.18	41.97	75.70	42.89	74.19	43.76
34 ... ..	77.13	42.00	75.65	42.92	74.14	43.79
36 ... ..	77.09	42.03	75.60	42.95	74.09	43.82
38 ... ..	77.04	42.06	75.55	42.98	74.04	43.84
40 ... ..	76.99	42.09	75.50	43.01	73.99	43.87
42 ... ..	76.94	42.12	75.45	43.04	73.93	43.90
44 ... ..	76.89	42.15	75.40	43.07	73.88	43.93
46 ... ..	76.84	42.19	75.35	43.10	73.83	43.95
48 ... ..	76.79	42.22	75.30	43.13	73.78	43.98
50 ... ..	76.74	42.25	75.25	43.16	73.73	44.01
52 ... ..	76.69	42.28	75.20	43.18	73.68	44.04
54 ... ..	76.64	42.31	75.15	43.21	73.63	44.07
56 ... ..	76.59	42.34	75.10	43.24	73.58	44.09
58 ... ..	76.55	42.37	75.05	43.27	73.52	44.12
60 ... ..	76.50	42.40	75.00	43.30	73.47	44.15
c = 0.75	0.66	0.36	0.65	0.37	0.65	0.38
c = 1.00	0.88	0.48	0.87	0.49	0.86	0.51
c = 1.25	1.10	0.60	1.09	0.62	1.08	0.64

「スタデヤ」表

一三七

「スタデヤ」表

分 數	24°		25°		26°		27°	
	水距	平離 差 高	水距	平離 差 高	水距	平離 差 高	水距	平離 差 高
0 ... ..	83.46	37.16	82.14	38.30	80.78	39.40	79.39	40.45
2 ... ..	83.41	37.20	82.09	38.34	80.74	39.44	79.34	40.49
4 ... ..	83.37	37.23	82.05	38.38	80.69	39.47	79.29	40.52
6 ... ..	83.33	37.27	82.01	38.41	80.65	39.51	79.25	40.55
8 ... ..	83.28	37.31	81.96	38.45	80.60	39.54	79.20	40.59
10 ... ..	83.24	37.35	81.92	38.49	80.55	39.58	79.15	40.62
12 ... ..	83.20	37.39	81.87	38.53	80.51	39.61	79.11	40.66
14 ... ..	83.15	37.43	81.83	38.56	80.46	39.65	79.06	40.69
16 ... ..	83.11	37.47	81.78	38.60	80.41	39.69	79.01	40.72
18 ... ..	83.07	37.51	81.74	38.64	80.37	39.72	78.96	40.76
20 ... ..	83.02	37.54	81.69	38.67	80.32	39.76	78.92	40.79
22 ... ..	82.98	37.58	81.65	38.71	80.28	39.79	78.87	40.82
24 ... ..	82.93	37.62	81.60	38.75	80.23	39.83	78.82	40.86
26 ... ..	82.89	37.66	81.56	38.78	80.18	39.86	78.77	40.89
28 ... ..	82.85	37.70	81.51	38.82	80.14	39.90	78.73	40.92
30 ... ..	82.80	37.74	81.47	38.86	80.09	39.93	78.68	40.96
32 ... ..	82.76	37.77	81.42	38.89	80.04	39.97	78.63	40.99
34 ... ..	82.72	37.81	81.38	38.93	80.00	40.00	78.58	41.02
36 ... ..	82.67	37.85	81.33	38.97	79.95	40.04	78.54	41.06
38 ... ..	82.63	37.89	81.28	39.00	79.90	40.07	78.49	41.09
40 ... ..	82.58	37.93	81.24	39.04	79.86	40.11	78.44	41.12
42 ... ..	82.54	37.96	81.19	39.08	79.81	40.14	78.39	41.16
44 ... ..	82.49	38.00	81.15	39.11	79.76	40.18	78.34	41.19
46 ... ..	82.45	38.04	81.10	39.15	79.72	40.21	78.30	41.22
48 ... ..	82.41	38.08	81.06	39.18	79.67	40.24	78.25	41.26
50 ... ..	82.36	38.11	81.01	39.22	79.62	40.28	78.20	41.29
52 ... ..	82.32	38.15	80.97	39.26	79.58	40.31	78.15	41.32
54 ... ..	82.27	38.19	80.92	39.29	79.53	40.35	78.10	41.35
56 ... ..	82.23	38.23	80.87	39.33	79.48	40.38	78.06	41.39
58 ... ..	82.18	38.26	80.83	39.36	79.44	40.42	78.01	41.42
60 ... ..	82.14	38.30	80.78	39.40	79.39	40.45	77.96	41.45
c = 0.75	0.68	0.31	0.68	0.32	0.67	0.33	0.66	0.35
c = 1.00	0.91	0.41	0.90	0.42	0.89	0.45	0.89	0.46
c = 1.25	1.14	0.52	1.13	0.54	1.12	0.56	1.11	0.58

「スタデヤ」表

一三八



錄附 土地異動願屆便覽

第一章 土地異動

第一節 土地ノ種類

一 有租地

二 免租地

第二節 土地異動種別

一 有租地成

二 免租地成

三 土地分割

四 土地合併

五 地目、地類變換

六 地目變換、地價据置年期

七 開墾

目次

七

一

一一

九

九

八

五

四

三

三

一

一

一

一

目次	二
八 開拓地	一四
九 新開地	一七
一〇 荒地免租年期	一八
一一 造林地及砂防地	二一
一二 誤謬訂正	二三
一三 土地臺帳面住所氏名ノ異動	二四
一四 耕地整理	二四
一五 災害地地租免除	三七
一六 其他	三八
第三節 土地ノ丈量	四〇
第四節 地價設定及修正	四一
第五節 登録税	四三
第六節 地租ニ關スル申請届書調理例	四五

## 附錄 土地異動願届便覽

### 第一章 土地異動

#### 第一節 土地ノ種類

- 一 土地ニ官有地、民有地ノ區別アレトモ官有地ハ總テ地租及地方税ヲ賦課セサルモノニシテ國稅事務ニ殆ムト關係ナキヲ以テ茲ニ説明セス
- 二 民有地ニハ地租其ノ他ノ公課ヲ課スルモノト課セサルモノトアリ其ノ課スルモノヲ有租地ト謂ヒ課セサルモノヲ免租地ト稱ス

#### 一 有租地

一 有租地ハ之ヲ區別シテ左ノ二類ト爲ス(地租條例第三條 第一項)

第一類地 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類地 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

#### 二 免租地

一 地租條例ニ於テ免租地ト定メタルモノ左ノ如シ(地租條例第四條)

(一) 國府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但シ該土地カ借地ニシテ借料ヲ支拂フモノナルトキハ免租セス

(二) 府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其ノ所有地但シ其ノ定メタルトキヨリ一箇年以内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ免租セス(公共團體ノ種類及但書期間明治三十八年勅令第一五九號)

勅令ノ指定ニ依ル公共團體ノ種類參照

- (一) 府縣組合、郡組合、水利組合、水利組合聯合、市町村組合、町村組合、市町村學校組合、町村學校組合、市町村內ノ區、學區、沖繩縣ノ區、區內ノ部、北海道地方費、北海道ノ區町村內ノ部、北海道土功組合トス
- (二) 府縣社地、鄉村社地、招魂社地 但シ該土地カ借地ニシテ借料ヲ支拂フモノナルトキハ免租セス
- (三) 墳墓地
- (四) 用惡水路、溜池、堤塘、井溝
- (五) 鐵道用地、軌道用地、運河用地
- (六) 保安林
- (七) 公衆ノ用ニ供スル道路
- (八)

前各項ノ土地ニハ府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體ハ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得サルモノナレトモ所有者以外ノ者カ一又ハ二ノ土地ヲ使用收益スルトキハ其ノ使用者ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルモ差支ナキモノトス

二 右以外ニ地租條例又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免セラレ、モノアルモ之等ハ條例ノ所謂免租地ニアラス詳細ハ第二節ニ於テ説明スヘシ

第二節 土地異動種別

一 有租地 成

一 官有地ノ拂下、下渡又ハ免租地ノ使用廢止等ニ依リ從來地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲リタルモノヲ有租地成ト謂フ

二 地番 官有地拂下其ノ他ニ依リ新ニ地番ヲ付スヘキ土地ヲ生シタルトキハ其ノ地番ハ當該大字(小字毎ニ地番ヲ付シアル地方ハ小字)ノ最終番ヲ追ヒ其ノ次番ヲ付スルモノトス但シ最終番ヲ付スルカ爲ニ該地ト接續地トノ地番カ著シク隔絶シ取扱上不便ナル場合ハ土地分割ノ例ニ準シ接續地ノ枝番ヲ付スルモ妨ナシ又從來民有地ト通シタル番號ヲ付シアル土地ナルトキハ元番號ヲ以テ其ノ土地ノ地番トスルモノトス

三 地價 地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其ノ地ノ現況ニ依リ直ニ其ノ地

價ヲ設定ス但シ開拓前ノ年期許可申請ニ係ル土地ノ地價ハ現況ニ依ラス開拓前ノ土地ニ相當スル地價ヲ定ムルモノトス(地租條例第十一條第二項)

四 地租 地價ヲ設定シタルトキハ其ノ設定後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス(地租條例第十五條第二項)

五 届 地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ届出ツヘキモノナレトモ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ届出ツルニ及ハサルモノトス(地租條例第十條第一項)

左記ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツルモノトス(地租條例第十三條)

- (一) 用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ノ供用ヲ廢止シタルトキ
- (二) 公用又ハ公共ノ用ニ供シ免租セラレタル土地ニシテ其ノ供用ヲ廢止シタルトキ(地租條例第一條第二項)
- (三) 公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メ免租セラレタル土地ニシテ一年以内ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ(同上第二條)

## 二 免租地成

一 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル民有地ト爲リタルモノヲ免租地成ト謂フ

二 地租 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲リタルトキハ稅務署長ニ於テ其ノ届出ヲ受ケタル後又ハ主管廳ノ通知ヲ受ケタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ免除ス(地租條例第十五條第一項)

三 官地成 民有地ニシテ官有地トナリタルモノハ總テ免租地成ノ例ニ準シテ取扱フモノトス

四 届 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シタルトキハ届出ツヘキモノナレトモ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ申告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ届出ツルニ及ハサルモノトス(地租條例第十條第一項)

左記ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツルモノトス(地租條例第十三條)

- (一) 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ
- (二) 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シタルトキ(地租條例第十四條第一項)
- (三) 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ(同上第二條)

## 三 土地分割

一 筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割スルモノトス(地租條例施行規則第二條)

- (一) 別地目ト爲ルトキ
- (二) 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
- (三) 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
- (四) 所有者ヲ異ニスルトキ
- (五) 質權ノ目的トナルトキ
- (六) 百年ヨリ長キ存続期間ノ定メアル地上權ノ目的ト爲ルトキ
- (七) 行政區劃ヲ異ニスルトキ

二 土地臺帳中一筆ノ外書若ハ内書ト爲シアル墳墓地其ノ他別地目ト爲スヘキモノハ異動ノ時々分割スルモノトス

三 從來一筆中ノ一部分ニ對シ分割セシテ荒地免租年期又ハ繼年期等ヲ付與シ置キタルモノハ年期明ニ至リ免租繼年期又ハ低價年期ヲ申請スル場合ニ於テ分割スルモノトス

四 地番 一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シタルトキハ當初一筆タリシトキノ番號ニ一、二、三、四等ノ符號ヲ付シテ各筆ノ番號ト爲スモノトス但シ本番ニ符號アル土地ヲ分割スルトキハ其一筆ニハ從來ノ符號ヲ存シ他ノ各筆ニハ本番最終ノ符號ヲ追ヒ順次符號ヲ付スルモノトス  
宅地ニシテ戶籍番號等ノ關係上元番ニ符號ヲ付スルヲ不便トスル場合ハ元番ヲ其ノ儘トシ其ノ他ニ

ノミ前項ニ準シ符號ヲ付スルモ妨ナシ

從來ノ地番ニシテ第一項ニ反スル符號ヲ付シアルモノハ爾後異動ノ時々之ヲ更正スルモノトス

五 反別 分割地ノ反別ハ其一方(三筆以上ニ分ツトキハ一筆ノミヲ殘シ其ノ他ノ各筆)ヲ丈量シ之ヲ臺帳反別ヨリ控除シ其ノ殘額ヲ一方ノ反別トスルモノトス但シ特殊ノ場合ニ於テ分割地ノ双方ヲ丈量シタル結果臺帳反別ト些少ノ差ヲ生シタルトキハ分割増減トシテ整理スルコトヲ得

六 地價 分割地ノ地價ヲ定ムルニハ(一)分割地各筆ノ地位同一ナルモノハ各筆ノ反別ニ元地價ヲ乘シ總反別(分割各筆ノ反別ヲ合セタルモノ、普通ノ場合ハ臺帳反別ニ同シ)ヲ以テ之ヲ除シ其ノ土地ノ地價トス(二)各筆ノ地位ニ優劣アルモノハ各其ノ地位ニ應シ相當ニ分配スルモノトス(三)畦畔石塚等所得ヲ生セサル部分ヲ有スル土地ハ其ノ面積ヲ控除シタル面積ニ應シテ分配スルモノトス

右何レノ場合ニ於テモ算出一錢未滿ノ端數ハ各筆毎ニ厘位ヲ四捨五入シテ錢位ニ止メ地價ニ對スル差額ハ適宜分配シ増減差ヲ生セサル様計算スルモノトス但シ一筆ノ總地價一錢未滿ナルトキハ何レモ切上ケ一錢ト爲スヘキモノナルヲ以テ此ノ場合ニ於テハ元地價ヨリ増加スルモノトス

(一)庫出  
(納金端  
數計算法第  
一條第二條)

七 等級 分割シタル各筆ノ地位ニ優劣アリテ其ノ地價ヲ相當分配シタル結果從前ノ等級ニ適應セサルニ至リタル場合ハ等級ヲ附セサルモノトス

八 届

土地ヲ分割セントスルトキハ土地所有者ヨリ稅務署長ニ届出ツルモノトス(地租條例施行規  
則第十四條)

四 土地合併

一 接續地ニシテ同一人ノ所有ニ係リ別筆ト爲シ置クノ必要ナキモノハ成ル可ク合併シテ一筆トスルヲ便宜トス

二 各種ノ年期ヲ有スル土地ト年期ヲ有セサル土地又ハ年期ノ同一ナラサル土地ハ合併スルコトヲ得ス

三 地番 數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ合併前ノ地番中首位ニアルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲スモノトス但シ宅地ニシテ戶籍番號等ノ關係上之ヲ不便トスル場合ハ合併前ノ番號中便宜ノモノヲ合併地ノ地番ト爲スコトヲ得

前項首位ノ地番ニシテ從來一、二、三、四等ノ符號以外ノ符號ヲ有シアルトキハ之ヲ更正スルモノトス

四 反別 反別ハ丈量ヲ爲サスシテ合併前各筆ノ反別ヲ合計シ之ヲ合併地ノ反別ト爲スモノトス

五 地價 數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ各筆ノ地價ヲ合計シテ其ノ土地ノ地價ト爲スモノトス

六 等級 等級ノ異ナル土地ヲ合併シタルトキハ合併前ノ各等級ヲ併記シ置クモノトス

七 届 土地ヲ合併セントスルトキハ土地所有者ヨリ稅務署長ニ届出ツルモノトス(地租條例施行規  
則第十四條)

五 地目、地類變換

一 第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變換スルモノヲ地目變換ト謂ヒ第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ(地租條例第三條  
第二項、第三項)

二 地租 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ地價ヲ修正ス但シ地價據置年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス(地租條例第十條  
第二項)

三 地租 地價修正ヲ爲シタルトキハ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル舊地目ニ對スル地租第一期納期開始後地價修正ヲ爲シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(地租條例第十條)

四 届 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツルモノトス荒地免租年期及低價年期以外ノ年期アル土地ヲ變換シタルトキ亦同シ(地租條例施行  
規則第十三條) 但シ森林法其ノ他ニ依リ許可ヲ受クヘキモノニ付テハ許可ノ出願ヲ以テ届出ト看做サル、ヲ以テ更ニ届出ツルニ及ハサルモノトス(地租條例施行規  
則第十條)

六 地目變換地價據置年期

一 地目ヲ變換シタルトキハ直ニ地價ヲ修正スヘキモノナルモ變換ノ爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル

モノハ一定ノ年期間地價ヲ据置キ年満了ノ際地價ヲ修正スルモノトス之ヲ地價据置年期中ト謂フ  
(地租條例第十) (六條第六項)

- 二 年期中 地價据置年期中ハ其ノ狀況ニ應シ三十年以内トス(同上)
- 三 年期中 地價据置年期中明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ前後通シテ五十年ニ達スルマテ年延長ノ許可ヲ受クルコトヲ得(明治三十四年法律第三十號)
- 四 年期中ニ於テ荒地免租年期中若ハ低價年期中許可セラレタルトキハ其ノ期間ハ地價据置年期中ニ算入セス(明治三十四年法律第三十一號)
- 五 年期中進行中地味成熟シタル場合ニ於テハ稅務署長ニ申請シテ殘年期中ヲ拋棄スルコトヲ得
- 六 年期中地目變換シタルトキハ地價ヲ修正セスシテ地目ノミヲ組替フルモノトス(地租條例第十七條)
- 七 前項ニ依リ地目ヲ組替ヘタル土地ニシテ年期中ニ於テ更ニ地類變換シ又ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキ若ハ年期中ヲ拋棄シタルトキハ直ニ地價ヲ修正スルモノトス(地租條例施行規則第四條)
- 八 同上ノ地目組替地ニシテ變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セスシテ地目ノミヲ組替ヘ年期中ニ至リ地價ヲ修正スルモノトス(地租條例第十九條施行規則第五條)
- 九 年期中ハ現地價ニヨリ地租ヲ徵收スルモノトス
- 一〇 年期中地目變換シタルトキハ其ノ年分ヨリ變換地目ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係

ル舊地目ノ地租第一期納期開始後ニ届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ變換地目ニ依リ地租ヲ徵收スルモノトス(地租條例第十) (七條第一項)

- 一 前項變換地目ニ依リ徵收スヘキ場合ニ於テ新舊地目ノ稅率カ同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ新地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ新地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ徵收スルニ至ルマテ其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收スルモノトス(地租條例第十七條第二項施行規則第五條第二項)
- 二 地價修正ヲ爲シタルトキハ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル舊地目(地目ヲ組替タルモノハ其ノ地目)ニ對スル地租第一期納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(地租條例第十四條)
- 三 申請 地價据置年期中及其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスルモノハ稅務署長ニ申請スルモノトス但シ年延長ニ付テハ年満了後六十日以内ニ申請スルコトヲ要ス(地租條例施行規則第十二條)

七 開 墾

- 一 第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ(地租條例第三條第四項)
- 二 開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ至リ地價ヲ修正ス(開墾着手後十年目マテノ期間ハ年期中ト云フニテ開墾下年期中ト區分セリ)(地租條例第十) (六條第二項)
- 三 十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サムトスルトキハ墾下年期中ノ許可ヲ受クヘシ墾下年期中

ハ其ノ狀況ニ應シテ三十年以内トス(同第十六條第三項)

四 年期 延長 年 期 延 長 ノ 許 可 ヲ 受 ク ル コ ト ヲ 得 (明治三十四年法律第三十號)

五 年期 停止 普 通 開 墾 年 期 又 ハ 墾 下 年 期 中 ノ 土 地 ニ シ テ 荒 地 免 租 年 期 又 ハ 低 價 年 期 ヲ 許 可 セ ラ レ タ ル ト キ ハ 其 ノ 期 間 ハ 開 墾 年 期 中 ニ 算 入 セ ス (明治三十四年法律第三十一號)

六 年期 拋棄 墾 下 年 期 中 地 味 成 熟 シ タ ル 場 合 ニ 於 テ ハ 稅 務 署 長 ニ 申 請 シ 殘 年 期 ヲ 拋 棄 ス ル コ ト ヲ 得

七 年期 取消 普 通 開 墾 年 期 中 又 ハ 墾 下 年 期 中 ニ 於 テ 地 目 變 換 シ タ ル ト キ ハ 開 墾 ハ 廢 止 シ タ ル モ ノ ト ス (地租條例施行規則第三條)

八 地目 普 通 開 墾 年 期 中 又 ハ 墾 下 年 期 中 ニ 於 テ 開 墾 成 功 シ タ ル ト キ ハ 地 價 ヲ 修 正 セ ス シ テ 地 目 ノ ミ ヲ 組 替 フ ル モ ノ ト ス (地租條例第十七條)

九 地目 前 項 ニ 依 リ 地 目 ヲ 組 替 ヘ タ ル 土 地 ヲ 更 ニ 地 目 變 換 シ タ ル ト キ ハ 地 價 ヲ 修 正 セ ス シ テ 地 目 ノ ミ ヲ 組 替 フ ル モ ノ ト ス (地租條例施行規則第五條)

一〇 地價 普 通 開 墾 ハ 開 墾 着 手 ノ 年 ヨ リ 十 年 目 ニ 至 リ 其 ノ 成 功 ノ 部 分 ニ 對 シ テ 地 價 ヲ 修 正 シ 十 年 目 ニ 成 功 セ サ ル 部 分 ハ 其 ノ 後 成 功 ノ 部 分 アル 毎 ニ 地 價 ヲ 修 正 ス ル モ ノ ト ス (地租條例第十六條第二項施行規則第八條)

一一 地價 地 類 變 換 後 五 年 以 内 ニ 開 墾 シ タ ル モ ノ ニ 在 リ テ ハ 其 ノ 成 功 ノ 部 分 ニ 對 シ 直 ニ 其 ノ 地 價 ヲ 修 正 ス ル モ ノ ト ス (地租條例第十六條第二項但書)

一二 地價 開 墾 墾 下 年 期 地 ハ 年 期 明 ノ ト キ 地 價 ヲ 修 正 シ 若 年 期 ヲ 拋 棄 シ タ ル ト キ ハ 直 ニ 地 價 ヲ 修 正 ス 但 シ 開 墾 着 手 後 未 タ 十 年 ニ 達 セ サ ル モ ノ ヲ 拋 棄 シ タ ル ト キ ハ 普 通 開 墾 ノ 取 扱 ヲ 爲 シ 十 年 目 ニ 於 テ 地 價 ヲ 修 正 ス ル モ ノ ト ス (地租條例第十九條)

一三 地價 普 通 開 墾 年 期 中 又 ハ 開 墾 墾 下 年 期 中 ニ 於 テ 開 墾 成 功 シ タ ル 地 目 ヲ 組 替 ヘ タ ル 土 地 ニ シ テ 其 ノ 年 期 滿 了 前 地 類 變 換 シ タ ル ト キ ハ 直 ニ 其 ノ 地 價 ヲ 修 正 ス (地租條例施行規則第四條)

一四 地租 開 墾 年 期 中 ハ 現 地 價 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス (地租條例第十六條第三項但書)

一五 地租 普 通 開 墾 年 期 中 又 ハ 墾 下 年 期 中 ニ 於 テ 成 功 シ タ ル 土 地 及 其 ノ 成 功 シ タ ル 後 ニ 於 テ 更 ニ 地 目 變 換 シ タ ル 土 地 ニ 付 テ ハ 其 ノ 年 分 ヨ リ 新 地 目 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス 但 シ 其 ノ 年 ニ 係 ル 舊 地 目 ニ 對 ス

ル 地 租 第 一 期 納 期 開 始 後 届 出 ア リ タ ル ト キ ハ 翌 年 分 地 租 ヨ リ 新 地 目 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス (地租條例第十七條第一項)

一六 地租 前 項 ニ 依 リ 組 替 地 目 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス ヘ キ 場 合 ニ 於 テ 新 舊 地 目 ノ 稅 率 カ 同 ナ ラ サ ル ト キ ハ 舊 地 目 ニ 對 ス ル 地 租 額 ヲ 新 地 目 ノ 稅 率 ヲ 以 テ 除 シ テ 新 地 目 ニ 對 ス ル 地 價 ト シ 修 正 地 價 ニ 依

リ 地 租 ヲ 徵 收 ス ル ニ 至 ル 迄 其 ノ 地 價 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス (地租條例第十七條第二項施行規則第五條第二項)

一七 地租 地 價 修 正 ヲ 爲 シ タ ル ト キ ハ 其 ノ 年 分 ヨ リ 修 正 地 價 ニ 依 リ 地 租 ヲ 徵 收 ス 但 シ 其 ノ 年 ニ 係 ル



舊地目(地目)ヲ組替タルモノハ其ノ地目ニ對スル地租第一期納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(地租條例第十四條)

一八 申請 開墾下年期及其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スルモノトス但シ年期延長ニ付テハ年期滿了後六十日以内ニ申請スルコトヲ要ス(地租條例施行規則第十二條)

一九 届 左記ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツルモノトス(地租條例施行規則第十三條)

(一) 開墾ニ著手シタルトキ但シ森林法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ届出ヲ要セス(地租條例施行規則第十條)

(二) 開墾成功シタルトキ但シ年期中ニ於ケル成功及成功ノ部分アル毎ニ其ノ時々地價修正ヲ爲スヘキ土地ノ成功ヲ含ム

(三) 開墾ヲ廢止シタルトキ

(四) 開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

二〇 無届開墾 著手ノトキ届出ヲ爲サスシテ開墾成功シタルモノハ直ニ地價ヲ修正シ發見ノ日ヨリ三年間溯リ地租増差額ヲ追徵セラル、モノトス

八 開 拓 地

一 官有地ヲ開拓シ之ヲ拂下民有ニ歸セシ土地ヲ開拓地ト謂フ(地租條例第十條第四項)

二 年期 開拓地ニハ地味成熟マテノ期間ヲ見積リ十年以内ノ歳下年期ヲ付與セラル年期明ニ至リ尙地味成熟ニ至ラサルトキハ前後通シテ三十年ニ達スルマテ年期延長ノ許可ヲ受クルコトヲ得(同上及十四年法律第三十號)

三 年期停止 年期中荒地免租年期又ハ低價年期ヲ許可セラレタルトキハ其ノ期間ハ歳下年期中ニ算入セス(明治三十四年法律第三十一號)

四 年期拋棄 年期中事業成功又ハ地味成熟シタル場合ニ於テハ稅務署長ニ申請シ殘年期ヲ拋棄スルコトヲ得

五 地番 開拓地ノ地番ハ有租地成ノ例ニ準シテ定ムルモノトス

六 地目 地目ハ開拓セル第一類地ノ地目ヲ付スルモノトス

七 地目 年期中ニ地目變換シタルトキハ地價ハ修正セスシテ地目ノミヲ組替フルモノトス(地租條例第五條第一項)

八 地價 開拓地ハ其ノ開拓前ノ土地ニ相當ノ地價ヲ設定シ置キ年期明ニ至リ更ニ其ノ地價ヲ修正スルモノトス(地租條例第十六條第四項第十九條)

九 地價 年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキ又ハ年期ヲ拋棄シタルトキハ直ニ地價ヲ修正ス(地租條例施行規則第四條)

一〇 地價 開拓地ニシテ鐵下年期ヲ請ハサルトキハ現地目ニ依リ直ニ地價ヲ設定スルモノトス (同條六)

一一 地租 開拓年期中ハ開拓前ノ土地ニ相當ト認メ設定シタル地價ニ依リ地租ヲ徵收スルモノトス

一二 地租 年期中地目變換シタルトキハ其ノ年分ヨリ變換地目ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ舊地目ニ對スル其ノ年分地租第一期納期開始後届出アリタルトキハ翌年分ヨリ變換地目ニ依リ地租ヲ徵收ス (地租條例施行規則第五條第一項)

一三 地租 前項變換地目ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ新舊地目ノ稅率カ同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ新地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ新地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス (同條第二項)

一四 地租 八後段及九ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ハ其ノ年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル地租第一期ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

一五 地租 八前段及一〇ニ依リ地價ヲ設定シタル土地ハ其ノ設定後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス (地租條例第十五條第二項)

九 新 開 地

一六 申請 開拓年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後、年期延長ヲ請ハムトスル者ハ年期滿了ノ後何レモ六十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス (地租條例施行規則第十條第二項、第十二條)

一 官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シテ民有ニ歸セル土地ヲ新開地ト謂フ (地租條例第十條第五項)

二 年期 新開地ニハ事業ノ狀況ニ依リ地味成熟マテノ期間ヲ見積リ五十年以内ノ免租年期ヲ許可セラルル年期明ニ至リ尙事業成功又ハ地味成熟セサルモノハ更ニ前後通シテ七十年ニ達スルマテ年期延長ノ許可ヲ受クルコトヲ得 (同上及明治三十四年法律第三十號)

三 年期 年期中ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ期間ハ新開免租年期中ニ算入セス (明治三十四年法律第三十一號)

四 年期 年期中地味成熟シタル場合ニ於テハ稅務署長ニ申請シ殘年期ヲ拋棄スルコトヲ得

五 地價 地番ハ有租地成ノ例ニ準シテ定ムルモノトス

六 地價 新開地ハ免租年期中ハ地價ヲ定メス年期明ニ至リ又ハ年期ヲ拋棄シタルトキ地價ヲ設定スルモノトス (地租條例第十九條)

七 地價 新開地ニシテ免租年期ヲ請ハサルトキハ現況ニ依リ直ニ地價ヲ設定ス (地租條例施行規則第六條)

八 地租 地價ヲ設定シタルトキハ其ノ設定後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ納期ニ於

テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス(地租條例第十五條 第二項、第三項)

九 申請 新開免租年期ヲ請ハムトスルモノハ民有ニ歸セシ後、年期延長ヲ請ハムトスル者ハ年期滿了ノ後何レモ六十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス(地租條例施行規則第十一條 第二項、第十二條)

一〇 荒地免租年期

一 第一類地タルト第二類地タルトヲ問ハス山崩、川缺、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ其ノ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ(地租條例第三條 第五項)

二 荒地免租年期 荒地ハ其ノ被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ許可ス(地租條例第二項 第十條第一項)

海嘯ノ爲メ潮水浸人シ作土ヲ損害シタルモノハ其ノ狀況ニ依リ之ニ準シ年期ヲ許可スルコトアルモノトス(同條 第二項)

三 再荒 荒地ニシテ免租年期中再ヒ荒地トナリタル土地ノ取扱ハ新ニ荒地トナリタルモノニ同シ再荒ノ爲メ免租年期ヲ許可セラレタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス(地租條例施行規則 第九條)

四 復舊 荒地免租年期明ニ至リタルトキハ原地價ニ復ス但改租以前ノ荒地ニシテ無地價ノ土地ハ年期明ノトキ地價ヲ設定ス(地租條例第二十條 第一項)

五 繼年期 荒地免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ定ム之ヲ荒地免租繼年期ト謂フ繼年期明ニ至リタルトキノ處分ハ前項ニ同シ(地租條例 第二十三條)

六 繼年期 (川海、湖水成) 前項ノ繼年期ハ川成、海成、湖水成ノ荒地ニ付テハ二十年以内トス其ノ年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニモ變セサルモノハ川、海、湖即チ官地ニ歸スルモノトス(地租條例 第二十四條)

七 低價 荒地免租年期明又ハ繼年期明ニ至リ元地價ニ復シ難キモノハ十五年以内ノ期間ニ於テ其ノ狀況ニ依リ地價七割以下ヲ低減スルコトヲ得之ヲ低價年期地ト謂フ低價年期明ニ至リタルトキハ原地價ニ復ス但シ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ狀況ニ依リ地價ヲ修正ス(地租條例第二十一條 乃至第二十三條)

八 變換 荒地免租年期、同繼年期又ハ低價年期中ニ於テ土地ノ形狀ヲ變更シ原地目ト異ナル土地トナルモ變換又ハ開墾ト看做サス年期明ニ至リ其ノ地目ニ對シ現況ニ依リ地價ヲ修正ス之ヲ變換起返ト謂フ(地租條例 第二十二條)

九 拋棄 荒地免租年期、同繼年期及低價年期中復舊シタル場合ニ於テハ稅務署長ニ申請シテ殘年期ヲ拋棄スルコトヲ得

一〇 地租 荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ稅務署ニ於テ申請ヲ收受シタル後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ免除ス(地租條例第十五條 第一項、第三項)

一一 地租 荒地免租年期明復舊ノ土地ハ其ノ年分ヨリ地租ヲ徵收シ年期拋棄ニ係ル復舊ノ土地ハ年期拋棄以後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但年期拋棄以後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス(地租條例第十五條 第二項、第三項)

一二 地租 荒地免租年期明又ハ同繼年期明ニ至リ變換起返ノ爲メ地價修正シタルモノ及改租以前ノ荒地ニシテ年期明ニ至リ地價ヲ設定シタルモノハ地價設定又ハ修正ノ後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス(地租條例第十五條(第二項、第三項))

一三 地租 低價年期ヲ許可シタルトキハ稅務署ニ於テ申請ヲ收受シタル後ニ開始スル納期分ヨリ地租ヲ徵收ス但シ其ノ納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス(同上)

一四 地租 低價年期明ニ依リ地價修正ヲ爲シタルモノハ其ノ年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル地租第一期納期開始後地價修正ヲ爲シタルモノハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(地租條例第十四條)

一五 申請 荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スルモノトス申請ニ付テハ別ニ期間ナキモ地租ハ申請書收受ノ時ヨリ免除セラル、モノナルヲ以テ被害後可成速ニ申請スルヲ利益トス(地租條例施行規則第十一條)

一六 申請 荒地免租繼年期又ハ低價年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス(同條第十二條)

一七 届 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ六十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘシ(同條第十五條)

- (一) 荒地免租年期明、同繼年期明、又ハ低價年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ
- (二) 荒地免租繼年期明ニ至リ川、海、湖ニ歸シタルトキ
- (三) 低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

一一 造林地及砂防地

一 森林法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付キ新ニ造林シタルトキ若ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタルトキハ其造林シタル部分ニ限り地租ノ免除ヲ受クルコトヲ得(森林法第十二條)

二 造林地免租年期ハ三十年以内ニシテ造林ノ難易、植栽樹種、地味ノ良否、交通ノ便否等ヲ斟酌シテ概畧左ノ標準ニ依ルモノトス(森林法第十二條及明治四十一年農商務省訓令第四號)

- (一) 喬林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十五ク年以上三十ク年以内
  - (二) 中林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十ク年以上二十ク年以内
  - (三) 矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十ク年以内
  - (四) 前各號ノ外利用ヲ目的トセサル植樹ニアリテハ三十ク年以内
- 三 造林地免租年期
- (一) 一林種中ニ在リテハ樹種別ニ年期ヲ異ニセサルコト

- (二) 林種ヲ異ニシ林種別ニ年期ヲ異ナラシムル必要アル場合ハ年期ノ異ナル毎ニ分筆スルコト但シ林種別ニ年期區分ヲ必要トセサルトキハ林種毎ニ算出シテ之ヲ平均シタル年期ト爲スコト
- 四 土地臺帳ノ地目カ田畑又ハ宅地ナルモ森林法施行以前ヨリ荒蕪地ニ委セラレタルカ或ハ原野ノ状態ヲ爲セシ土地ニ造林地免租年期ヲ許可スル場合ハ第二類地ニ地類變換ヲ爲スモノトス
- 五 地租 造林地免租年期ヲ許可シタルトキハ稅務署ニ於テ申請ヲ收受シタル以後ノ納期分ヨリ地租ヲ免除ス
- 六 申請 造林地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スルモノトス(明治四十一年大藏省令第一號)
- 七 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル土地ニ對シテハ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケルコトヲ得(砂防法第十一條及明治三十二年勅令第三七四號第一條)
- 八 免租期間 砂防法ニ依ル地租免除又ハ輕減ノ期間ハ免除又ハ輕減ノ申請ヲ稅務署ニ於テ收受シタル日以後ニ開始スヘキ納期分ヨリ免除ニ付テハ一定ノ行爲ノ禁止又ハ制限解除ニ因リ地價設定シタル日輕減ニ付テハ一定ノ行爲又ハ制限解除ノ日以前ニ開始シタル納期分マテトス(明治三十二年勅令第三七四號第三條)
- 九 申請 砂防法ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケムトスルモノハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス(明治三十二年勅令第三七四號第四條)

一一一 誤謬訂正

- 一 土地臺帳又ハ地圖ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シ之ヲ訂正セムトスルトキハ證據ヲ添ヘ稅務署長ニ申請シテ許可ヲ受ケルモノトス  
證據トナルヘキモノ左ノ如シ
  - (一) 公證又ハ登記ヲ經タルモノニ係ルトキハ其ノ書類
  - (二) 公證又ハ登記ヲ經サルモノナルトキハ戶籍謄本又ハ抄本(氏名又ハ住所ノ誤謬ニ關シ)
  - (三) 其ノ他誤謬ノ事實ヲ確認シ得ヘキ書類
- 二 反別ニ於テハ丈量上ノ差ヲ生スルハ已ムヲ得サルコトナルヲ以テ臺帳面ト僅少ノ差ニ過キサレモノハ誤謬ト認メ難キニ依リ特別ノ事情アルモノ、外概畧左ノ標準以上ノモノニ就テノミ訂正ノ手續ヲ爲サシムルモノトス
  - 宅地、鑛泉地 百分ノ五
  - 其他ノ第一類地 百分ノ十
  - 第二類地 百分ノ二十
- 三 反別訂正ヲ申請スルトキハ隣地各地主ニ於テ境界ニ付キ異議ナキコトノ證明ヲ要スルモノトス
- 四 地圖ノ誤謬ニシテ境界線ニ關係アルモノハ關係地主連署申請シ若御料地國有地等ナルトキハ主管廳ノ證明ヲ要ス

五 反別誤謬ノ訂正ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ土地ノ地價額カ反別ノ比例ヲ以テ算出シタルモノナルトキハ地價モ之ニ伴ヒ誤謬トナリタルモノナルヲ以テ同時ニ其ノ地價ヲ更正スルモノトス

一三 土地臺帳面住所氏名ノ異動

一 土地臺帳記載ノ所有者、質取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ時々之ヲ稅務署長ニ届出ツルモノトス(土地臺帳施行規則 第二條)

一四 耕地整理

一 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ着手スル以前ニ現形圖ヲ添ヘ左記ノ事項ヲ稅務署長ニ申告スルモノトス其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ(耕地整理法施行規則 第十條)

(一) 整理施行地ノ屬スル郡、市町村並土地各筆ノ字、番號及水面ノ位置、面積

(二) 整理施行若ハ整理組合設立又ハ整理施行地區變更認可ノ年月日

(三) 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及面積ノ地目別合計ノ豫定

(四) 耕地整理法第十五條第一號第二號ノ土地アルトキハ耕地整理法施行規則第五條ニ依リ定メタル假地價

(五) 工事ノ着手及完了ノ豫定時期

二 耕地整理地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前項ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スモ

ノトス(同第十條ノ二)

三 工事ニ着手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ届出ツルモノトス(同第十條)

四 整理地區内ノ民有土地總面積(民有ノ第一、二類地ノ合計面積)ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付開墾又ハ地目變換(開墾ノ五分ノ一又ハ地目變換ノ五分ノ一)シタル場合ニ於テハ開墾シタル土地ニ付テハ工事着手ノ年ヨリ二十年以上三十年以内變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年ノ耕地整理地價据置年期ヲ許可セラル又開墾シタル土地ニシテ年期明ニ至リ工事完了又ハ地味成熟セサルトキハ更ニ工事完了迄又ハ二十年以内ノ年期延長ヲ許可セラルヘシ(耕地整理法 第十四條)

五 前項ノ場合ニ於テ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル地目變換ハ開墾ト同一ノ取扱ヲ受クモノトス(同上)

六 耕地整理ノ施行ニ依リ其ノ地區内ニ於ケル國有ノ森林、原野若ハ荒蕪地ヲ開拓シテ第一類地ト爲シタルトキ又ハ國有ノ水面ヲ埋立又ハ干拓シテ民有地ト爲シタルトキハ埋立地又ハ干拓地ニ付テハ五十年以内、其ノ他ノ土地ニ付テハ十年以内ノ耕地整理新開免租年期ヲ許可セラル又年期明ニ至リ地味成熟セサルトキハ更ニ二十年以内ノ年期延長ノ許可ヲ受クルコトヲ得(同第十四條ノ二)

七 耕地整理地價据置年期又ハ耕地整理新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス此ノ場合ニ於テハ整理施行者ハ代リテ其ノ申請

ヲ爲スコトヲ得(施行規則第  
十五條ノ二)

八 前項年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スルモノトス  
(同上)

九 整理施行地ノ地租ハ其ノ整理地區ノ全部ニ付キ土地臺帳ノ整理ヲ了ルマテ從前ノ地域、地目及  
地價ニ依リ之ヲ徵收ス(耕地整理法第  
十三條第四項)

一〇 換地處分ニ關スル認可ノ告示アリタルトキハ整理施行者ハ地價配當案ニ地方長官ノ認可書謄本、  
換地説明書及整理確定圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クルモノトス地價ノ配賦方  
法ハ耕地整理法ノ定ムル所複雜ニシテ簡單ニ説明シ難キモ例ヲ以テ之ヲ示セハ左ノ如シ(施行規則)  
(第一表) 一 整理施行前ノ地目、面積、地價、地租、筆數

地目	面積	地價	地租	筆數
田	1,500	450,000	27,000	10
畑	1,000	150,000	5,000	10
宅地	5,000	110,000	5,000	5
山林	3,000	15,000	0,800	3

合計	國道		合計	合計	合計	合計
	道	路				
31,000	1,000	1,000	31,000	801,500	31,000	36
3,000	1,000	1,000	3,000	1	1	1
36,000			36,000	801,500	31,000	36

備考

- 一 整理法第十四條第一項該當ノ土地ハ修正地價ト原地價總額トノ差額ノ平均額ヲ五分ノ一ヲ超  
過スル面積ニ乗シタル額ヲ原地價總額ニ加ハタルモノニ依リ同法第十五條第一、第二號ノ該  
當地ハ修正額ニ依リ掲上スルモノトス但シ第十四條第一項ノ場合ニ於テ成功地目ノ稅率ニ差  
違アルトキハ地租ノ平均額ヲ現在地租額ニ加算スルモノトス
- 二 整理法第十四條第四項ノ土地ヲ算入シ同法第十四條ノ二該當地ヲ除外スルモノトス
- 三 宅地々價修正第二十條ニ依リ地價ノ修正ヲ爲サ、ルモノハ同法第二十二條第一項第二號ニ依  
リ更正シタル地價ニ依ルモノトス但シ舊整理法ニ依ルモノニシテ組合ニ變更セサルモノハ同  
條ノ更正地價ヲ以テセス原地價ニ依ルモノトス

- 四 整理法第十三條第一項ニヨリ配賦スヘキ場合ハ地租ノ調理ヲ要セス以下各表亦同シ同條第二項ニ依リ配賦スヘキ場合ハ第四、五、六、七表ノ地價ノ調理ヲ要セス
- 五 地租ハ租率ヲ同ウスル土地ノ現地價合計額ニ依リ算出スルモノトス  
(國庫出納金端數計算法適用以下第四、五、六表ノ租額算出ノ場合)
- 六 畦畔ハ内外書トモ便宜上ナキモノトシテ例示セリ以下皆同シ
- 二 整理施行後ノ地目、面積、筆數

地目	面積	積	筆數
田	二五〇〇〇		二五
畑	八〇〇〇		八
宅地	三〇〇〇		五
計	三六〇〇〇		三六
國道	三〇〇〇		一
溝渠	二〇〇〇		一
地計	五〇〇〇		一

合計 21,000 三六

三 整理施行前後ニ於ケル耕地整理法第十一條第一項第二項ノ土地比較

施行前ニ於ケル面積合計	施行後ニ於ケケ面積合計	差引増面積
11,000	5,000	11,000

四 整理法第十三條但書ニ依ル整理施行地ノ現地價ノ平均額

施行後ノ民有面積	現地價合計	現地租合計	地一反歩當
3,800	81,500	33,080	21,090
			840

備考

- 一 工事完了當時ニ於ケル民有地積(法第十一條第一項ノ土地ヲ包含ス)ニ法第十一條第二項ニ該當スル土地ノ面積ヲ加ヘ同條第一項ニ該當スル土地ノ面積ヲ控除シタルモノヲ掲クルモノトス
- 二 法第十三條第二項ニ依リ地租ヲ以テ配賦スル場合ハ第一項ニ準シ現地價ニ依リ算出シタル地租額ヨリ其ノ平均額ヲ面積ノ差額ニ乗シタル額ヲ控除シ配賦地租ノ合計額ヲ定ムルモノトス



五 整理法第十一條ノ土地ノ差引増加面積ニ對スル地價地租

三〇

増加面積	反歩		地租	地價	地價地租
	地	價			
1000	21,090	840	42,180	1,680	

六 整理法第十三條第一項但書ノ平均地價、地租ヲ控除シタル配賦スヘキ地價地租

地	價	地	租
	79,310		110,800

七 毎筆ニ現地價ヲ按分シテ配賦スヘキモノナルモ配賦率ヲ求メ之ニ依リ地價配賦ヲ爲スヲ便宜トス

八 換地毎年ニ對シ前項ノ配賦率ヲ適用シ地價ヲ算出スルモノトス  
一 反歩當配賦率ヲ以テ地價ヲ算出スレハ左ノ如シ

字	地番	地目	等位	面積	評定價格	地價配賦ノ例	地租配賦ノ例	備考
何々	一	田	一	100	180,000	4,710	1,710	38,000
	二	田	一	700	1,050,000	24,910	999	22,170

三	田	一	1500	255,000	53,390	22,380	47,510	
四	田	一	500	75,000	17,800	733	15,840	
五	田	一	1100	165,000	39,150	1,568	34,840	
六	宅地	一	600	60,000	14,140	570	22,800	
七	宅地	一	400	40,000	9,490	380	15,100	
八	畑	一	500	40,000	9,490	380	8,440	
九	畑	一	1000	80,000	18,980	760	16,880	
一〇	畑	一	1500	120,000	28,470	1,140	25,330	
一一	田	二	700	70,000	16,610	665	14,770	
一二	田	二	800	80,000	18,980	760	16,880	
一三	田	二	800	80,000	18,980	760	16,880	
一四	田	二	1200	120,000	28,480	1,140	25,330	
一五	田	二	1500	150,000	35,600	1,425	31,660	

三一

二六	二七	二六	二五	二四	二三	三三	三二	三〇	一九	一八	一七	一六
田	田	田	田	田	田	田	田	田	畑	畑	畑	田
三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二
一〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇	八〇〇	一三〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一三〇〇	九〇〇	一三〇〇	八〇〇	一〇〇〇
一四〇,〇〇〇	八四,〇〇〇	三五,〇〇〇	五六,〇〇〇	九一,〇〇〇	七七,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	六五,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
三三,三三〇	一九,九三〇	八,三三〇	一三,二九〇	二一,五九〇	一八,二七〇	三五,六〇〇	二八,四八〇	三〇,八五〇	一〇,六七〇	一五,四二〇	九,四九〇	三三,七三〇
一,三三〇	七九八	三三三	五三三	八六五	七三三	一,四二五	一,一四〇	一,二三五	四二八	六一八	三八〇	九五〇
二九,五五〇	一七,七三〇	七,四〇〇	一一,八二〇	一九,三二〇	一六,二六〇	三一,六六〇	二五,三三〇	二七,四四〇	九五二〇	一三,七三〇	八,四四〇	二二,一一〇

二九	三〇	三三	三三	三三	三四	三五	三六	三七	三六	計
田	田	田	田	田	畑	畑	宅地	宅地	宅地	
三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	
一〇〇〇	五〇〇	八〇〇	四〇〇	四〇〇	八〇〇	一〇〇	一〇〇	七〇〇	三〇〇	三六,〇〇〇
七〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	五六,〇〇〇	二八,〇〇〇	二八,〇〇〇	四〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	八八,〇〇〇	五六,〇〇〇	二四,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇
一六,六一〇	八,三三〇	一三,二九〇	六,六四〇	六,六四〇	九,四九〇	一四,二三〇	一八,九八〇	一三,二九〇	五,六九〇	七五九,三〇〇
六六五	三三三	五三三	二六六	二六六	三八〇	五七〇	七六〇	五三三	二二八	三〇,四〇五
一四,七七〇	七,四〇〇	一一,八二〇	六,〇一〇	六,〇一〇	八,四四〇	一一,六六〇	三〇,四〇〇	二二,二八〇	九,二一〇	七一九,六六〇
										地價ニ減差地租ノ増 果チ生シタルハ算出ノ結 考ニ依リ處理スヘシ

備考  
一 地價ヲ各筆ニ配賦スルトキハ厘位ヲ四拾五入シテ錢位ニ止ムルモノトス但シ算出上ノ差額ハ

- 適宜ノ土地ニ於テ加減シ配賦スヘキ地價總額ト一致セシムルコトヲ要ス
- 二 地租ヲ各筆ニ配賦スルトキハ毛位ヲ四捨五入シテ厘位ニ止ムルモノトス但シ算出上ノ差額ハ適宜ノ土地ニ於テ加減シ配賦スヘキ地租總額ト一致セシムルコトヲ要ス
- 三 配賦地租ニ依リ算出シタル各筆ノ換算地價ハ國庫出納金端數計算法ヲ適用シ其ノ地價ニ依リ算出シタル租額ト配賦シタル租額ト符合セサルモ強テ換算地價ヲ加減シテ一致セシムルニ及ハス
- 四 一筆地中畦畔等ノ所得ヲ生セサル土地ヲ包含スルトキハ其ノ部分ニ對シテハ特ニ地價ヲ見積リ加算セラレタル結果ヲ生セサル方法ニ依ルモノトス此ノ場合ニ於テ地價ヲ見積ラサル無所得地ノ名稱反別ハ面積ノ下欄ニ一欄ヲ設クルカ若ハ面積欄ノ左側ニ内書スルモノトス

(一) 一反步當配賦率算出方法

地目	等位	面積	評定價格		一反步當配賦率
			一反步當	價格	
田	一	5000	150,000	750,000	35,590
田	二	1,000	100,000	1,000,000	23,730
田	三	1,000	70,000	700,000	16,210
畑	一	3000	80,000	240,000	18,980
計		33000		3,100,000	

地目	等位	面積	評定價格		一反步當配賦率
			一反步當	價格	
畑	二	5000	50,000	250,000	11,860
宅地	一	1000	100,000	100,000	23,730
宅地	二	2000	80,000	160,000	18,980
計		33000		3,100,000	

備考

- 一 配賦スヘキ總地價又ハ總地租ニ各地目等位毎ノ換地一反步當ノ評定價格ヲ乘シ換地ノ評定總價格ヲ以テ之ヲ除シ一反步當ノ配賦率ヲ算出スルモノトス
- 二 地價ハ厘位ヲ四捨五入シテ錢位ニ地租ハ毛位ヲ四捨五入シテ厘位ニ止ムルモノトス
- (二) 評定價格十圓當配賦率算出方法  
換地ノ評定總價格ヲ以テ配賦スヘキ總地價又ハ總地租ヲ除シ評定價格十圓當配賦率ヲ算出スルモノトス

一 地價配賦ヲ了シタルトキハ其地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナレトモ耕地整理法第十四條及第十五條ノ開墾、變換其他地租ノ免除又ハ輕減ニ關スル各種ノ年期ヲ有スル土地ニシテ工事完了ノトキニ於テ尙年期ヲ經過セサルモノアルトキハ從前ノ地租ト修正地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ

地租ノ免除ヲ受クヘキモノナルヲ以テ事業關係者ハ協議ノ上其ノ利益、負擔又ハ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ協議一致シタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ地價配賦ヲ受ケタル後遲滞ナク稅務署長ニ届出ツルモノトス但シ協議一致セサルトキハ稅務署長ニ於テ決定スルモノナルヲ以テ協議一致セサルコトヲ證スル書面ヲ添付シテ其ノ旨届出ツヘキモノトス利益又ハ負擔ヲ受クヘキ金額ノ計算例左ノ如シ(耕地整理法第十六條施行規則第十七條)

(第二表) 一 負擔又ハ利益ヲ受クヘキ金額ノ計算

種目	原		地		正		地		利益ヲ受クヘキ金額(負擔)	摘要
	地目	地價	地租	地目	地價	地租	地租			
開墾	山林	八〇	一〇	田	三三,〇〇〇	一,四〇〇	一,四〇〇	一,四〇〇	大正元年著手	
開拓	畑	八〇	一〇	畑	二二,〇〇〇	五五〇	五五〇	五五〇	大正九年マテ	
荒地免租	荒地免租	一	一	田	二九,三〇〇	一,三〇〇	一,三〇〇	一,三〇〇	大正元年ヨリ	
荒地免租	荒地免租	一	一	田	二九,三〇〇	一,三〇〇	一,三〇〇	一,三〇〇	大正七年マテ	
全	全	一六	一〇〇〇	田	二二,七〇〇	九一〇	九一〇	二〇,三〇〇	全	

備考

一 地租ハ年期ノ異ナル毎租率ヲ同フスル地價ノ合計ニ依リ算出シ國庫出納金端數計算法ヲ適用スルモノトス

二 利益(又ハ負擔)ヲ受クヘキ土地及其ノ金額ノ定メ方

摘要	字	地番	地目	反別	配賦地價	利益ヲ受クヘキ金額	同上ニ對スル地價	期間
元開墾地	何	一四	田		二八,四七〇	八九〇	一九七〇	大正九年マテ
同		二九	田		一六,六〇〇	五四〇	二,〇〇〇	全
元開拓地		三五	畑		一四,一三〇	五五〇	二,三〇〇	大正八年マテ
元荒地		二五	田		一三,二八〇	四〇〇	八,八八〇	大正七年マテ
全		一六	田		二二,七〇〇	九一〇	二〇,三〇〇	全

一 耕地整理ノ爲メニスル開墾、地目變換其他ノ區劃形狀ノ變更又ハ道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關スル届又ハ地價修正等ニ就テハ地租條例ニ於ケル普通ノ方法ヲ適用セサルモノニシテ何レモ特別ノ取扱方アルモ市町村ニ直接關係ナク且煩雜ナルヲ以テ之ヲ畧ス詳細ハ耕地整理法ヲ參照セラルヘシ

一五 災害地地租免除

一 府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其ノ年分ニ限リ之ヲ免除ス(災害地地租免除法第一條)

- 二 地目變換若ハ開墾成功ノ届出アリタル土地又ハ耕地整理工事完了シ地價配賦ノ申出アリタル土地ニシテ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ土地臺帳面ノ地目如何ニ拘ラス免除ス(同第二條)
  - 三 耕地整理地區内ノ土地ニシテ前項ニ該當スルモノ、免租額ハ左ノ方法ニ依リ計算スルモノトス(災害地租免除  
注施行方第三條)
    - イ 換地ノ全部ニ被害アリタルトキハ原地ノ現在地租全額
    - ロ 換地ノ一部ニ被害アリタルトキハ換地ノ地價ヲ被害部分ノ面積ト其ノ他ノ面積トニ按分シテ被害部分ニ相當スル地價ヲ見積リ其ノ見積地價ト換地ノ全部ニ配賦スヘキ地價トノ割合ニ依リ原地ノ現在地價ニ對シ算出シタル金額
  - 四 前各項ニ依リ免除ヲ受ケムトスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ證明シテ稅務署長ニ申請スルモノトス(同第一條)
  - 五 免除ノ申請ヲ爲ストキハ收穫皆無ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ作毛ノ存置ヲ爲スコトヲ要ス但シ豫メ稅務署長ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限リニ在ラス(同第二條)
  - 六 免除申請地ノ被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得(災害地租免除  
除法第三條)
  - 七 免除セラレタル地租ハ總テノ法律ニ於ケル納稅資格中ヨリ控除セサルモノトス(同第四條)
- 一六 其ノ他

納稅管理人

- 一 地租ノ納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ連署ヲ以テ其ノ市町村長ニ届出ツルモノトス(地租條例施行  
規則第十六條)
- 二 收稅官吏ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若ハ土地所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得(地租條例第二  
十四條ノ二)
- 三 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スルモノハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ發見ノ日ヨリ三年間溯リ其ノ地租ヲ追徵ス(同第二十五條)
- 四 地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シ之レカ届ヲ爲サ、ルモノハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ發見ノ日ヨリ三年間溯リ其ノ地租ヲ追徵ス(同第二十  
條六)
- 五 地目變換、地類變換、開墾等ノ届ヲ爲サ、ルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ且開墾ノ届ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ發見ノ日ヨリ三年間溯リ其ノ地租ヲ追徵ス(同第二  
十七條)
- 六 借地人又ハ小作人カ地租條例ニ關スル所犯アルトキハ地主ヲ罰シ若地主カ其ノ情ヲ知ラサルトキ

ハ借地人又ハ小作人ヲ罰ス但シ追徴スヘキ地租ハ所有主ヨリ之ヲ徵收ス(同第二十八條)  
七 地租條例ニ違犯シタルモノ自首スルトキハ其ノ罰金科料ヲ免ス(同第二十九條)

土地臺帳謄本

八 土地臺帳謄本ヲ請求セムトスルモノハ其ノ請求書ニ土地一筆ニ付キ手数料金五錢ノ割合ヲ以テ收入印紙ヲ貼付シ稅務署長ニ申請スルモノトス但シ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ提出シ口頭ヲ以テ請求ヲ爲スコトヲ得(土地臺帳規則第四條及施行細則第三條第一項)

九 土地臺帳謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添付スルコトヲ要ス(施行細則第三條第三項)

一〇 國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ土地臺帳謄本ヲ下付セサルモノトス(同第三條第二項)

第二節 土地ノ丈量

一 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量シテ反別又ハ坪數ヲ定ムルモノトス(地租條例第六條)  
二 段別又ハ坪數計算ノ方法左ノ如シ(同第五條)  
(一) 曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但シ宅地、鑛泉地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分ノ一ヲ勾

ト爲ス

(二) 間數ハ一間ノ十分ノ一(六寸)ヲ分ト爲シ分ノ十分ノ一(六分)ヲ厘ト爲ス而シテ測量ノ際ニ於テハ宅地、鑛泉地ハ厘未滿ヲ切捨テ厘ニ止メ其他ノ土地ニ在リテハ五厘ニ止メ五厘ニ滿タサル端數及五厘ヲ超過スル端數ハ切捨ツルノモトス

(三) 境界線ヨリ水平面ニ測量シ畦畔小逕等ノ類ハ之ヲ本地ニ量入スルモノトス  
(四) 畦畔小逕等所得ヲ生セサル部分ハ便宜ノ方法ヲ以テ長サ幅等ヲ測量シ其ノ反別ヲ計算スルモノトス

(五) 面積計算ニ際シテハ積算上宅地、鑛泉地ハ勾未滿其ノ他ノ土地ハ歩未滿ヲ切捨ツルモノトス但シ一筆ニシテ總面積步未滿ノ土地ハ勾位マテ計算スルモノトス

三 畦畔小逕等ノ類ハ之ヲ本地反別ニ量入スルモノトス土地臺帳中從來一筆ノ外書トナシアル畦畔ハ異動ノ時々本地ニ量入スルモノトス

四 土地ノ丈量ハ測板式測量方法ニ依ルヲ可トス但シ本便覽ハ事務整理ノ參考タラムコトヲ目的トスルカ故ニ測量ノ技術ニ關スル事項ハ之ヲ省略シタルモ熟練スルニアラレハ誤謬ニ陥リ易キヲ以テ能ク之ヲ研究シテ正確ヲ期スヘキモノトス

第四節 地價設定及修正

- 一 地租條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價格ヲ謂フ(地租條例第一條第三項)
- 二 從來地價ヲ有セサル土地ニ對シ新ニ地價ヲ定ムルヲ地價設定ト謂ヒ變換開墾其ノ他ニ依リ從來ノ地價ヲ變更スルモノヲ地價修正ト稱ス
- 三 地價ハ如何ナル場合ニ修正シ又ハ設定スヘキモノナルカハ各異動種目ニ於テ記載シタルヲ以テ以下地價ヲ修正シ又ハ設定スヘキ方法ヲ説明スルモノトス
- 四 地價設定又ハ修正ヲ爲サントスルトキハ近傍ニ於ケル同一地目ノ土地ニシテ其ノ土地ト狀況同ナルモノヲ選ミ之ヲ比準地トシ其ノ比準地ト同一ノ割合ヲ以テ其ノ地ノ地價ヲ算出スルモノトス(比準地ヲ得難キトキハ土地ノ所得ヲ審査シテ定ムヘキモノナレトモ茲ニハ説明ヲ省略ス)
- 五 比準地ハ左ノ各項ヲ比較シテ之ヲ選定スルモノトス
  - (一) 耕地ハ地味ノ肥瘠、耕耘ノ難易、水利運輸等ノ便否類似セルモノニシテ成ルヘク改租ノ際地價ヲ定メタルモノ
  - (二) 宅地ハ地利ノ便否、商業ノ繁閑、需給ノ關係、賃賃價格ノ類似セルモノニシテ成ルヘク宅地地價修正法第三條第一項但書ノ制限ヲ受ケサルモノ
  - (三) 其ノ他ノ土地ハ前二項ニ準シテ狀況ノ類似セルモノ
- 六 比準地ノ割合ニ依リ地價ヲ算出スル方法左ノ如シ

- (一) 比準地ノ屬スル等級ノ反(町)金(宅地ハ百坪當地價以下同ジ)ヲ其ノ土地ノ反別又ハ坪數ニ乘ス
- (二) 比準地ノ地價カ其ノ等級ノ反(町)金ヲ以テ算出シタルモノニアラサルトキハ比準地ノ地價ニ異動地ノ反別又ハ坪數ヲ乘シ比準地ノ反別又ハ坪數ヲ以テ之ヲ除ス
- (三) 前二項ニ依リ算出シタル結果壹錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ錢位ニ止ムルモノトス但シ地價ノ全額カ壹錢未滿トナルトキハ切上ケテ壹錢ト爲スモノトス
- 七 畦畔石塚等所得ヲ生セサル部分アル土地ノ地價ヲ算定スル場合ニ於テ比準スヘキ土地ノ畦畔カ地價ヲ見積リアラサルトキハ其ノ土地ノ畦畔モ地價ヲ見積ラサルモノトス

### 第五節 登錄 稅

- 一 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムルモノトス(登錄法第五條)
- 一 新規登錄 地價千分ノ二十
- 二 地價ノ設定 地價千分ノ十
- 三 地價ノ修正 地價千分ノ十
- 四 開 墾 地價千分ノ十

- 五 開墾後下年期付與 地價千分ノ十
- 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
- 七 新開免租年期延長 地價千分ノ十
- 八 墾下年期、地價据置年期ノ延長 地價千分ノ十
- 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ一
- 十 地租條例第二十二條ノ地價ノ修正 地價千分ノ一
- 十一 地價ノ復舊 地價千分ノ一

- 二 地價未設定ノ土地(官有地ヲ拂下ケ直チニ保安林トナリタルカ如キ場合)ハ近傍類地ノ地價ニ比準シテ假地價ヲ設ケ其ノ假地價ニ依リ登録稅ヲ徵收ス(同上)
  - 三 登録稅ハ申請屆書ニ印紙ヲ貼付シテ之ヲ納ムヘキモノトス但シ登録稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得(登録稅法施行規則第一條、第二條)
  - 四 土地異動書類ニ印紙ヲ貼付シテ提出セサルモノ又ハ書類ノ提出ヲ要セサルモノニ就テハ稅務署ヨリ稅額ヲ定メ相當印紙ヲ提出スヘキ旨ノ通知ヲ發シ其ノ期限迄ニ提出セサルモノニ對シテハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ徵收スルモノトス(同第四條、第五條)
- 納稅告知書ヲ發シタルモノニシテ納期マテニ納稅セサルモノハ滯納處分ヲ爲スモノトス

### 第六節 地租ニ關スル申請、屆書調理例

一 土地ニ關シ申請屆出ツヘキモノ左ノ如シ

(第一章第二節ニ記載シアル事項ヲ一覽表ト爲シ様式ノ目錄ニ代ヘタルモノナルヲ以テ詳細ハ第二節ヲ參照スルコト)

様式番號	申請、屆名	申請、屆出義務者	期	限
一	有租地成屆	土地所有者又ハ納稅義務者	有租地トナリタル時ヨリ	三十日以内
二	免租地成屆	全	免租地トナリタル時ヨリ	三十日以内
三	土地分割屆	土地所有者	分割セムトスル時々	
四	土地合併屆	全	合併セムトスル時々	
五	地目變換屆	土地所有者又ハ納稅義務者	變換シタル時ヨリ	三十日以内
五	地類變換屆	全	全	三十日以内
六	地目變換地價据置年期願	全	其時々	
七	全年期延長願	全	年期滿了後	六十日以内
八	開墾屆	全	着手シタル時ヨリ	三十日以内



九	開墾成功届	全	成功シタル時ヨリ	三十日以内
十	無届開墾成功届	全	其時々	
十一	開墾廢止届	全	廢止ノ時ヨリ	三十日以内
十二	開墾目的變更届	全	變更ノ時ヨリ	三十日以内
六	開墾鉦下年期願	全	其時々	
七	全年期延長願	全	年期滿了後	六十日以内
十三	開拓鉦下年期願	全	民有ニ歸シタル時ヨリ	六十日以内
七	全年期延長願	全	年期滿了後	六十日以内
十四	新開免租年期願	全	民有ニ歸シタル時ヨリ	六十日以内
七	全年期延長願	全	年期滿了後	六十日以内
十五	荒地免租年期願	全	其時々	
十六	再荒免租年期願	全	全上	
十七	荒地免租繼年期願	全	年期滿了後	六十日以内

十八	荒地免租年期明變換起返届	全	年期滿了後	六十日以内
十九	川、海、湖成届	全	全	六十日以内
二十	低價年期願	全	全	六十日以内
十八	低價年期明變換起返届	全	全	六十日以内
十八	原地價ニ復セサル低價年期明届	全	全	六十日以内
十五	造林地免租年期願	全	其時々	
二十一	砂防地々租免除願	全	禁止又ハ制限セラレタル時ヨリ	三十日以内
二十二	全地租輕減願	全	全	三十日以内
二十三	反別誤謬訂正願	土地所有者	其時々	
二十四	地圖誤謬訂正願	土地所有者	全上	
二十五	土地臺帳住所氏名誤謬訂正願	土地所有者又ハ納稅義務者	全上	
二十六	全異動届	全	全上	
二十七	耕地整理届	整理施行者	全上	

二十八	耕地整理工事着手 (完了)届	全	全上
六	耕地整理地價据置年期 願	土地所有者又ハ整 理施行者	工事完了ノ届出ヲ爲シタル後 三十日以内
七	耕地整理地價据置年期 延長願	土地所有者	年期滿了後
十四	耕地整理新開免租年期 願	土地所有者又ハ整 理施行者	工事完了ノ届出ヲ爲シタル後 六十日以内
七	耕地整理新開免租年期 延長願	土地所有者	年期滿了後 三十日以内
二十九	耕地整理竣功地價配賦 申請	全	六十日以内
三十	耕地整理法ニ於ケル地 租ノ利益(負擔額)届	全	全上
三十一	災害地々租免除申請	土地所有者又ハ納 稅義務者	被害現狀ノ存スル間
三十二	納稅管理入届	納稅義務者	其時々々
三十三	土地臺帳謄本下付申請	申請人申請時期等ノ制限ナシ	

二 申請届ニシテ地價ヲ修正シ又ハ設定スヘキモノナルトキハ近傍類地ニ比準シ其ノ地價ヲ見積リ尙別紙様式ノ測量圖ヲ添付スルモノトス

三 分割届ニハ別紙様式ノ地形圖ヲ添付スヘシ但シ反別ノ増減アル場合ハ測量圖ヲ添付スルモノトス

四 土地異動ニシテ登録稅ヲ要スルモノハ申請届書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スルモノトス

登録稅率ハ各様式ニ記載シアル如クニシテ算出一錢未満ノ端數ハ總テ一錢ト計算スルモノトス

五 數人共有ニ係ル土地ノ申請届ハ共有者連署スルモノトス

六 法人又ハ無能力者ノ申請届ニ在リテハ代表者又ハ法定代理人署名スルモノトス

七 社寺ノ所有ニ係ル申請届ニハ社司、住職ノ外檀家又ハ信徒總代三名以上連署スルモノトス但シ土地臺帳記名者ノ異動ニ係ルトキハ本寺法類ノ連署及管長ノ添書ヲ要ス

八 土地所在地ト申請届者ノ住所ヲ異ニスルトキハ氏名ノ傍ニ住所ヲ記載スルモノトス

九 所有者又ハ納稅義務者死亡失踪シタルモノニシテ相續人ヨリ申請届出ツル場合ハ「何某相續人」ト

肩書スルモノトス

一〇 様式ノ地主トアル所ニハ土地所有者又ハ納稅義務者ノ氏名ヲ記載スヘキモノニシテ所有者以外

ノモノニアリテハ「質權者」又ハ「地上權者」ト肩書スルモノトス

一一 宅地ニ在リテハ様式ノ反別欄ニ坪數ヲ記載シ反(町)金欄ニハ百坪當地價金ヲ記入スルモノトス

一二 期限ノ定メアルモノハ其ノ期限内ニ書類ヲ提出セサルトキハ免租其ノ他ノ特典ヲ受クルコトヲ

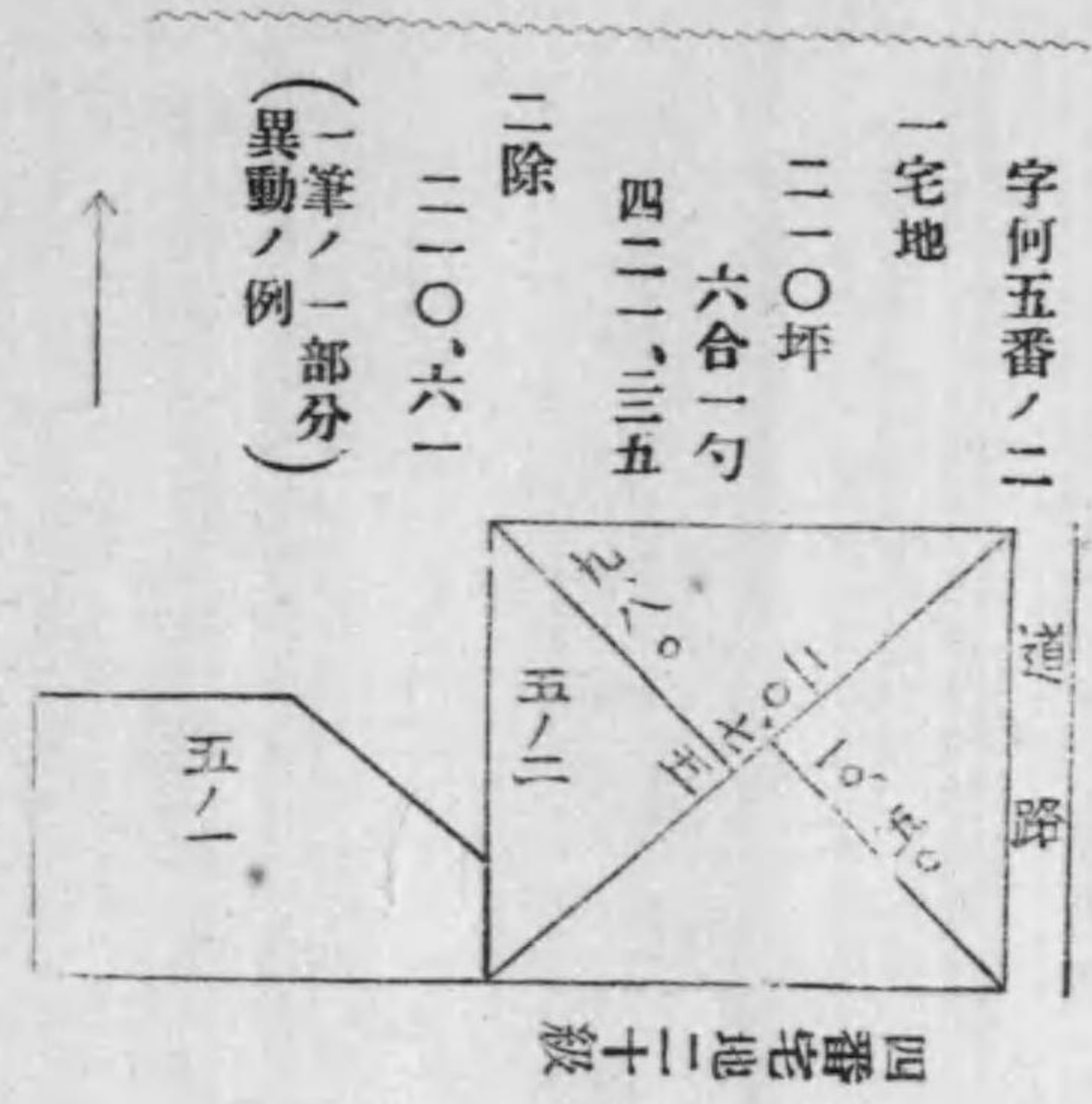
得サルニ至リ或ハ無届トシテ制裁ヲ受クヘキモノナルヲ以テ必ス其ノ期限ヲ誤ラサル様注意スルモ

ノトス

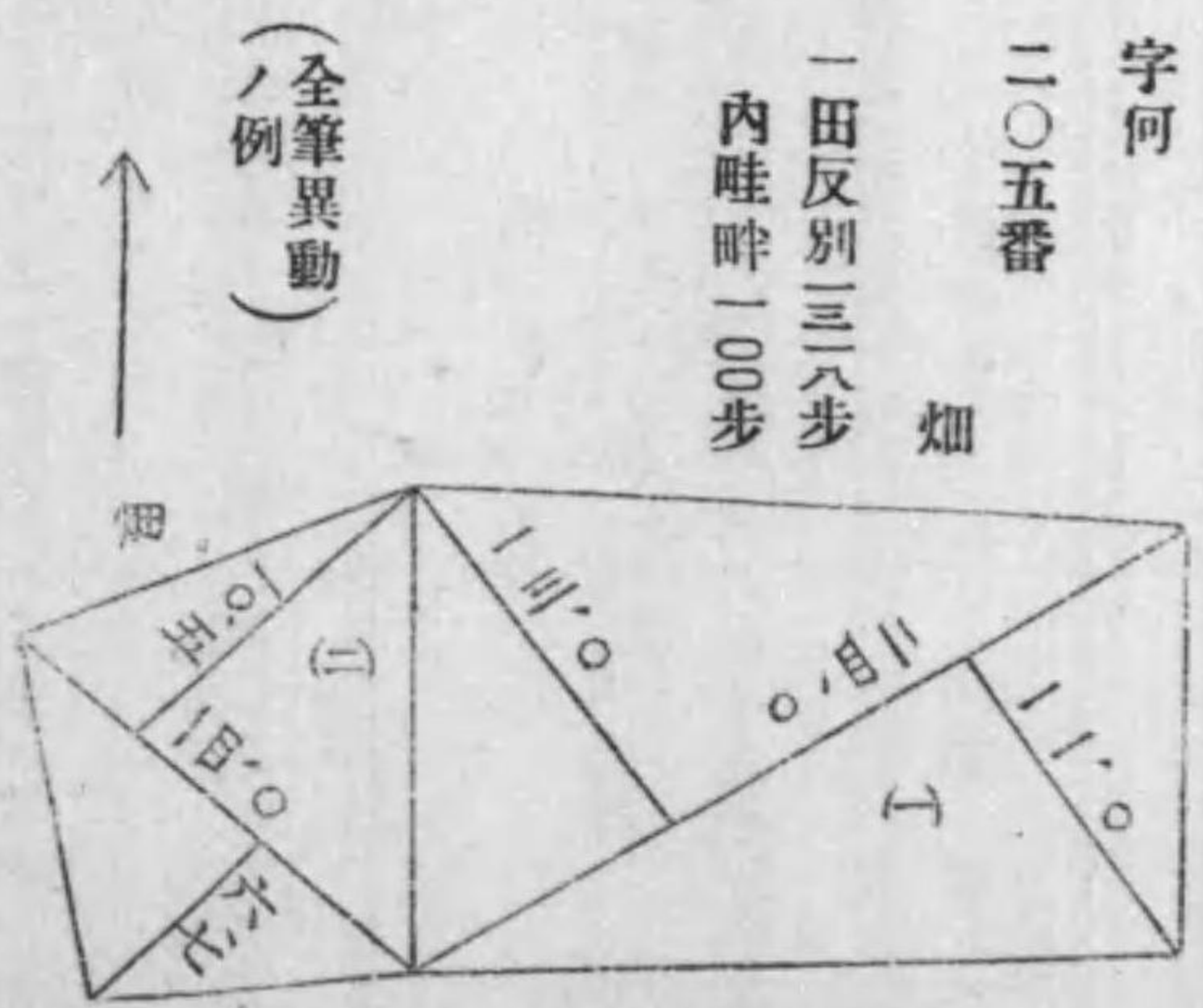
ノトス

- 一三 申請届ハ總テ半紙判ヲ用キ上部ニ約二寸ノ餘白ヲ存スルヲ便トス
- 一四 地租ノ納期ノ内異ナル土地ハ可成連記セサルモノトス

地目變換(何々)測量圖



字何五番ノ二

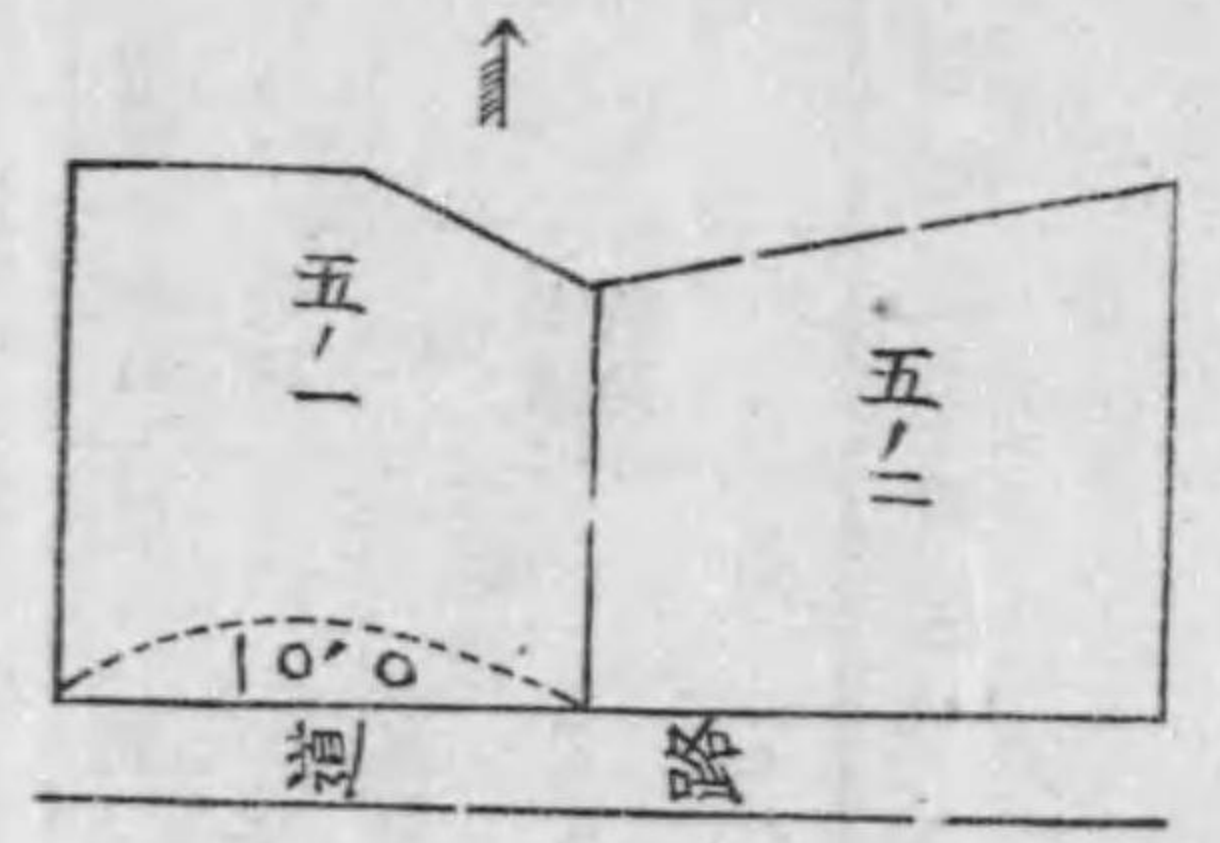


字何

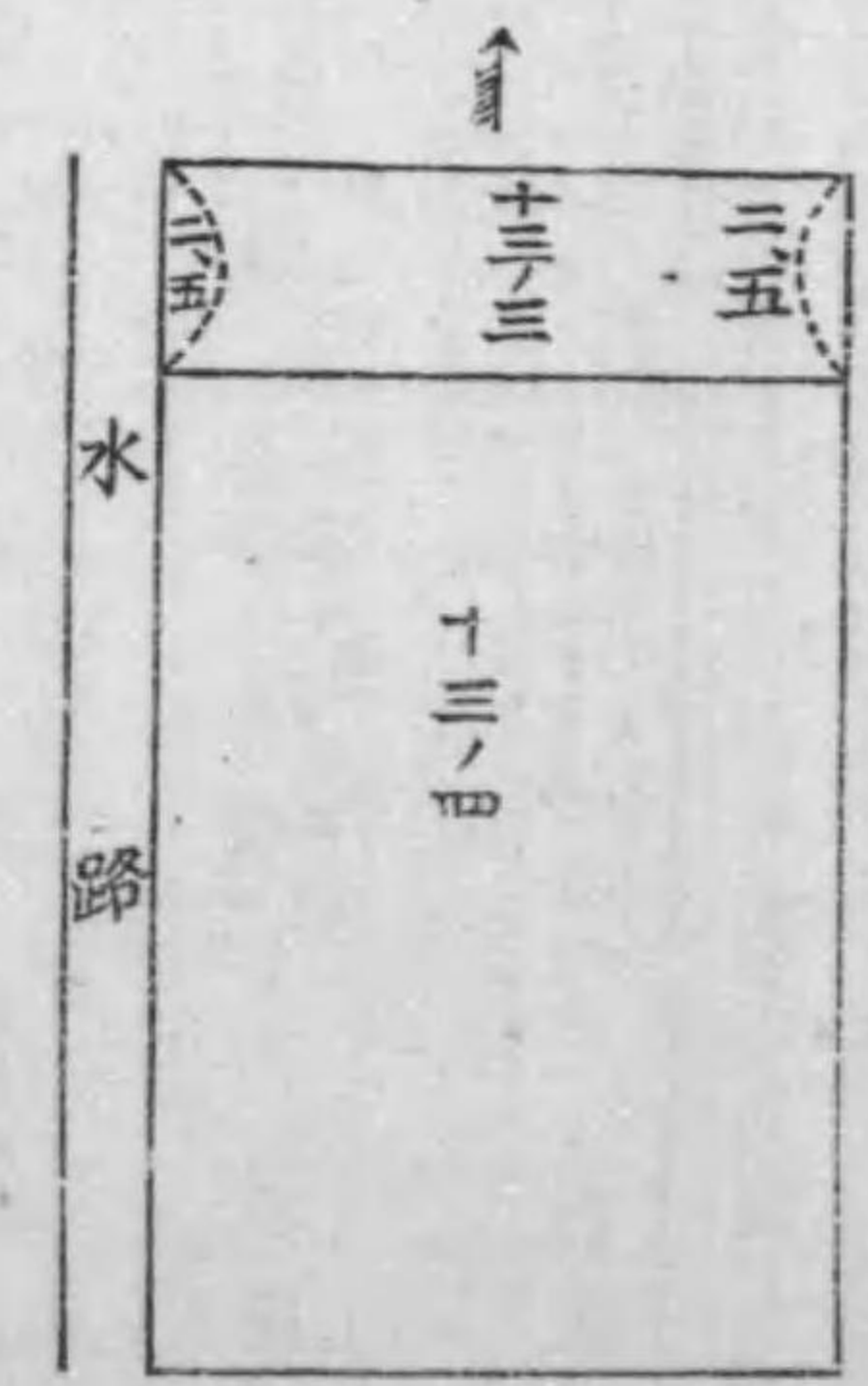
畦畔	長 一一五間	幅二分	面積 三〇、〇分
畦畔	長 七〇間	幅一分	面積 三〇、〇分
計	八一六、八〇	二除	四〇八
(一)	五七六、〇〇		
(二)	二四〇、八〇		

分割地形圖

字何五番



字何十三番ノ三



備考

- 一 分割スヘキ一方ノ土地ノ境界点ノ間數ヲ記載スルモノトス但シ境界点ガ屈曲等ニ依リ明カナル場合ハ之レカ記入ヲ要セス

第一號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

登錄稅千  
分ノ十

有租地成届

(測量圖添付)

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	等級	摘要	登錄稅	地主
何	二五ノ二	道路	〇三二五		反	全字二十一番ニ 比準反別十歩増	三〇	氏名印
何	三	學校敷地	〇三二五	二二〇〇	八	全字三十五番ニ比 準反別二十三歩増	二七〇	氏名印

右地價設定相成度候也

餘二寸  
以下全

第二號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

免租地成届

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	免租地目	摘要	要地	地主
何	五ノ二	畑	〇四〇三	六二八〇	道路	何年何月 工事着手	氏名印	何町(村)長氏名印
何	二三ノ四	田	〇九二五	三三六〇	學校敷地	何年何月 供用	氏名印	何町(村)長氏名印

右免租相成度候也

備考

一 借地ナルトキハ無料借地ナル旨ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

第三號

大正何年何月何日

何 稅務署長殿  
土地分割届

(地形圖添付)  
何郡(市)町(村)大字何

地主 氏名外何名

五四

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	等級	摘	要	地	主
何	五ノ一	畑		〇七九		一一七〇	三			氏	名印
何	五ノ二			〇三六		四八九〇	三				
何	五ノ三	田	外畦畔	〇四三		六二八〇	三			氏	名印
	一三ノ三		内畦畔	〇一〇		二八四〇	二				
	一三ノ四		全	〇九二五		三二六〇	二	反別二十五步増			

右墨書ノ通分割候也  
備考

- (一) 左記事項ハ摘要欄内ニ記載スルモノトス
- (二) 宅地ノ分割ニシテ現地番ヲ存スル必要アルモノハ其ノ事由
- (三) 分割地ニ優劣アル爲地價ニ差等ヲ付シタルトキハ其ノ地價計算ノ方法

第四號

大正何年何月何日

何 稅務署長殿  
土地合併届

何郡(市)町(村)大字何

地主 氏名外何名

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	等級	摘	要	地	主
何	六	全		二五		三七五〇〇	二〇				
何	七	全		八七		二六一〇〇	二〇				
何	八	全		三五		一〇五〇〇	二〇				
何	九	田	外畦畔	二四七		七四一〇〇	二〇			氏	名印
何	五	全	全	〇七四		二〇八三〇	三				
	五		内畦畔	二二五		五六九〇〇	三	合併	反別一畝步増	氏	名印

右墨書ノ通合併候也

備考  
一 宅地ノ合併ニシテ首位以外ノ地番ヲ存スル必要アルモノハ其事由ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス

五五

第五號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

地 目 (地 類) 變 換 届

(測 量 圖 添 付)

何 郡 (市) 町 (村) 大 字 何

地 主 氏 名 外 何 名

登 錄 稅  
千 分 ノ 十

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	反	等	摘	要	登	錄	稅	地	主
何	五	畑				一五九〇	三								
内															
	五ノ二	畑				八六三〇									
		宅地				六三一八〇		二〇	今字四番ニ比準 坪數六合一勺増					六四〇氏	名印
	五ノ一	畑				七二九〇	三		殘地						
何	二〇五	畑				一五三八〇									
		田	内畦畔			四三五一〇	五	三三〇〇	今字二〇四番ニ比準 反別一畝廿三步増					四四〇氏	名印

右墨書ノ通地目(地類)變換候也

第六號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

地 目 變 換 地 價 据 置 (開 墾 跡 下、耕 地 整 理 地 價 据 置) 年 期 願

何 郡 (市) 町 (村) 大 字 何

地 主 氏 名 外 何 名

登 錄 稅  
千 分 ノ 十

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	地	目	年	期	登	錄	稅	地	主
何	二五	畑				一六三三〇		田	自	何年				一七〇氏	名印
全	二六	全				三三八〇	全	全	至					二三〇氏	名印
全	三〇	全				一〇八〇	全	全						二〇氏	名印

右ノ通年期付與相成度候也

備 考

一 耕地整理地價据置年期願ハ登録稅ヲ要セス又全年期願ニハ登録稅欄ヲ摘要欄トシ開墾ハ工事着手ノ年月地目變換ハ工事完了ノ年月ヲ記載スルモノトス

第七號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ十

地價据置年期  
開墾下年期、開拓下年期、新開  
免租年期、耕地整理地價据置年期、延長願  
耕地整理新開免租年期

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	元年期	延長年期	登錄稅	地	主
何	二五	田		〇五五		一六三〇	自何年	自何年	一七〇	氏	名印
全	二六	全		〇八五		三六〇	全	全	二三〇	氏	名印
全	三〇	全		〇三八		一〇八〇	全	全	二〇	氏	名印

右之通年期延長相成度候也

備考

一 耕地整理地價据置年期及耕地整理新開免租年期ノ延長願ハ登錄稅ヲ要セス

第八號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ十

開墾 届

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	開墾目的	着手ノ時	登錄稅	地	主
何	五〇	山林		五八五		八〇〇	畑	何年何月	一〇	氏	名印
何	二八	原野		一四〇六		五二〇	田	全	一〇	氏	名印
何	二三	田		五〇八		五二〇	全	全	一〇	氏	名印

右開墾着手候也

第九號

大正何年何月何日

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ十

何 稅務署長殿  
開墾成功届

(測量圖添付)

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	等級	摘	要	登錄稅地	主
何	三三原野	田	五三〇〇 二二二	五二〇	一 二	大正何年着手			
何	六六原野	内畦畔	一〇四六 二二二	三二〇	三	大正何年着手	字同五十一番二比準 反別二畝一歩増	一四四〇氏	名印
内	二六ノ三原野	畑	四〇九	二二〇					
	二六ノ一原野	畑	四〇九	五七五〇	一 三	全字二十八番 二比準		五六〇氏	名印
	二六ノ一原野	草生野	六二七	三二〇	三	殘地			

右墨書ノ通成功候也

第十號

大正何年何月何日

地主 氏名外何名

登錄稅  
開墾千分ノ十  
修正千分ノ十

何 稅務署長殿  
無届開墾成功届

(測量圖添付)

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	等級	摘	要	登錄稅地	主
何	五八山林	畑	五八二五 六三七	八八〇	一〇	大正何年着手			
何	六六原野	草生野	一〇三六	五二〇	三	同年成功同字五十六番二比準 反別五畝十二歩増		六八〇氏	名印
内	二六ノ二原野	畑	四二〇九	二二〇	八	大正何年着手		一〇	
	二六ノ二原野	畑	四二〇九	五七五〇	一 三	大正何年成功同字廿八番二比準		五六〇氏	名印
	二六ノ一原野	草生野	六二七	三二〇	三	殘地(廢止)			

右無届開墾成功候ニ付地價修正相成度候也



第十一號

大正何年何月何日

何稅務署長殿  
開墾廢止届

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	開墾着手ノ時	地	主
何	二五	山林		二五二五		四〇	何年何月	氏	名印
何	三〇	山林		五八三		八九〇	全	氏	名印
全	三原野			〇七五		二一〇	全	全	人印

右開墾廢止候也

第十二號

大正何年何月何日

何稅務署長殿  
開墾目的變更届

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別	當初ノ目的	變更目的	開墾着手ノ時	地	主
何	五〇	山林		五八二五	畑	宅地	何年	氏	名印
全	三原野			一〇四〇六	田	畑	何年	氏	名印
全	三全			五〇八	田	畑	何年	氏	名印

右開墾ノ目的變更候也

第十三號

大正何年何月何日

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ二十

何 稅務署長殿  
開拓 鐵 下 年 期 願

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	反等	摘	要	年	期	登	錄	稅	地	主
何	六五八	新開地	一五七	二五〇〇	五	大正何年何月何日埋立(干拓)民有	至何年	四八〇	氏	名	印			
全	七〇〇〇	田	七〇〇〇	一〇九〇〇	五	全字三十番ニ	至何年	九五〇	氏	名	印			
全	七〇〇〇	田	七〇〇〇	一〇九〇〇	五	全字三十番ニ	至何年	九五〇	氏	名	印			

右墨書ノ通年期付與相成度候也

第十四號

大正何年何月何日

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ二十

何 稅務署長殿

新開免租年期(耕地整理新開免租年期)願

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	假地價	摘	要	年	期	登	錄	稅	地	主
何	五七九	新開地	一五七	二五〇〇	五	大正何年何月何日埋立(干拓)民有	至何年	四八〇	氏	名	印		
何	五八〇	同	三五四	五二〇〇	同	同	同	一〇四〇	氏	名	印		

右之通免租年期付與相成度候也

備考

一 耕地整理新開免租年期願ハ摘要欄ニ「何年何月何日埋立(干拓)民有」ト記載スルモノトス又全年期願ニハ假地價及登錄稅ヲ要セス

第十五號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

荒地(造林地)免租年期願

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	摘	要	年期	地	主
何	三七二	畑		〇七九	二六〇	大正何年何月何日 何川洪水川成	自何年	氏	名印
全	三七二	全		一五〇〇	三九五	全 石砂入	自何年	氏	名印
全	三九五	全		一八〇九	二八〇〇	全 川欠	自何年	氏	名印

右ノ通免租年期付與相成度候也

備考

造林地ノ場合ニ於テハ摘要欄ニ植樹ノ時及其ノ種類ヲ記入スルモノトス

第十六號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

再荒地租年期願

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	元年期	再	摘	要	地	主
何	三七二	畑		〇七九	二六〇	自何年 石砂入免租至何年	自何年	何川洪水川欠	氏	名印
全	三七二	全		一五〇〇	三九五	全	全	全	氏	名印
全	三九五	全		一八〇九	二八〇〇	全 川欠免租	全	全	氏	名印

右之通免租年期付與相成度候也

第十七號

大正何年何月何日

何稅務署長殿  
荒地免租繼年期願

地主 氏名外何名

字(地割)	地番	地目	反別	地價	元	年	期	繼年期	地	主
何	三七二	畑		〇七九	二六八〇	自	何年	繼年期	氏	名印
全	三七三	全		一五〇〇	三九五〇	全	全		氏	名印
全	三九九	全		一八〇九	二八〇〇	全	全		氏	名印

右之通免租繼年期付與相成度候也

何郡(市)町(村)大字何

第十八號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

地主 氏名外何名

登錄稅  
千分ノ一

荒地免租年期明變換起返屆(低價年期明變換起返屆・原地測量圖價ニ復セサレ低價年期明屆ニ添付)

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反別	地價	元	年	期	繼年期	地	主
何	二五	田	二八八	六五七八〇	一〇					
內	二五ノ二	田	二〇六	二八〇六〇						
	二五ノ一	田	二〇六	一三八一〇	五				二〇氏	名印
全	二六	田	一〇七	二五〇七〇	一〇				四〇	
	二六	畑	二〇六	一三〇六	五				二〇氏	名印
	二六	畑	二〇六	一三〇六	五				二〇氏	名印
	二六	畑	二〇六	一三〇六	五				二〇氏	名印

右墨書ノ通地價修正相成度候也

第十九號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

川、(海)、(湖)成届

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別地	價	年	期	氏	名
何	三九五	畑		一八〇九	二八〇〇	自	何ヶ年	氏	名印
全	三九六	畑		〇九一五	一四五四〇	全		氏	名印
全	三九八	田		一一〇〇	三五八六〇	全		氏	名印

右之通川(海)(湖)ニ歸シ候也

第二十號

大正何年何月何日

何稅務署長殿

低價年期願

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

字(地割)	地番	地目	反	別地	價	低減地價	摘	要	登錄稅	地	主
何	三七二	畑		〇七一九	二六八〇	八二八〇	自何年何月何日何稅租年期	何年何月何日何稅租年期	一〇	氏	名印
全	三七二	全		一五〇〇	三九五〇	一六七〇	全	全	二〇	氏	名印
全	三八五	全		〇八〇九	二七〇〇	六三五〇	全	全	一〇	氏	名印

右之通年期付與相成度候也

第二十一號

大正何年何月何日

何 稅務署長殿

砂防地々租免除願

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

何	何	字(地割)	地番	地目	反	別	地價	地租	地減スヘキ租	摘	要	地	主
何	三九六	畑	〇六八	〇七二	〇七二	〇七二	七五〇	三三〇	〇八〇	〇八〇	大正何年何月何日指定	氏	名印
何	三九五	畑	〇六八	〇七二	〇七二	〇七二	七五〇	三三〇	〇八〇	〇八〇	大正何年何月何日指定	氏	名印
何	三九六	畑	〇六八	〇七二	〇七二	〇七二	七五〇	三三〇	〇八〇	〇八〇	大正何年何月何日指定	氏	名印

右免租相成度候也

第二十二號

大正何年何月何日

何 稅務署長殿

砂防地々租輕減願

地主 氏名外何名

何郡(市)町(村)大字何

何	何	字(地割)	地番	地目	反	別	地價	地租	地減スヘキ租	摘	要	地	主
何	五〇二	畑	〇六八	〇七二	〇七二	〇七二	七五〇	三三〇	〇八〇	〇八〇	大正何年何月何日指定	氏	名印
何	五〇二	畑	〇六八	〇七二	〇七二	〇七二	七五〇	三三〇	〇八〇	〇八〇	大正何年何月何日指定	氏	名印

右之通地租輕減相成度候也

第二十三號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

反 別 誤 謬 訂 正 願 (測量圖添付)

地 主 氏 名 印

何 郡 (市) 町 (村) 大 字 何

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價		摘	要
						反	等		
何	一五	田		〇七七		二七六五〇	三		
				二二五		四七五〇	三	明治何年丈量誤謬	(何々)
何	八〇	山林		二五八〇六		六四五〇	二		
				三七二八		九四一〇	二		
								全	上 (何々)

右誤謬發見致候ニ付墨書ノ通り訂正相成度候也

右ノ土地ニ對スル境界ニ付キ異議無之候也

全 隣 地 主 氏 名 印  
氏 名 印

第二十四號

大正何年何月何日

何 稅 務 署 長 殿

地 圖 誤 謬 訂 正 願

地 主 氏 名 外 何 名

何 郡 (市) 町 (村) 大 字 何

字(地割)	地番	地目	摘	要	地	主
何	一	田	何々ノ際何々ニ依リ誤謬		氏	氏 名 印
全	二	全	全		氏	氏 名 印
全	三	全	全		氏	氏 名 印

右之土地ニ對スル字限地圖ハ別紙甲圖ノ通相成居候處實地ハ乙圖ノ通ニ付御訂正相成度候也

右ノ土地ニ對スル境界ニ付キ異議無之候也

隣 地 主 氏 名 印

甲圖(誤謬圖) 乙圖(訂正圖)ヲ添付スルモノトス





第二十七號

大正何年何月何日

何郡(市)町(村)何耕地整理組合長

何 稅 務 署 長 殿

氏 名 印

耕地整理届 (現形圖添付)

何郡(市)町(村)大字何

一 整理施行(設計變更)認可月日

大正何年何月何日

二 工事着手豫定月日

大正何年何月何日

三 竣功豫定 月 日

大正何年何月何日

四 耕地整理地左記ノ通

字(地割)	地番	地目	反	別	地	價	字(地割)	地番	地目	反	別	地	價
何	二	田				〇五〇八	何	一五	田				四〇〇〇
全	三	全				二二六	全	一九	畑				一七三〇
全	三	全				〇七三	全	二〇	全				七四〇
全	四	全				〇五二八	全	三	田				三三〇八〇
						一七九二〇							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							
						三五八四〇							
						二六八〇							
						〇七三							
						〇五二八							
						二七九二〇							
						二六八〇							

第二十八號

大正何年何月何日

何郡(市)町(村)何耕地整理組合長

氏 名 印

何 稅 務 署 長 殿

耕地整理工事着手(完了)届

大正何年何月何日施行認可ニ係ル何郡(市)町(村)何耕地整理何月何日工事着手(完了)候也

第二十九號

大正何年何月何日

何郡(市)町(村)何耕地整理組合長

氏 名 印

何 稅 務 署 長 殿

耕地整理竣功地價配賦申請 (確定圖添付)

從前ノ土地

何郡(市)町(村)大字何

合 計		何	全	全	全	何	字(地割)
何筆	何筆	何筆	何筆	何筆	何筆	何筆	地 番
畑	田	畑	田	畑	田	畑	地 目
、	、	、	、	、	、	、	反
、	、	、	、	、	、	、	別
、	、	、	、	、	、	、	地
、	、	、	、	、	、	、	價
、	、	、	、	、	、	、	反等
、	、	、	、	、	、	、	金 級
、	、	、	、	、	、	、	摘
、	、	、	、	、	、	、	要
、	、	、	、	、	、	、	地
、	、	、	、	、	、	、	主
、	、	、	、	、	、	、	氏 名
							三三
							〇九三
							〇〇三
							二六七八〇
							二五九五〇
							二〇五〇〇



何					合	同字 地九
某				計		
湖	原野	畑	田		計	湖
五,000	一	計 三	計 三	五,000	五,000	全
	二五二〇	一七〇〇	一六三〇	八二五〇		一田
		計 三	計 三	八,000		二
		二八二五	二八二五	五,000		
		二八二五	二八二五	一五〇〇		
		二八二五	二八二五	一五〇〇		

内		土地所有者數	從前ノ土地又ハ水面ノ面積	換地ノ面積	徵	收	交	付
地目	單位							
田	計 三							
	二							

總計

譯	
々何	畑
	計 三
	二
	一

備考

- 一 埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ字、番號ナキモノニ付テハ其ノ位置ヲ字欄ニ記載スヘシ
- 二 土地所有者ニ非スシテ整理施行者又ハ組合員タル者ノ住所、氏名若ハ名簿及權利ノ種類ハ記事欄ニ之ヲ記載スヘシ
- 三 耕地整理登記令第七條ノ二ノ場合ニ付テハ記事欄ニ之ヲ記載スヘシ
- 四 従前ノ土地ノ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルモノハ従前ノ土地ニ在リテハ面積欄内ニ其ノ面積ヲ、換地ニ在リテハ面積欄内ニ其ノ符號及面積ヲ括弧ヲ附シテ併記シ且其ノ權利及處分ノ制限ノ種類ヲ記事欄ニ記載スヘシ
- 五 従前ノ土地各筆ノ價額若ハ等位ヲ評定シ又ハ面積ヲ實測シ其價額、等位又ハ面積ヲ標準トシ